

廣島案内記

附嚴島



緒言

予は屢に「廣島繁昌記附嚴島」を著す、蓋廣島及嚴島の地理景勝を示道
 且その版圖の狀態を紹介するに外ならず、由來我が廣島は交通頻繁
 にして百貨の集散頗る夥く、而して史材亦甚だ豊富なるにも拘らず、
 從來未だ曾江との類の著作のなかりしは、又以て此地の一缺点ならず
 せせず、是れ予の自ら揣らず曩日の著ありし所以なりき
 然るに曩の繁昌記や紙數大に嵩み、行旅携帶に不便なしとせず、加之
 書肆既にその第一版を盡して今や一本を餘さず、今回新にこの著を起
 すや曩の元を省きて簡且明にし更に訂校して、以て袖中行覽の便を計
 るを要としたりき、題は異れりと雖も則以て廣島繁昌記の第二版とな
 さんなり

予は屢に廣島の人、自家の事は隣人に能く知られ、我里の事は却て他郷
 の人能く之を認む、豈予れ能く郷里を識ると誇らんや、然れども世間
 に貢献せんとするの志に於て、敢て他人に譲らざるを自認する者なり
 一配述の順序は案内に便にするの方針にて、概ね市街の順路より筆を進
 めたり、而して主とする所は現在を知らしむるにありと雖も、尙古き
 を温ねて新しきを知らんは世人の希望なるべきが故に、今は全くその
 形體を存せざるものをもまゝ、之を収録したりき

明治三十四年十二月

緒言

編者識

廣島案内記目次

廣島の地誌	一
廣島の市街	一
廣島の繁昌	一
廣島の交通	一
廣島の名所	一
最東部	一
東部	一
中央部	一
中部	一
西部	一
最西部	一
廣島の四季	一
勸工場	一
劇場	一
寄席	一
藝妓會廊	一
遊藝會廊	一
嚴島案内	一
商店案内	一
附録	一
..... 諸會社	一
..... 銀行	一
..... 辨護士	一
..... 醫士案内	一

大郵便定期臺灣航路汽船出帆御披露

門司、長崎、寄港台灣 基隆行 毎月六日、十六日

二十六日、三回午后四時 宇品港出帆

台灣沿岸各港行、基隆 二於テ接續ス

但荷物、每回出帆前日 午后四時限之切 致候

神戸行、毎月九日、十九日、二十九日、

三回正午十二時宇品港出帆 横濱、東京行、神戸ニ於テ接續ス

大阪商船株式會社臺灣線船

專屬取扱店長 沼回 漕部

平素御引立てと蒙り奉拜謝候

廣島市大手町三丁目 旅館 長沼本店

全 長沼回漕部

全 長沼回漕部

全宇品港大阪所船株式 長沼回漕部出張所

會社支店內 長沼第一支店

全宇品町海岸通三丁目 旅館兼 長沼第二支店

全廣島停車場前 運送業 幾久しく御愛顧蒙り度祈是候

筆用御衛官諸軍海陸

商標 寶 登録



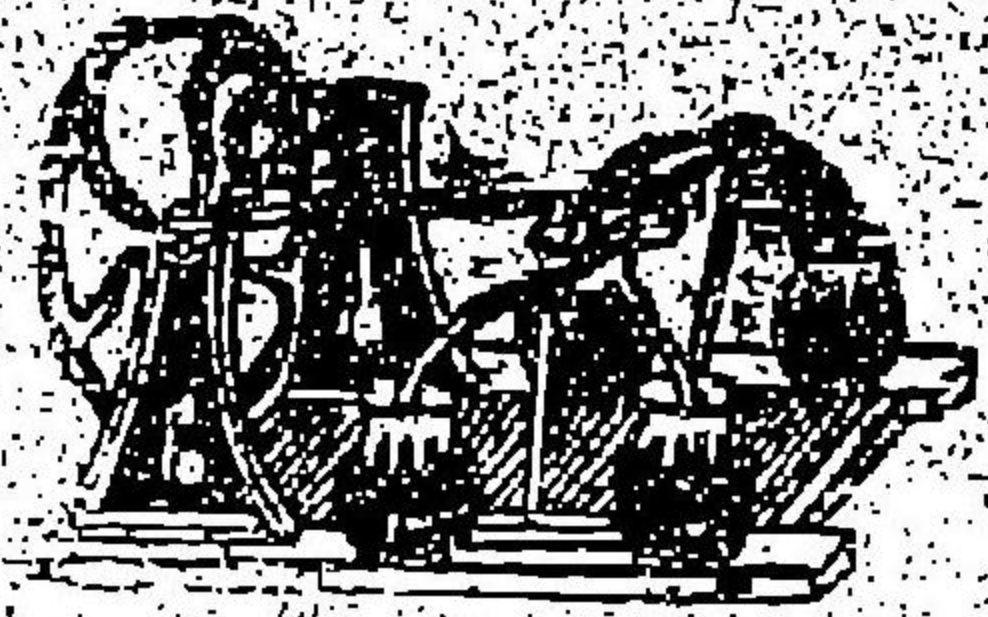
社名合木保久

側北町本島中市島廣

取次販賣所は全國到る處にあり
取次販賣御望の方には便利御取引すべし

御求めの節は登録商標 寶 印に御注意
贈送を乞ふ

國內工匠藝博覽會獲賞下賜



特許

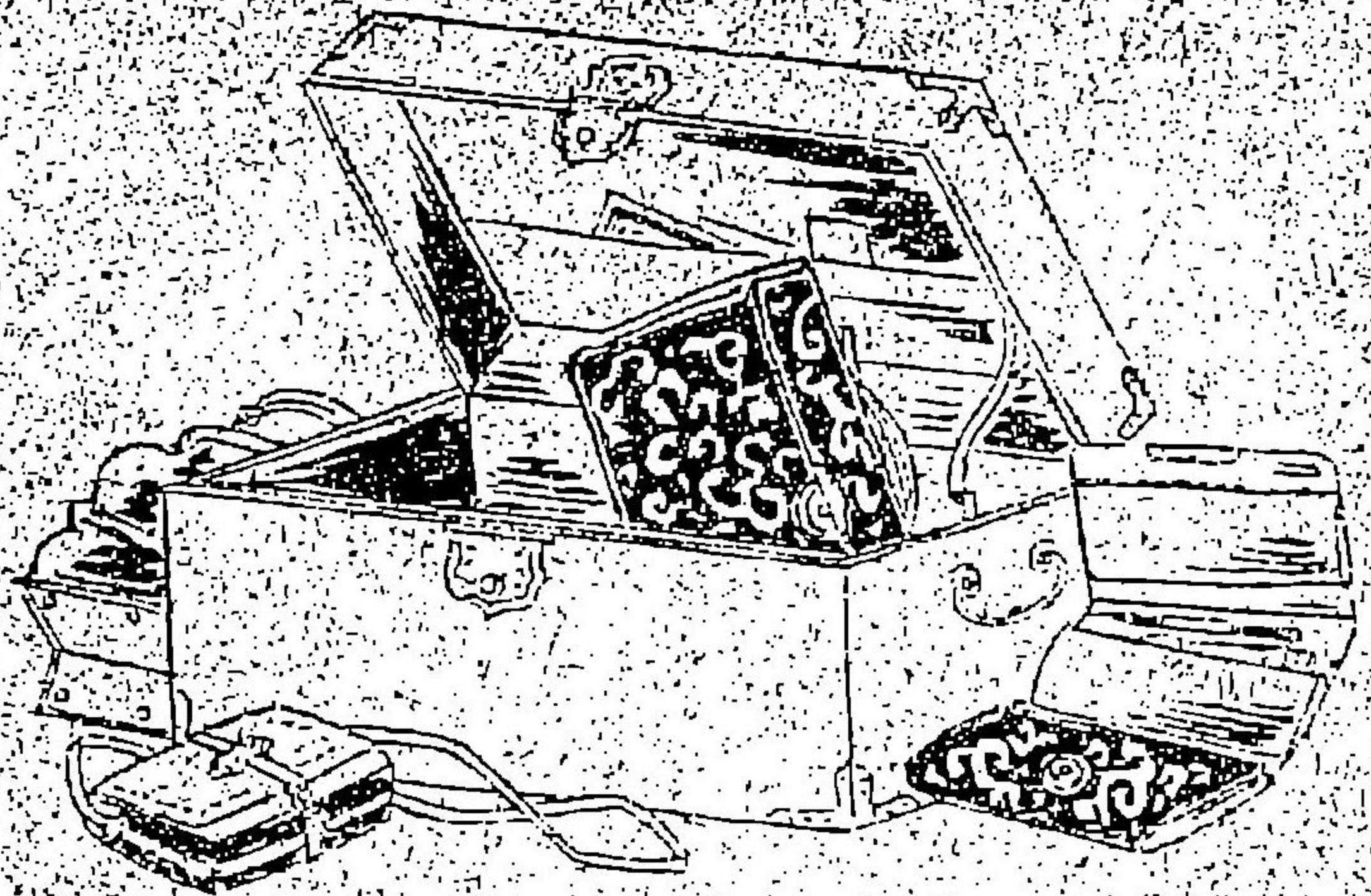
精穀機

本機ハ輕便ニシテ米麥ヲ迅速ニ精白
 スルコト世界無比ナリ其成績最モ美白
 ニシテ搗減極テ些少ナリ該機ヲ運轉
 セシムル原動機ハ水車力、蒸氣力、電氣
 力、瓦斯力等適當ナリ弊店ハ本精穀機
 數臺ヲ据付水力電氣力ヲ應用シ毎日
 運轉致居リ候間望ノ御方ハ御來覽ア
 リタシ且右ニ付御問合ハ郵券三錢添
 付御照會アレ即時回答ス

廣島市段原村

機械精米所

三三報館



弊商會儀中國地は勿論四國九州台灣朝鮮
 其他各地方華主諸彦の御引立に預り日増
 に繁榮に赴き候に就ては自今倍々職工を
 砥礪し材料を精進し各種靴の良成を期し
 候尙這般**手提靴の製造に大**
に擴張を加へ候間同種は元より各
 種共奮倍御引立の程奉祈上候敬白

- 製造種目
- ◎手提靴 ◎支那靴 ◎折靴
 - ◎拖靴 ◎學校生徒用靴
 - ◎底折靴 其他種々

廣島市塚本町

田村商會

廣 饅

マシロヒ | カワヤ丁

有末支店 | 山陽堂

島 頭

下田六郎

丸山 山

有末支店

吳服 業

○ 船 具
○ 杖 木 販 賣
○ 豐 島 石

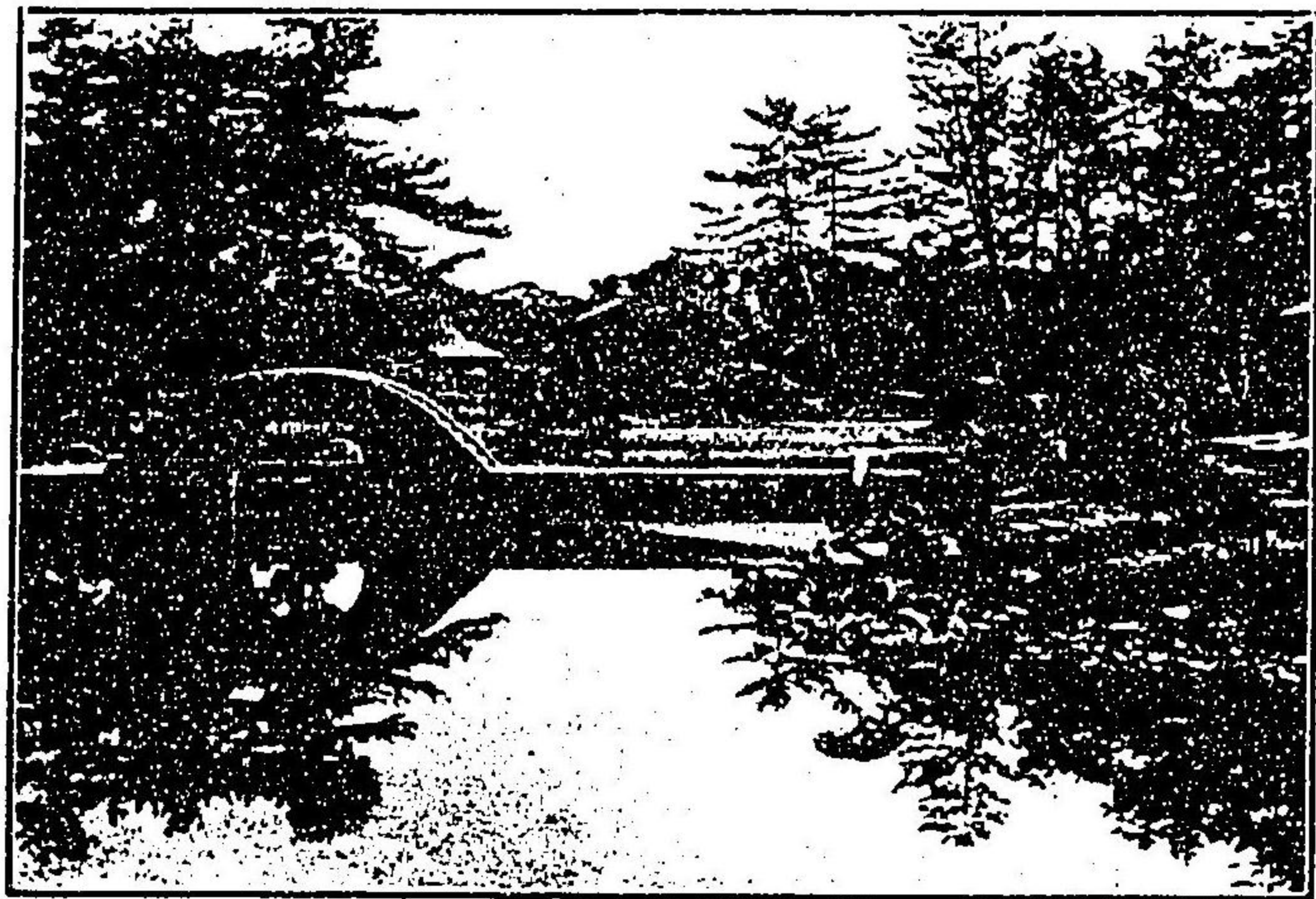
廣島市天神川(新橋詰)



田 中 藤 吉

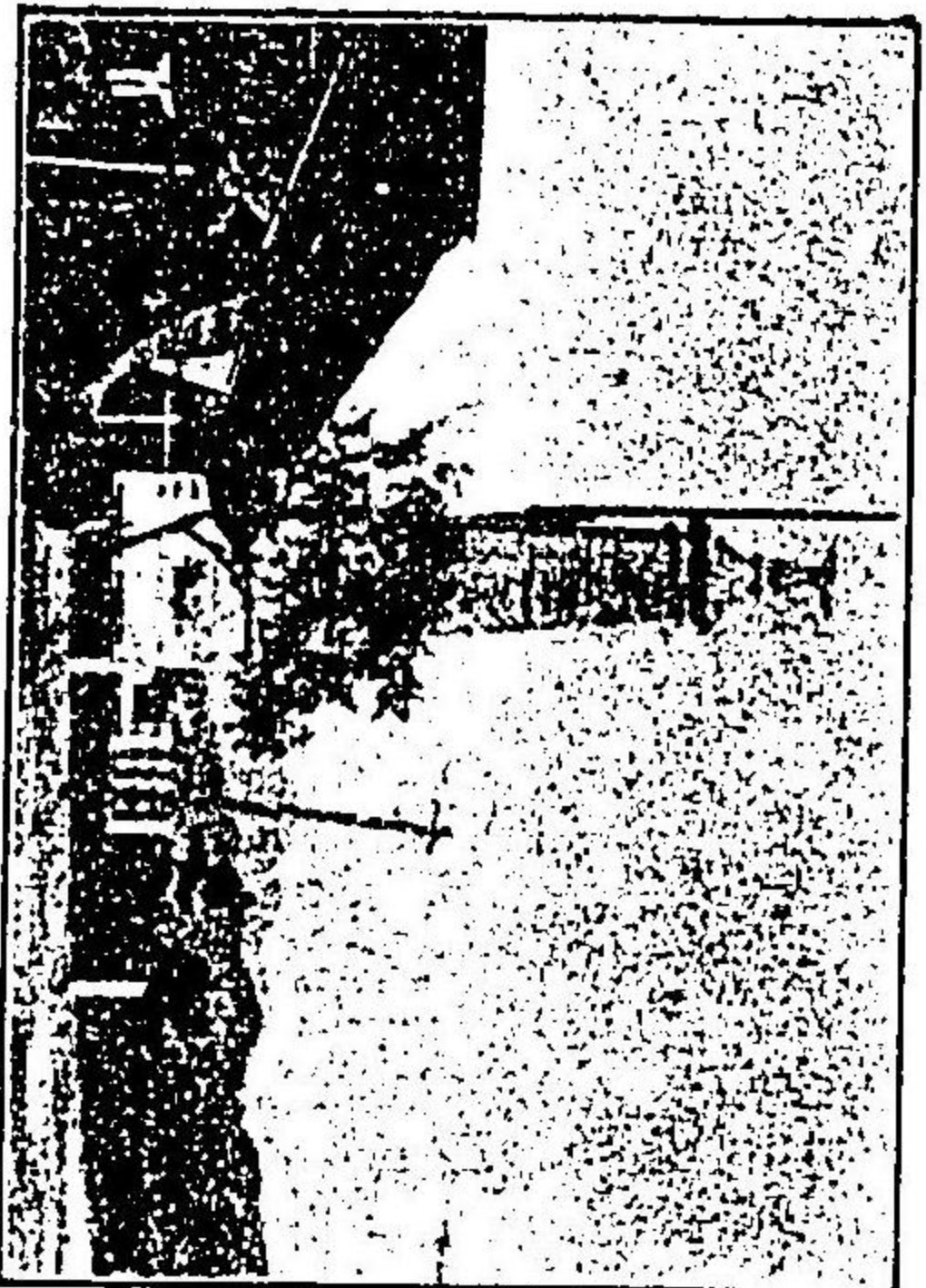


舊大本營 天守閣

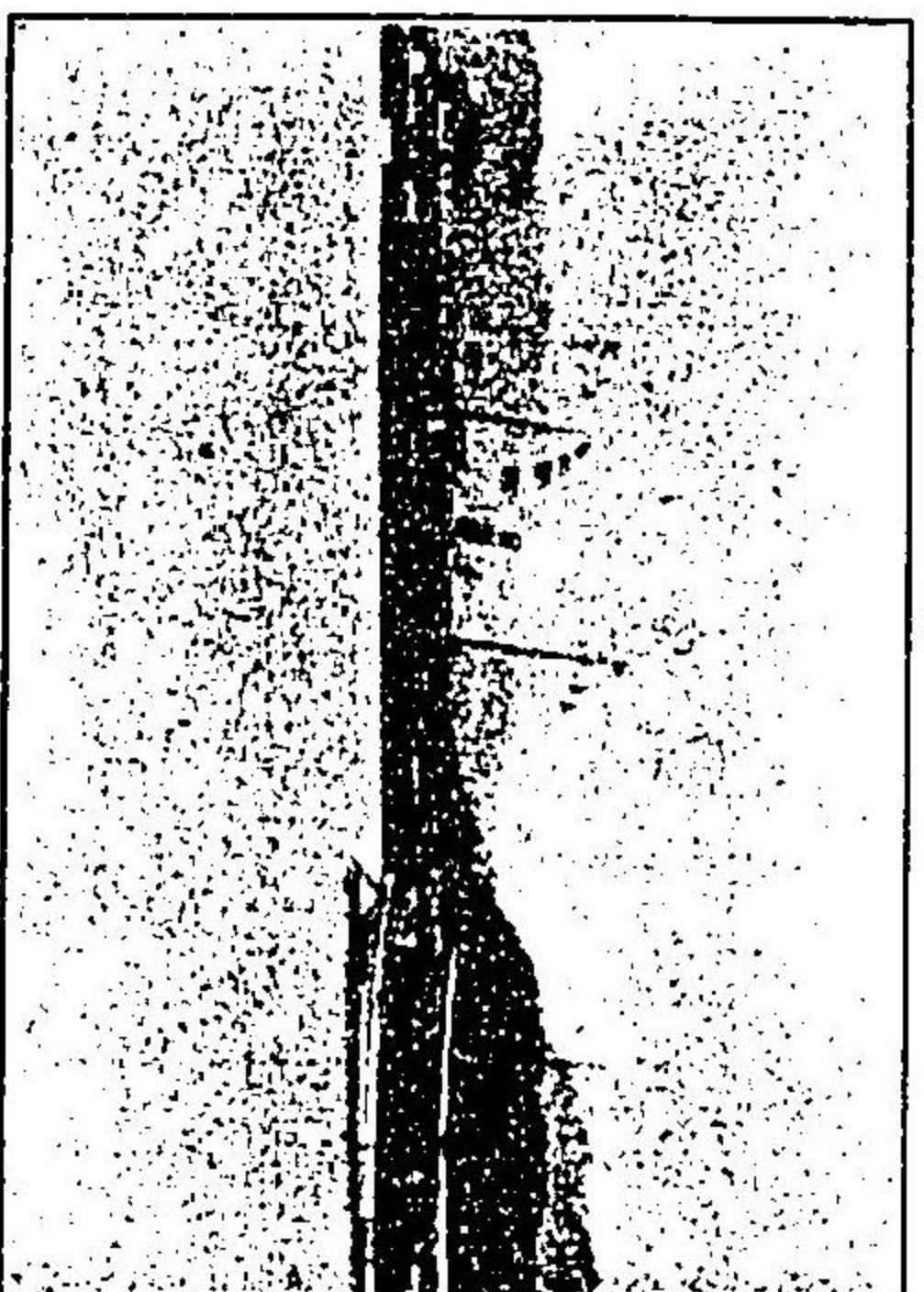


縮泉園

小川一眞製版印刷



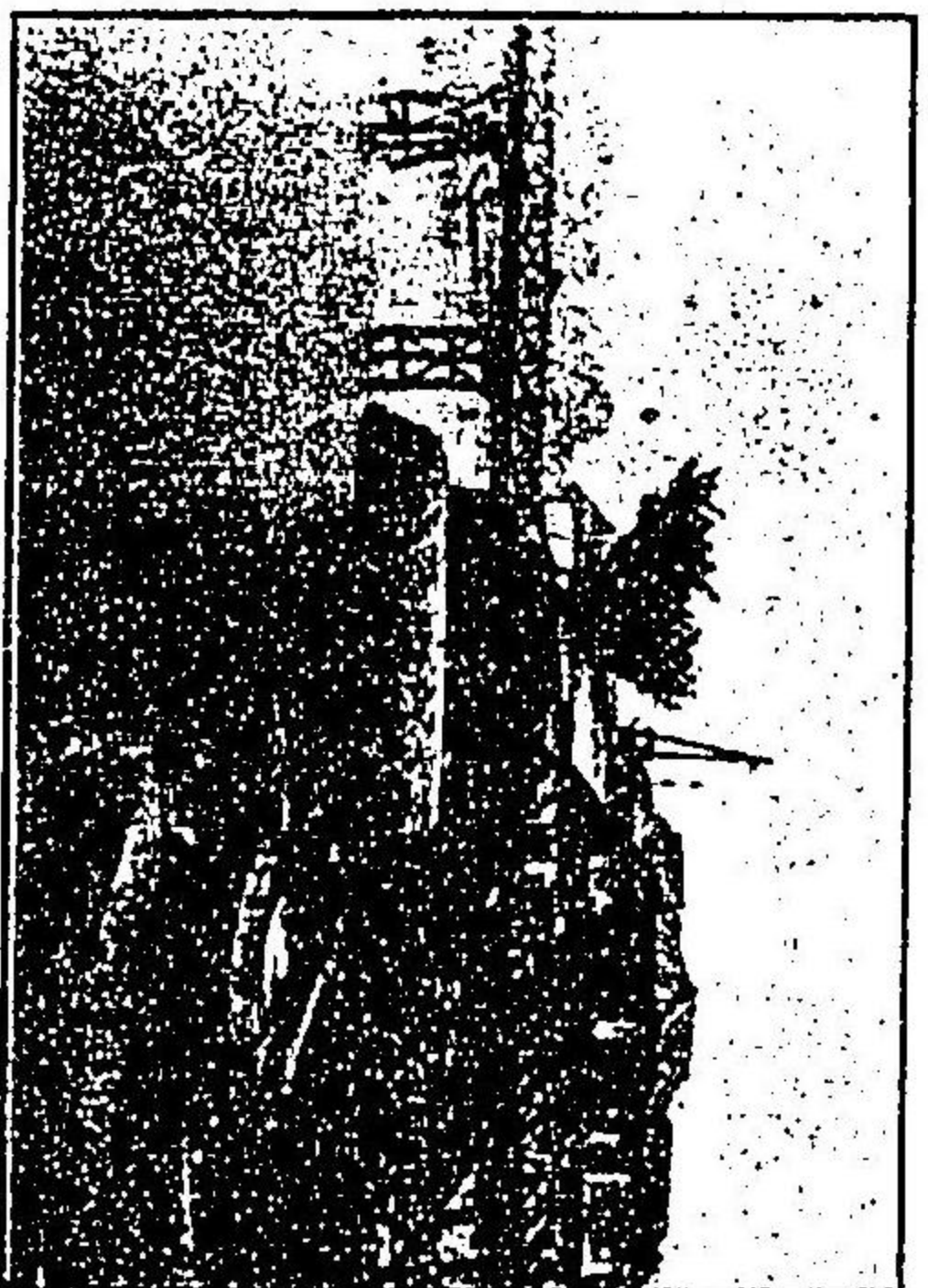
碑 旋 凱



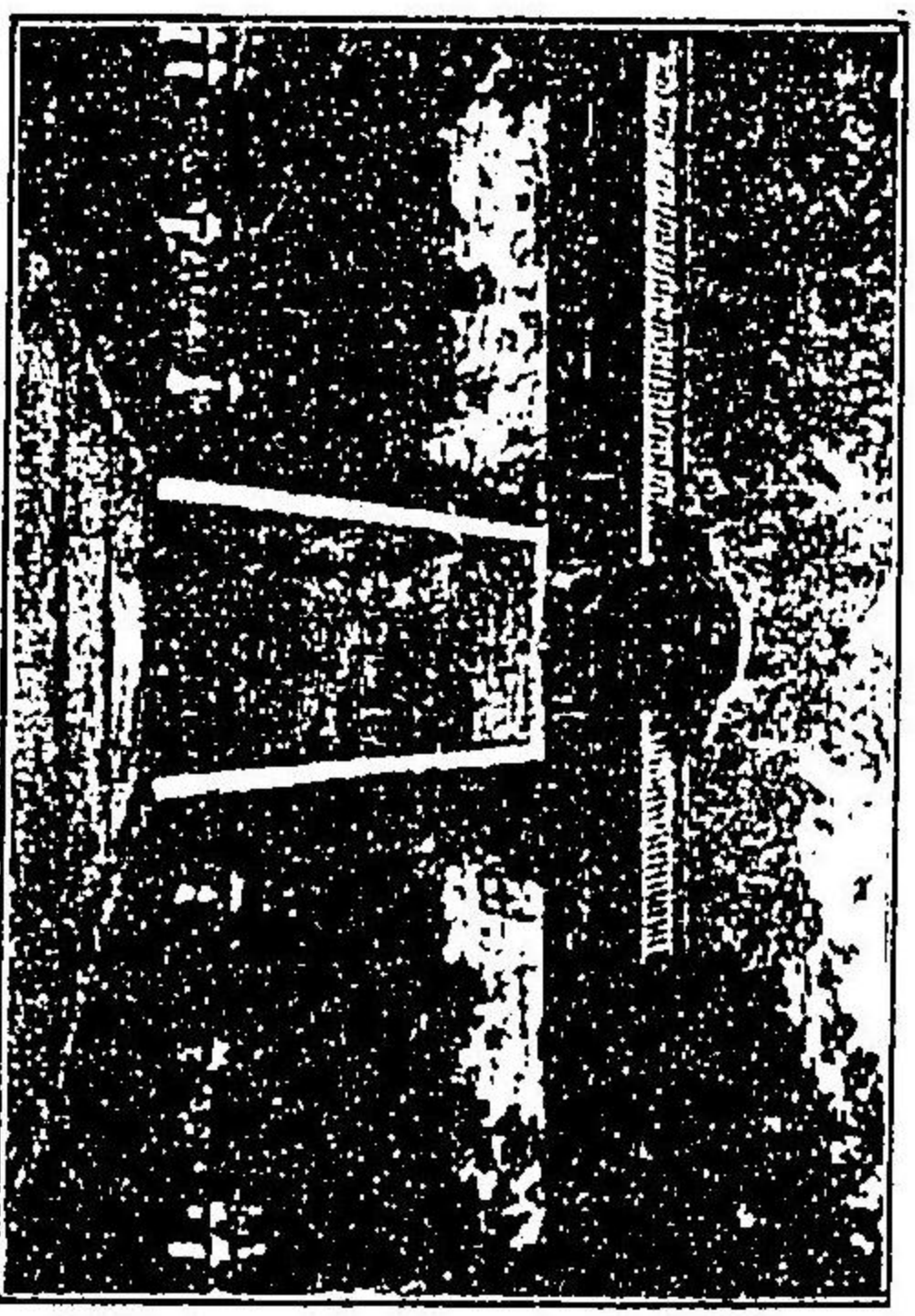
港 品 字



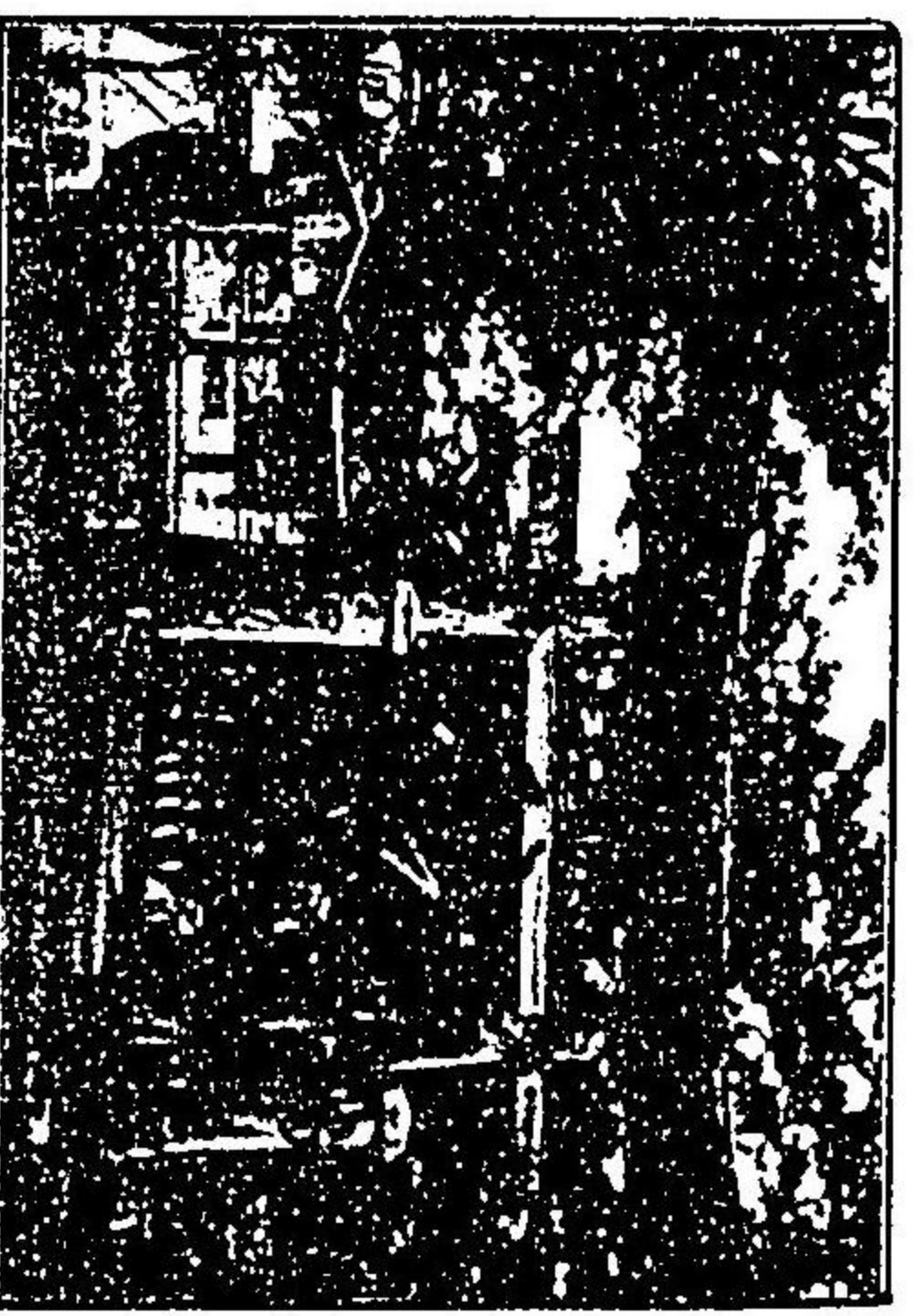
橋 生 相



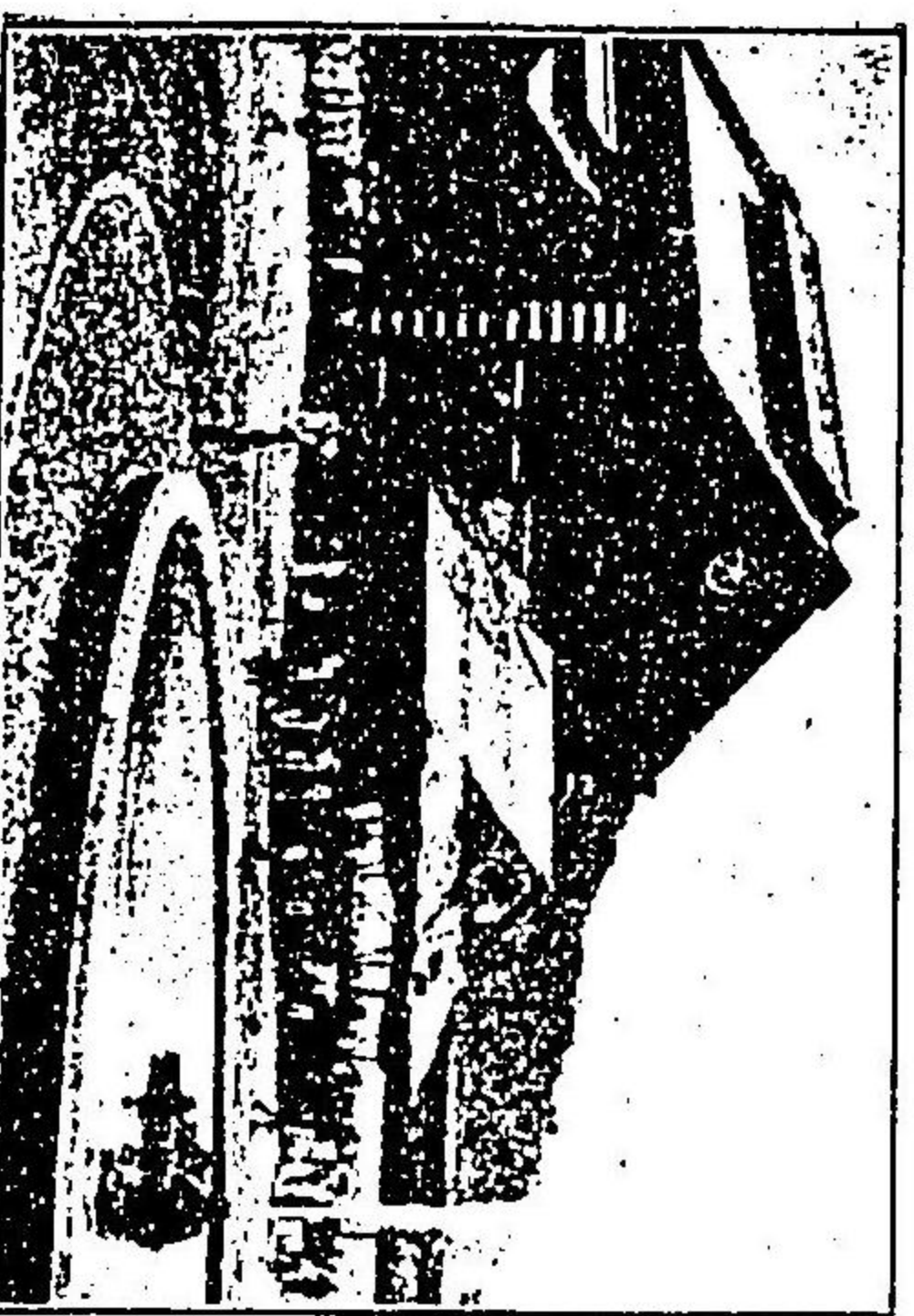
橋 川 本



宮 照 東



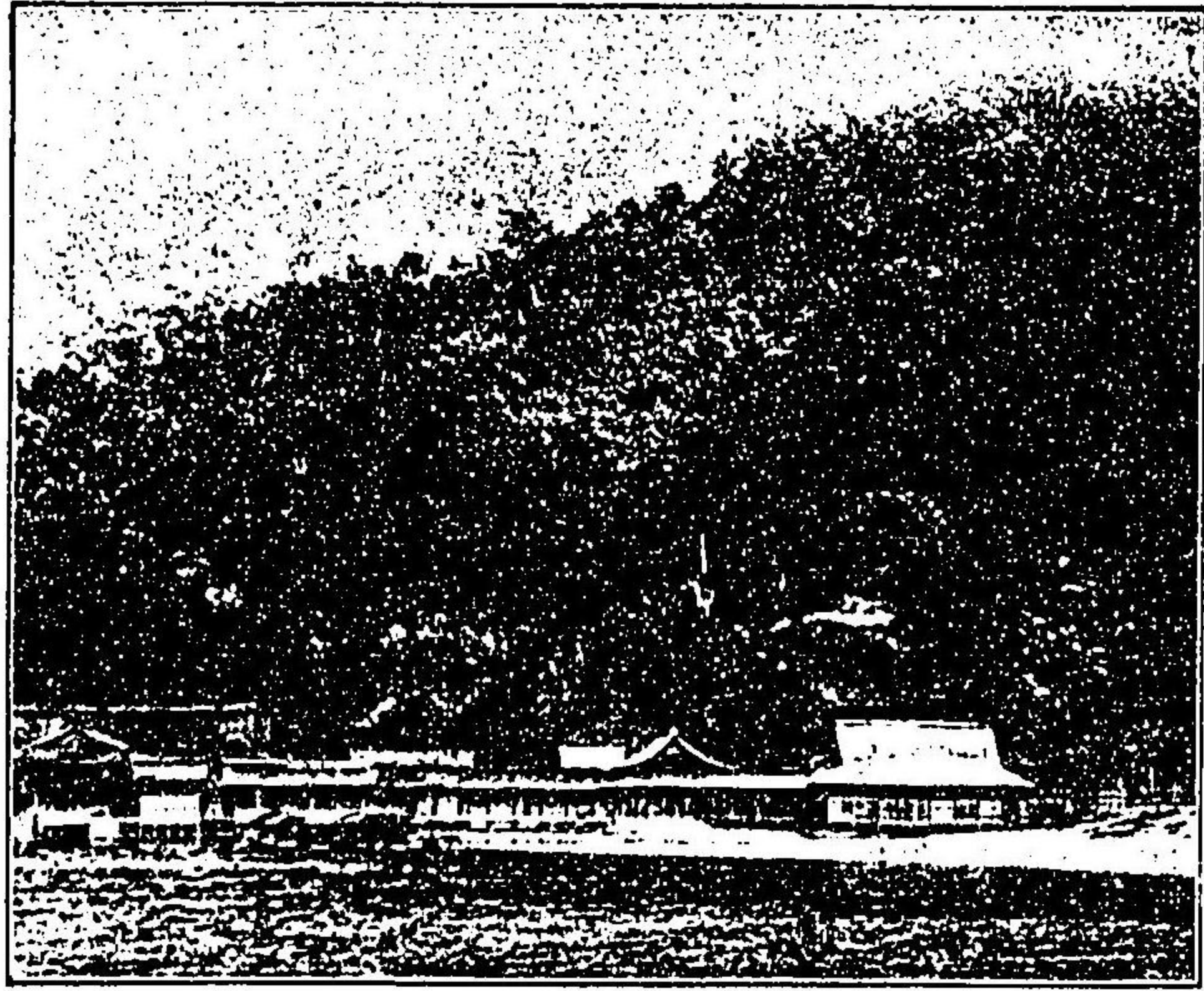
社 神 津 饒



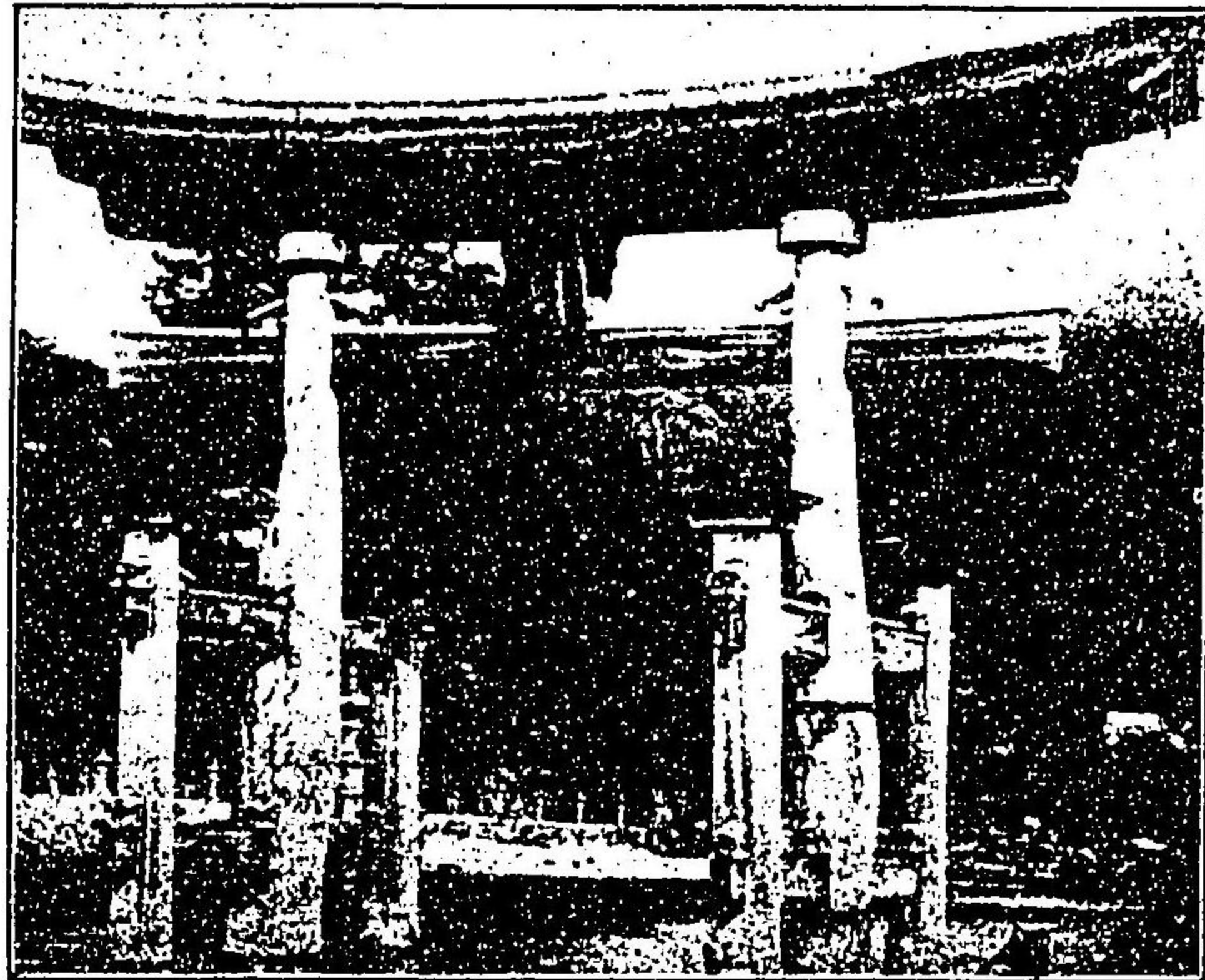
地 源 水 道 水



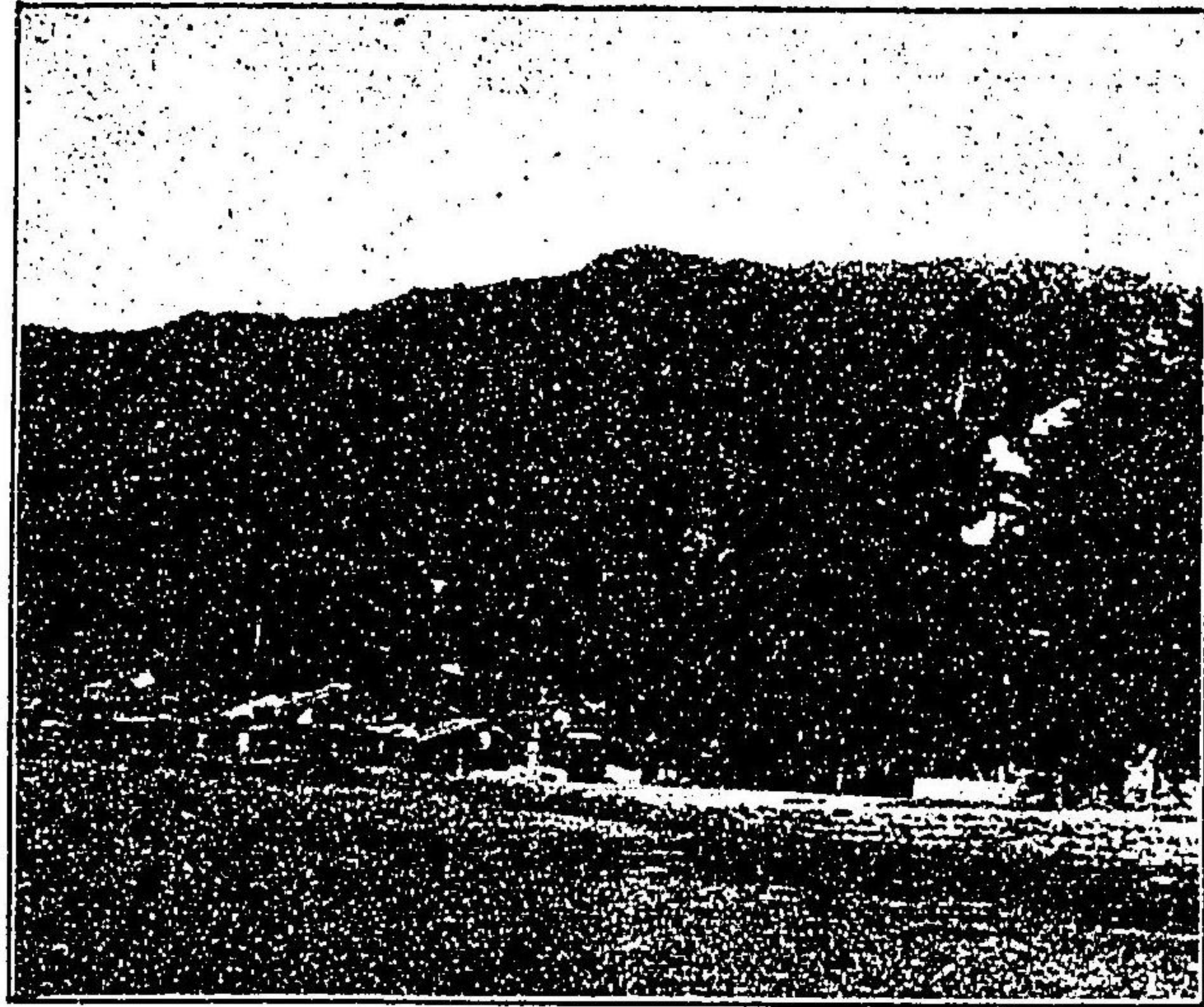
寺 護 佛



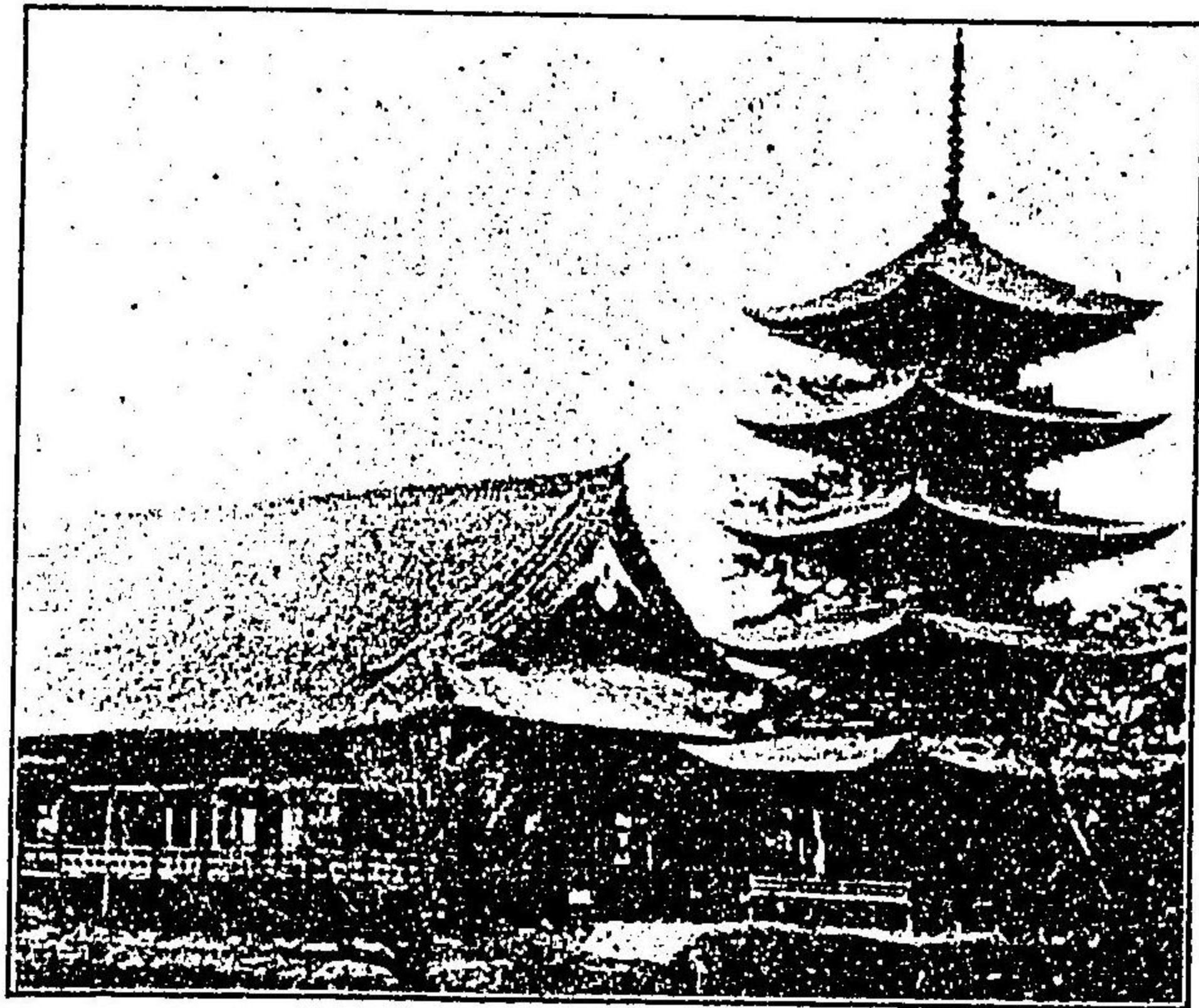
(一 其) 景全社神嶋巖



(二 其)



(三 其)



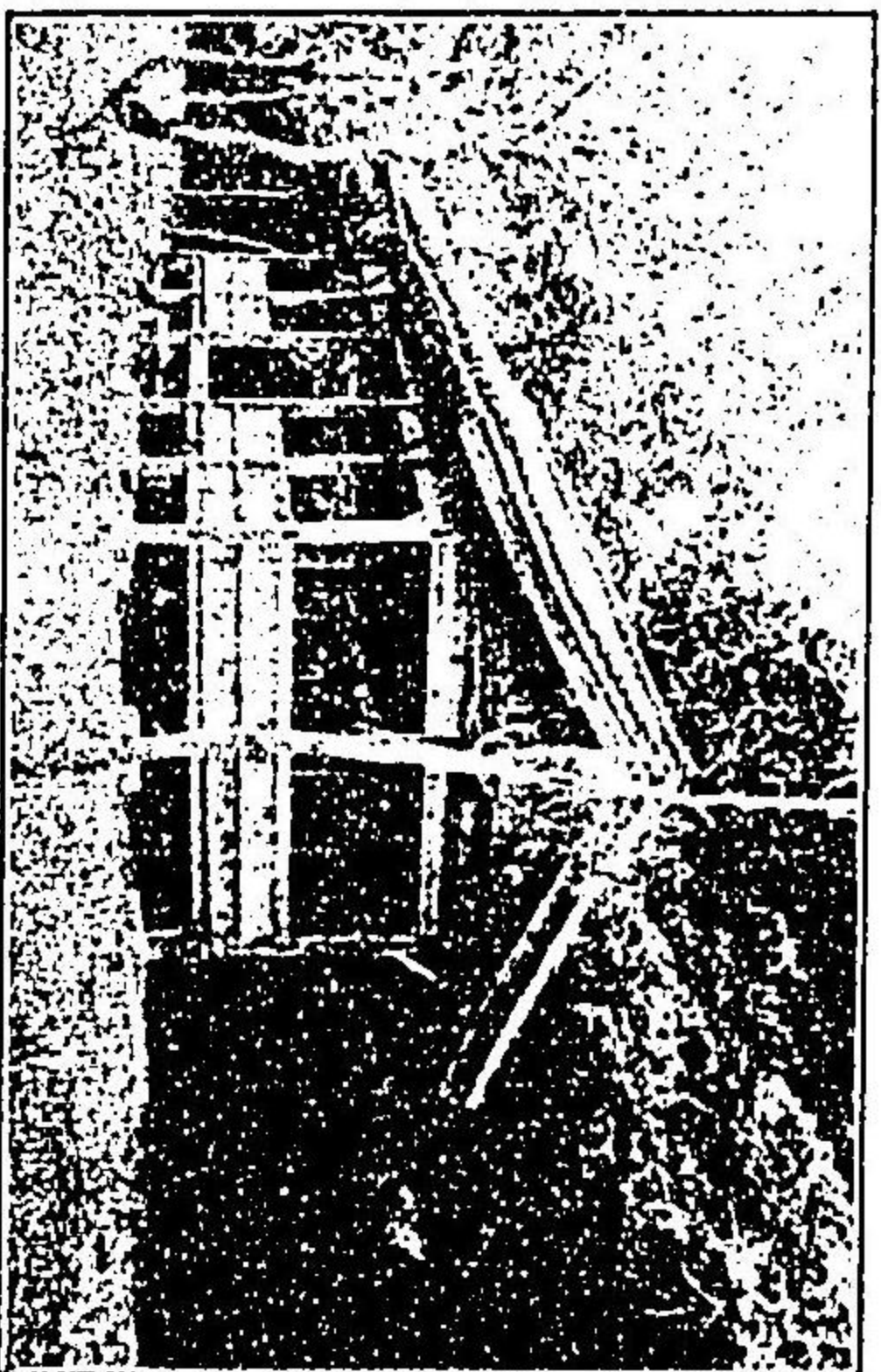
五重塔 千疊閣



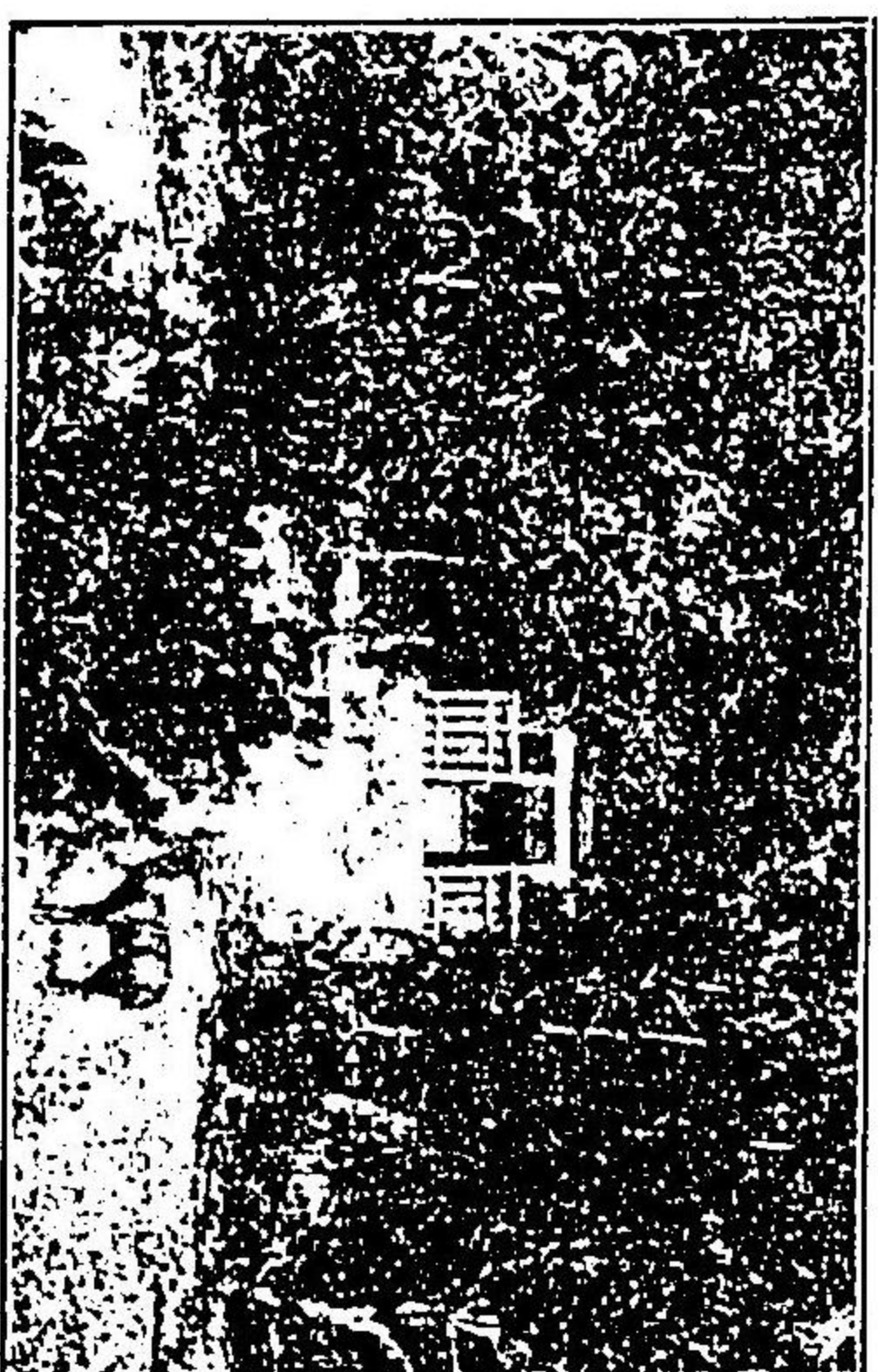
社神浦少殿



社神浦杉



社神浦苔海青



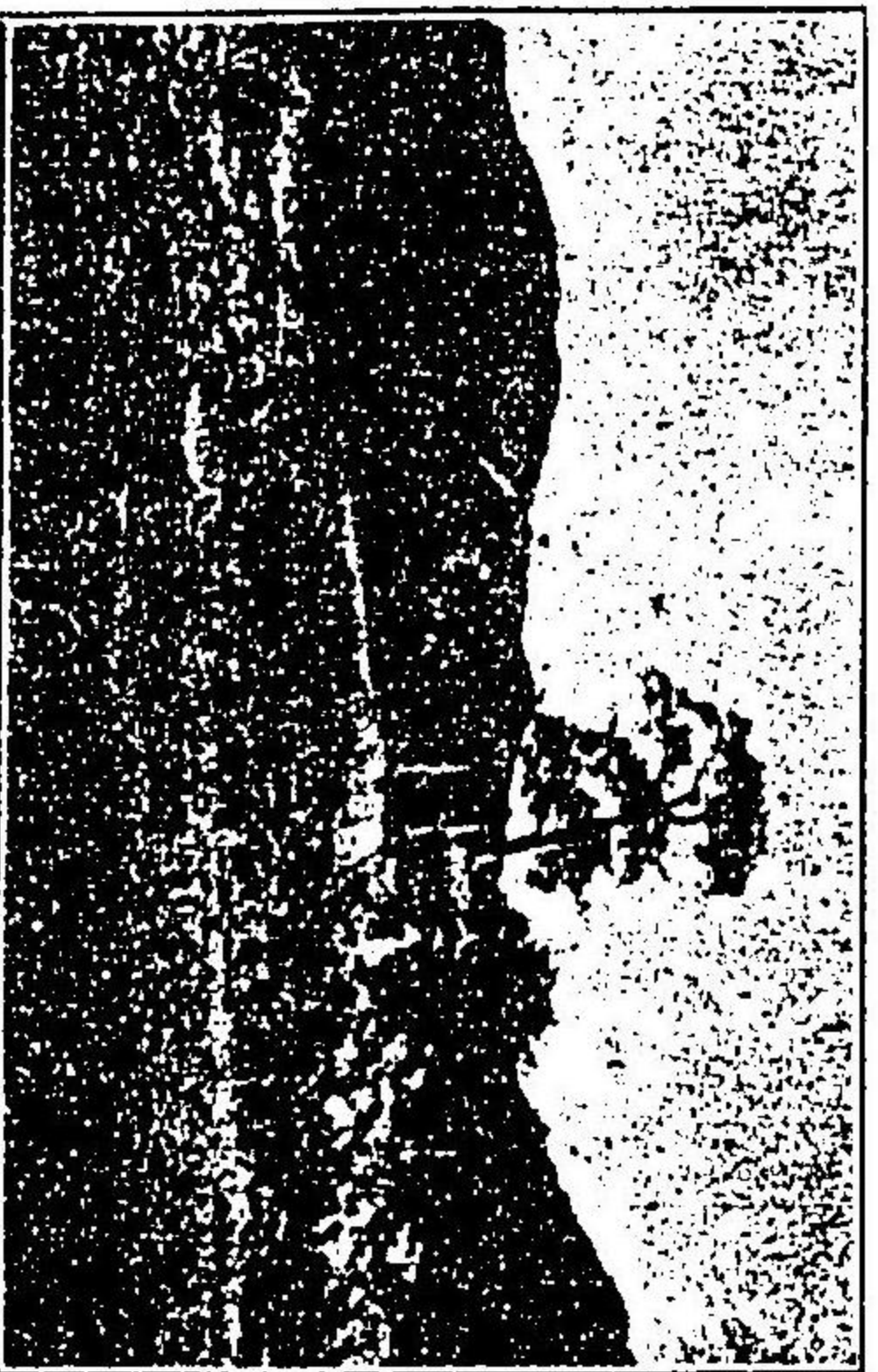
社神浦象麿



須屋浦神社



養父崎神社



御床浦神社



山白濱神社

著名旅館案内

廣島市著名商店案内 旅館の部 (申込順)

旅館 (壹等) 長沼鷺藏 (電話番號拾四番)

旅館 (壹等) 吉川金藏 (電話番號百六番)

旅館 (貳等) 岩三 (木村廻次郎)

旅館 (貳等) 佐々木出來藏 (電話番號百三十番)

今旅館 (貳等) 佐々木壽七 (電話番號百三十番)

三階建

著名旅館案内

旅館井回漕業

廣島猿樂町(矢倉の下)

高田伊兵衛

旅館浪花橋増田謙吾

浪花橋一名滋養餅(拂帶種食)の販賣

廣島市小町(廣島控訴院前)

増田謙吾

旅館高橋慶之進

廣島市猫尾町

高橋慶之進

旅館井國澤業

廣島市油屋町

山崎儀助

旅館天城福松

廣島市天神町

天城福松

旅館井御待合

廣島市大手町九丁目東土手

檜山辰三郎

不老館裏

廣島市大手町四丁目

伊藤讓

旅館嚴島講社御定宿村上文治郎

廣島市大手町五丁目

村上文治郎

旅館大政好五郎

廣島市大手町五丁目

大政好五郎

旅館時永

廣島市大手町五丁目

時永

旅館山縣金次郎

廣島市鉄砲屋町(山縣筋)

山縣金次郎

旅館永井富喜松

廣島市鉄砲屋町

永井富喜松

著名旅館案内

旅館

廣島市島原町

中野萬兵衛

旅館

廣島市西本川(新大橋下モ)

壽美安

旅館

廣島市大手町三丁目

潤身館

旅館

廣島市大手町三丁目

樋口

旅館

廣島市大手町五丁目

福永

旅館

廣島市鉄砲町

松万

(電話番號參拾貳番)

廣島案内記附嚴島

廣島の地誌

篠水釣史著

廣島は安藝國の南、瀬戸内海の灣入せし所に當り、今縣治のある所にし
て東は安藝郡、北は安佐郡に接し西は佐伯郡に隣す、東西一里十八町南
北一里餘、面積一方里六分餘、人口十壹万壹千四百三十六、戸數三万一
千百四十五を有す、土地は南方海に面し都て平坦なり而して東北西の三
面は丘陵起伏相聯る、太田河と名くる大河源を縣内山縣郡に發し佐伯
安佐兩郡の諸流を合して城の北西に來り數派に分る、その牛田村より分
れて東流するを神田川とし、城西より分岐して西流するを横川とす、而
して幹流は中島の尖頭に於て又二つに分る東なるを元安川とし西なるを
本川とす、神田川南下して更に二派となる本流を京橋川と呼び支流を猿
猴川と名く、横川は西南流して又天満川、川添川の二つに分る、乃ち河
流の廣島市街を縦貫するもの都て六、而して南方には宇品の良港灣を

廣島案内記附嚴島



篠水釣史著

廣島は安藝國の南、瀬戸内海の灣入せし所に當り、今縣治のある所にし
て東は安藝郡、北は安佐郡に接し西は佐伯郡に隣す、東西一里十八町南
北一里餘、面積一万里六分餘、人口十壹万壹千四百三十六、戸數三万一
千四百五十五を有す、土地は南方海に面し都て平坦なり而して東北西の三
面は丘陵起伏相聯す、大田河と名くる大河源を縣内山縣郡に發し佐伯
安佐兩郡の諸流を合して城の北西に來り數派に分る、その牛田村より分
れて東流するを神田川とし、城西より分岐して西流するを横川とす、而
して幹流は中島の尖頭に於て又二つに分る東なるを元安川とし西なるを
本川とす、神田川南下して更に二派となる本流を京橋川と呼び支流を猿
猴川と名く、横川は西南流して又天満川、川添川の二つに分る、乃ち河
流の廣島市街を縦貫するもの都て六、而して南方には宇品の長港灣を

廣島の地誌

有するあり、此を以て河岸には北方山縣、安佐等の村落より下るの船舟
 又は南方の津々浦々より來往する帆船常に繫留し、灣頭には阪神中國四
 國九州臺灣等諸方を航するの海船來往絶えず運漕の便極めて自在なり、
 近年鐵道山陽の全道を横るに至りてよりは一層殷盛を増しぬ、今少しく
 當國の小歴史を誌さんに
 古へは國府を安藝郡に置き平氏の盛なるときその管する所となり後これ
 を収めて院の御領と爲す、承久年間甲斐の守護武田信光軍功を以て當國
 の守護を兼ね其の五世の孫信武、足利尊氏に従ひ再び守護職を兼領し傳
 へて三子氏信に及び歴世銀山(今の安佐郡山本村武田山)に治す、永享十
 二年氏信の曾孫信榮若狹を加封しその弟信實繼ぎ、文明年中うの子國信
 若狹小濱に移り弟元綱を以て當國の守護と爲し同く銀山に居る、既にし
 て國內の豪族毛利、吉川、熊谷の諸氏各々一隅に割據し武田氏の威令行
 はれず永正の末元綱の子元繁、毛利元就と戦ひて克たず遂に戰没して領
 上を畧取せらる、大永三年尼子經久當國を徇ふるや毛利元就、武田光和

(元繁の子)吉川興經等之に属し明年大内義興來り攻めしも元就のため
 破られて歸り爾來元就の軍力次第に隆盛となる、天文三年光和、元就と
 交戦し利あらずして死し姪信實繼ぎしも郎黨皆散じしかば信實終に銀山
 を棄て、若狹に奔り其の地悉く元就の有に歸す、夫より二十年を経弘治
 元年元就大内義隆を弑したる陶晴賢を嚴島に誅戮して大内氏の故地を併
 せ、後又尼子氏と戦ひて之を滅し中國九州十箇國を領有し毛利氏の威海
 内に振ふ次で元龜二年に至り元就卒し嫡孫輝元封を襲ふ、其の後十數年
 にして天正年間輝元吉田城を出で治を廣島に徙す、これを廣島の開基と
 なす也
 此の地古へは入海にして蘆荻繁茂し只見る荒涼の一洲沙たりしが、其
 の後漸く開け所々に人家を見るに至り鍛冶塚の庄、平塚の庄、在間の庄
 廣瀬の庄、箱島の庄(後白島に改む)の五箇庄となりしを輝元吉田の地の
 狹隘にして且山間遊地なるより新に城廓市邑を設げんものと即ちこの
 地に出馬して明星院山(今の尾長山)、新山、巳斐山(或は比治山をも

加ふ)の三ヶ所に登り土地の陰陽要害の如何を檢分し遂に城を築きたるものにて、その計畫を定めたるは實に天正十七年己丑二月にあり。而して同四月に至り家臣二宮太郎左衛門を奉行となし築城の緻初を爲さしめ次で文祿元年作事を起し慶長四年の頃遂に竣工を告げたりといふ、尤も當時城の外櫓は未だ建造せられざりしを後福島正則補築し城廓ははじめ完備したるなり

廣島の名稱に就て傳ふらく初め築城歟入のとき太守明星院山にあり福島大和守參上拜賀せしに輝元いふやう、當所の名五箇の庄とは城所の名と爲し難し故に改めて末代不變の名を定めんとす、依つて思ふに吾祖大江廣元の廣と汝福島の島とを取合せて「廣島」と稱すべしと、是則ち此の地名の起因なりといへり(尤も藝藩通志は此の説を取らずして只水廻れる地なる故斯く名けしものならんと云へり、然れども廣島命名の事を記するもの多くは前の如く記せり)是より士民子來し漸次今日の繁榮を來したる事なるが關ヶ原の役輝元西軍に屬し敗後降を乞ふや、徳川氏其の封

を削り更に改めて防長二州を與へ福島正則をして藝備兩國を領有せしめぬ、福島氏乃ち廣島城に治し居ること二十年、元和五年に至り正則罪ありて國除せられ淺野長晟代つて封せらる、以降十二世長勳(今の從一位侯爵)に至りて王政革新に遇ひ藩を廢して廣島縣廳を置きたるなり

廣島の市街

廣島市街は東西南北とも殆ど距離を等うし、國道は市街を横貫して東(岩鼻に起り)より西(川添村に終る)に通じ縣道は北より來りて(安佐郡三篠村横川より市内寺町に入る)南宇品町に達す、而して又東西は一端より他の端に至るまで人家櫓を連ね、南北は陸軍所轄地中央に介在して北に白島町を限り南に田圃を隔て、宇品町斗出せり、其他江波村、觀音村は共に市街に離隔して各々南方に一聚落を爲せり

茲に廣島市街を區分するに大凡全市を七部に分つ事を得べし、即ち

第一を最東部とす二葉山以南、京橋川以東一帯の地にして南は皆實村字千本杭を限り東は大須新開に及び、猿猴川は斜にその中央を貫流して海に注ぐ此部新開田畑最も多し

尾長村、愛宕町、猿猴橋町、大須賀村、荒神町、蟹屋村、大須新開、京橋町、臺屋町、的場町、金屋町、比治山町、松川町、稻荷町、土手町、段原村、東新開、皆實村

第二を東部とす京橋川以西、八丁堀筋平田屋川以東の間とし北は白島一圓を除く、地域中島部に亞きて小なり

橋本町、上柳町、下柳町、轅町、上流川町、鉄砲町、八丁堀、石見屋町、山口町、東引御堂町、銀山町、胡町、斜屋町、堀川町、下流川町、平塚町、薬研堀、田中町、三川町、竹屋町、竹屋村

第三を中央部とす平田屋川以西、元安川以東、北は白島一圓を加へたる一帯の地にして長く南北に延びたり、廣島舊城第五師團本營をはじめ陸軍所轄地これが半ばを占む、廣島市の商業はこれを地形に見るに東より

西に至るに及びて漸次盛賑を呈し、この區平田屋川以西漸を追ふて繁華なり

白島東中町、同中町、同西中町、同九軒町、同北町、東白島町、西白島町、東魚屋町、立町、平田屋町、播磨屋町、研屋町、草屋町、鉄砲屋町、新川場町、中町、下中町、袋町、西魚屋町、小町、尾道町、紙屋町、盤屋町、横町、細工町、猿樂町、鳥屋町、大手町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、同六丁目、同七丁目、同八丁目、同九丁目、國泰寺村

第四を中島部とす元安川以西、本川以東の間にして北は慈仙寺の鼻に起り南は吉島村新開に至る、この一圓は海と河とに限られて恰も一島地を爲せるなり、七區中土地最も狭小なり廣島縣廳この區間にあり、商業は甚だ繁賑にして廣島の中心點なり

中島本町、天神町、材木町、木挽町、元柳町、中島新町、水主町、吉島村

第五を西部とす本川以西天満川以東にして北は横川橋を界として安佐郡三篠村に接し、南は遠く江波村に及び地形恰も帯を引けるが如く最も延長せり、この區概ね商家を以て充たし繁境とす

塚本町、堺町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、猫屋町、油屋町、鍛冶屋町、左官町、空鞆町、鷹匠町、十日市町、西引御堂町、寺町、西大工町、榎町、西九軒町、廣瀬村、西地方町、河原町、西新町

小網町、船入村、江波村

第六を最西部とす天満川以西にして南に観音村の聚落あり、西川添村に至りて己菱橋を界とし佐伯郡に接す、此區地狭からされ人家多からずして大方は田畑なり

天満町、川添村、観音村

第七を港灣部とす皆實村堤防以南の地とし南端は即ち宇品町の市街なり港灣一面の海陸を総括してこの區となさん

宇品町（海岸通一丁目乃至同五丁目、北通一丁目乃至五丁目、中通一

丁目乃至二丁目、御幸通一丁目乃至十七丁目、西堤防通、大河通）

廣島の繁昌

抑も廣島の地たる阪以西の樞軸にして東は京都大阪神戸と通じ、西は馬關門司さては長崎熊本と聯絡し、山陽道はいはすもがな、南海の伊豫讃岐、北境の雲石諸州、腹背相庇して真に乾輿の鎖鑰を司り海陸四通にして而して入達し、運輸交通の機關は殆ど全く備らざるなきが故に、商にあれ工にあれ將又農にあれ荷も實業上の物件は皆この樞要地を經由して始めて活動することを得るといふも敢て過言にあらず、實に廣島は多くの物品を吸集するの大能力を有すると共に、亦盛んに物品を吐出するの大能力を有するなり、殊に實業の點に於て爾く樞要なるのみならず國家の保衛上最も樞機に衝るの大資格を具有するの地にして之が遺蹟は既往現在に微見して明かなる所なれば今更事新しく言ふの愚たるを知る

のみ、されば商業家、製造家、農作家、資本家、職人、漁夫、勞働者、將又軍人、官吏、公吏、教員、學者、書生あらゆる社會の組織者は多く、に集りて、日々夜々孜々屹々各自己の天職を全うせんことに踴躍しこの幾百種類の人物が有形無形すべての點に向つて土地繁昌の素因を與へずといふ事あらず、而して牙齧を運ずの客、觀光を縱まにするの、朝夕に雲の如く集り散の如く散す、人馬絡繹の狀物貨輻湊の景の繁昌や實に田舎人を驚倒せしむるに足るべし、豈盛んならずとせんやこゝに廣島市内の土地を類別して掲出せん左の如くなり

宅地	三三三、二五〇四	池沼	三五二二
堤防	二五、一一一二	山林	二七、七二二一
田	二七一、八五二一	原野	三、一二二九
畑	七二六、一九二五	雜種地	六、九七〇四

而して地價は明治三十四年十月の調査に百二万四千五百七十圓六十七錢一厘なり

廣島の交通

廣島地方の道路平坦、河海疏通して古へより交通の自由を有せる趣は既に上述せしところなるが、山陽鐵道は神戸より起りて姫路、岡山、福山、尾道、糸崎等の各驛を経て廣島驛に及び西、宮島岩國柳井徳山より三田尻、馬關に全通し東西の往來は極めて迅速にして且安全なり、又海漕には日々大小數艘の漁船上下して阪神より中國四國各港を往復し殊に臺灣航海には定期船來りて客を乗せ、上は神戸下は門司、馬關、長崎の諸港を経て基隆に達し、又江田嶋、吳兩地には日に幾回となく小汽船の往來するあり、その他遠近の津々浦々よりも船に帆揚げて悠然河口に入泊する事を得るなり、而して廻運には山間の方面に未だ鐵道建造せられずと雖も、概ね砥の如き縣道は出雲、石見の境に及び荷車、人力車常に絡繹たり、又山陽鐵道の停車場は本市附近に總て四ヶ所あり、上列車に搭するには廣島驛よりし下列車に乗るには己斐驛よりするを便とす、横

川驛は概ね郡部よりの乗場たり、又宇品驛は廣島驛よりの支線にして海陸を聯絡す、廣島、吳間の鉄道は山鉄海田驛より分岐して吳港庄山田に達すべく目下工事中なり

廣島の名所

最東部

◎廣島停車場 山陽鉄道の廣島停車場は大須賀村の南端に位す、構内の廣さ約一万六千四百坪あり、大凡旅客貨物の廣島に集散するもの此驛を以て第一と爲す、當驛は明治二十七年六月を以て開場せらる

◎東松原(いろは松) 停車場構内を出づれば老幹翁爵として空を蔽へる松原あり一名いろは松と稱す、今を去ること三百年の昔慶長の頃植ゑしものにて其數四十八株この名ある所以なりと、寛政八年辰の洪水に大方流れ失せ又喜永三年戌の大洪水にも害せられたれば其の當時植付け

あり、維新後に至り再び老枯して數を減じたるを近年植増してその數に充てたり、この所を下馬と稱す蓋東照宮鎮祭以來大凡侯伯士臣の國道を往來するもの此所に來らば皆馬を下るの例ありたればなり、停車場構内よりこの邊り軒を連ねて旅人宿運送店又は飲食店等あり、松原南に盡くれば街道東西に通す、右に河流ありこれを猿猴川となす橋あり

◎猿猴橋 と云ふ長さ三十五間別に上手に架せるは水道の鉄管なり、夏時は松原の裾川岸に沿ふて納涼場を設く橋上の觀望頗る佳し河は蜿蜒して南に流れ仁保島山の麓に至りて海に注ぐの邊り風光に富めり

◎京橋 河を京橋川とす上流は神田川にして橋の長さ三十五間五尺、又この下流に柳橋あり土手町より下柳町に渡る、鶴見橋は又この下にあり比治山より竹屋新開に通ずるなり

◎比治山神社 比治山の西北麓に鎮座す大國主神、少名毘古名神、建速須佐男神を祭り地方の産土神たり毎歲陰曆九月廿九日例祭を行ふ、當社は元黃幡大明神と稱して山の東南谷間にありしを正保三年丙戌三月今

の地に遷し降つて明治二年神佛混淆を分ち今の社名に改めたるなり

◎比治山 京橋川の下流東岸に枕せる山を比治山といふ東西に狭く南北に長くして周圍凡そ壹里山低くけれども路深く濕潤にして樹木繁茂せり、山勢恰も虎の伏せるが如くなるより臥虎山の号あり、山の西麓は京橋の流れに沿ひて道路南北を縦貫すこれを宇品道となす、維新の前までは此山に鶴(俗に袖黒と呼ぶ)の棲みて松間に翔翔せるを見たりと、山下に鶴小屋と稱せし地あり又橋を鶴見橋と命じたるは蓋これが爲なり

◎陸軍墓地 比治山頂上の南端にあり疆域平坦にして開豁、南は万頃の田圃を隔て、廣島灣を望むべく宇品港船舶出入の状、江波沖釣魚採貝の態歴然として指呼の間のみ、西北は屋瓦鱗次白堊を運ぬるの間に廣島城を望み又遠く茶臼、観音、嚴島の諸山皆一眸にあり、墓畔櫻樹多く艶陽の候最も賞すべし、墓は大小列を正して幾千なるを知らず就中仰視すべき者は明治廿七八年戦役の際戦死病没せし者の追悼碑たり、人一人たゞ此域に詣る際乎として國家干城の誠忠に感激せざるはあらざるべし

◎比治山共葬墓地 陸軍墓地の下、山の半腹にあり、是また地域清開にして足跡到らば神澄み氣清く座ろに神々しさを覺ゆるなり

◎廣島縣師範學校 比治山の南麓皆實村にあり、師範學校令改正に就て擴張を要するため前年來こ、に新に校舍を建築したるものにて、本年に至り全く成るを告げ七月を以て下中町の舊校舍より移轉したりき、構内総て一万一千五百九十五坪

◎吳斐塞砲兵聯隊 師範學校に接して東に同隊の營所あり明治三十二年十二月建築落成を告ぐ

◎凱旋碑 比治山の南數町にして大手街道と道を合するの所廿七八年戦役軍凱旋の碑あり、礎石より頂上に至るまで高さ四十尺餘上に金鷄あり第五師團管内八箇國(出雲石見隱岐備中備後安藝周防長門)有志の建設にかゝり明治廿九年竣工式を挙げたり

◎多聞院 比治山の西麓にあり眞言宗にして本尊毘沙門大王は後白河法皇の御作なりと傳へ由緒甚だ深しといふ、治承四年高倉天皇殿島行

廣島案内記

幸の砌り、勅して建立せしめ給ひしものにて初め當國安藝郡龜尾の浦橋見の郷に建立せしを其の後天文年中毛利元就高田郡吉田の庄に遷轉し次で輝元天正十八年を以て更に沼田郡新庄村三瀧の麓に移したりしが後又福島正則この地に轉せしめたるなりと、當山には往古より後白河法皇高倉天皇及び毛利福島家等の位碑を建營して香華を供養し今に及びて回向怠らずとなり

◎頼春水の墓 多聞院前を登りて元安養院境内に藝藩の鴻儒頼氏の墓地あり、春水、杏坪、聿菴並に梅肥夫人(春水の室)等の石碑あり就中春水の碑文は古賀樸の撰にして右の銘左の如し

華國以文 罕殺其實 養正展效 有澤洋溢 循規踏矩 妙及詞華

衆言靡爽 稱贊難匹 舉大畧細 視我銘述

◎三本松 は尾長村の内國道筋の南側にあり豊太閤歸陣の途次多くを植ゑて並木松なりしもの三本残りたりと云ふ、昔時藩主參勤交代の度毎諸士こゝに送迎せし由にて一説には國の旗印三つ引なるに因みて三本を

廣島案内記

存せしなりと、近傍に橋あり俄羅々々橋と稱ふ

◎二葉公園 此區の北端に位す地は大須賀村に属し後に二葉山の翠を負ひ前に神田川の清流あり、古松老檜參差として天空を鎖し鮮苔青芝座すべく踞すべし、樹間茶亭多く酒茶を嚮ぐ梅あり櫻あり萩あり又藤の棚夥しく春夏秋冬游觀に適せざるときなきし、園内に藝陽の碩儒坂井虎山、木原桑宅の碑並に廿七八年戰役死没檢疫吏の紀念碑等其他名士の碑碣あり、山陽鐵道の線路は廣島驛より西して公園の南端を貫通す、又園西に一橋を架し東白島町に通ず常葉橋これなり長さ九十間御幸橋に亞さての長橋たり、園の中央に廣島縣職工學校あり

◎饒津神社 二葉山の麓に鎮座し廣島城より望むに恰も良位に方るといふ、祭神は舊藝州藩主淺野家の太祖從五位下侍從彈正少弼淺野長政の靈にして又相殿に長政の室末津姫を祭る、當社は淺野家十一世從四位上左近衛權少將兼安藝守齋肅祖先追孝のため造營せしものにて天保五年工を起し翌年成るを告ぐ結構宏麗頗る壯美を極めり、敷地總て六千六百六

十一坪正面に本殿幣殿拜殿あり神輿舎、木馬舎、寶庫、神饌所、社務所等皆備はらざるなし明治五年十二月縣社に列せらる、寶物の中朝鮮の役幸長の分捕せし陣太鼓一面、馬具三箇、砲器一挺、火繩銃三挺並に陣中用ゐたりと云へる自然石の手水鉢あり大さ臥牛の如し、神社の下は即ち公園にして喬木亭々たるの下幾百の石燈籠兩側に並立す

◎廣島招魂社 饒津神社の左傍にあり戊辰の役藩下勤王戦死者の英靈を祭祀す、毎歳十一月六日祭典を擧ぐ、祠畔に明治三十三年北清事變忠死者の記念碑あり歩兵第十一聯の建つるとどろたり

◎太宰原天満宮 二葉山公園内東寄りの小祠なり往昔菅原道真筑紫左遷のとき船をこゝに寄せ岸邊に憩ひて手づから梅實を栽えしことあり、後大樹となりて薄紅八重の花を開き實を結びけるを里人採りて鹽漬となすに皆腐蝕して食ふべからず又兒童拾ひて食へば忽ち腹痛しけるより後には拾ふものなし然れども一も實生へせざりしと云ふ、後世此梅古木となり花も稀になりたるが文化十一年の春少しく花開きて十二の實を結び

たれば試みに採りて植置きしに悉く發芽して枝葉繁茂せり然るに二三年の後秋風に吹倒されて只一本のみ残りたるもの是則ち今社殿の後にある梅樹なりと云へり、而して此邊を太宰原と云ふは菅公太宰府に鎮まり玉ひしに因みて名けたるものにて又太宰道の稱あり、梅樹の傍に方二尺高さ一尺ばかりの石あり道真の憩ひしものなりとて何時の頃にか此上に祠を造立し宮を勸請したるなりと傳ふ、尙古梅は薄紅なりしも今の新木は花白くして他と異なるは蕾の内は實の形あり満開に至りて花の心に實を結ぶと云ふ

◎向陽山 二葉山の一部觀望最も富める所を向陽山と名く山高からざれど三面眼を遮るものなく豁然として市郊悉く目睫にあり、遠近眸を放つに廓外田圃の外海水瀛々として島嶼陸地の間に鑿鑿し右に巖島の青巖を聽し左に箕を倒まにせるが如き一山ありこれを似島とす又安藝小富士の稱あり、南は比治山森鬱として前方を掩へるも宇品島の樹色山外に漏れ出入船舶の飛々たる漁舟の點々たる其の他雲水漂渺の間遠山望む

べし、山下は鉄道瀟車大蜈蚣の走るが如く又背後には神田の清流宗然として金波映じ西は第五師團の兵營蒼瓦白壁を連れ緑樹の間天守閣の秀づるを見る、又山上の第舎を大觀樓といふ一に八橋樓の名あり皆觀望に取れるなりこの邊り梅樹多し

◎明星院 今の向陽山下に當り大伽藍ありて山を高月といひ寺を大日といふ而して院を明星といふ蓋三光に象りしものにて高野山金剛寺に屬し安藝國中密宗第一の練若なりと稱し廣島鎮守白神社の別當を務め又國守の壽福を祈りしが維新後解崩して今は僅に一小宇を存するのみ、園西橋下の河原を明星院河原と稱ふ

◎鶴羽根神社 公園の東にあり後に山を負ひ前に池沼を有して石橋ここに通ず、息長帶日賣命、帶仲津日子命、品陀和氣命を祭る一に八幡社の稱あり今は村社たり、源三位頼政の室菖蒲の前當國賀茂郡に於て没したるの後ろの遺命に基き元久年間創建せしものにて椎木八幡宮と稱したりしものなりと(舊社地はこゝにあらず)境内に朝櫻神社(大國主命、保

食神、事代主命、高良神を祭る)愛宕神社(迦具土神を祭る)あり又四間に三間の能舞臺あり、神木と稱する松樹は枝梢榮むて恰も蛛網の如し、櫻樹殊に多く又池畔に菖蒲生茂り花時甚だ賞觀すべし

◎忠魂祠堂 鶴羽根神社の東手にあり廿七八年戰役戰死病没者の英靈を吊慰せるものにて淨土宗僧俗の建設にかゝる所たり

◎東照宮 鶴羽根神社の東數町にして尾長山の半腹に位す磴道南より通じ登ること五十二級唐門の内本殿拜殿深く鎮す徳川家康の靈を祀れるなり、當社は正保四年從四位下左近衛權少將兼安藝守淺野光辰(淺野家四世)の建營せしものにて同年十一月江戸上野青龍院より勸請し慶安元年七月を以て鎮座したるなりと、境内に清泉湧出す敷地は一千五百九十四坪にして又建物は昔時は結構巧麗精緻頗る奥輪の美を極めたりしも今は唯の餘影を存するのみ、此地最も清閑にして亦賞遊に適す宮の下に藤の棚ありこの所に又助茶屋といふが有りたるなり

◎尾長大神社 東照宮の境内と接續して西手に當る天照皇大神、大巳

貴命の二柱を祭る、由緒沿革詳ならずも初め當社のある所に杉の大木あり幹老蝕して空洞となり常に黒蛇の出入するを見る時人之を尾長と稱し以て異靈と爲す遂に社を號したりしが曾く平相國隱渡の瀬戸を開鑿するに當りこの異靈に感じて土功全きを得たりとて殿宇を再建し自ら尾長大神の扁額を掲げたりと傳ふ、貞享中滋野井三位中將教廣當國に下り當山の古事を聞きて一首を吟みける歌に

世にあふく黒髮山の峯よりや

なびく尾長の霞なるらむ

◎旌忠碑 東照宮の東傍練兵場に面して旌忠の碑あり西南の役殉難せし廣島鎮臺兵の偉功を表頌せしものにて明治十一年の建設なり文は陸軍中將三浦梧樓子の撰にかゝる

◎東練兵場 山陽鉄道廣島停車場以北の廣原を東練兵場と爲す廣菱數万町歩東西に延びたり北には二葉、尾長の諸山聳に南は市街の連符に接せり明治廿三年迄は民有の田圃なりしを騎兵の營所設けられしと共に上

地してこれを拓きしなり、地は大須賀村に属す、場の北方山麓に射的場あり、又騎兵第五聯隊の營所練兵場の西隣に置かる

◎櫻の馬場 東松原より東照宮に至るの道路を櫻の馬場といへり昔は左右に堤塘あり堤ト櫻樹多くして花候霞の如く美事なりしと而して神慮奉慰の爲とて馬の乗られたるより斯く名けたるなり、今は道筋も變更せられ多少曲屈せり櫻は一本二本老木の残りて些か名残を留むるのみ

◎尾長天満宮 練兵場の北際尾長山に鎮座す大穴牟遲神、少名那彦那

神并に菅大神を祭る、往昔菅原道真筑紫左遷の砌船を此邊の岸に繋ぎ山上を逍遙して峯の岩上に憩ひ地の景勝を賞ししかば時人遂に菅大神の峯と稱し後に至りて祠を彼の岩上に建て齋き祀りしに始まる、其後平清盛再建せしことあり降りて武田、毛利氏等奉信し寛永年中時の太守庶人參詣の便を謀りて里近き所に社地を開拓し遷座せしなりと傳ふ、今猶山の奥に古天神と稱する地あり是即ち最初の社地なりと

維新前までは此山の麓に石泉亭といふがかり禪林寺(東寺町)の庵室にし

て四際巖壁坑立し湖水の間に廻る亭上滄海の渺茫を望むべく又通玄堂ありて觀音の像を安んじ頗る幽邃の境たりしと、京洛の籍紳滋野井三位中將この國に謫せられて卒したるをこゝに葬りたりと云ふ、石泉亭今はその遺趾だに認むるものなく名を記するもの稀なり、今射菜の邊りを追遙するに荆棘の間僅に頭石を隠見せる塔あるを見るものこれ所謂三位中將の遺塚か、故人去つて往事茫たり感慨豈曾に他人の身のみならんや

◎國前寺 天満宮の東にあり日蓮宗にして自昌山龍華樹院と號す、興國元年日像上人の創建せしものにて初めは曉忍寺と號し、を降つて二十世の住持日勝の時薄毛淺野綱殿再興して今の名に改め寺領を寄附して菩提所と定めたりしが後故ありて悉く靈屋を日通寺に移しぬ、寺域三千二百三十坪あり本堂、客殿、庫裡其の他堂宇多く又二王門あり、門の左傍に老松あり樹下に「西國宗旨發軔之靈場日像菩薩繫船遺跡」と刻せし碑石を立つ

◎瑞仙寺 國前寺の東方にあり是亦幽靜なる禪院にして門前に里道通

じ練兵場の眺めあり、當寺は毛利氏の廣島築城と密接の關係を有しこれらの文書今猶傳はれるもの多しといふ

◎可兒才藏の墓 岩鼻の手前片側町より矢賀村へ越す山路の右傍に可兒才藏の墓あり、可兒は姓を藤原諱を吉長と呼び福島正則の家臣にして勇將の名あり屢々從軍して首級を獲ること算なし、其の戦ひに出づるや毎に縁竹を背後に挟み首を獲るに従つて悉くその鼻口に笹の葉を納めて捨置きけり、戦後功を論ずるに當りこの事分明し敢て争ふ者あらず厚く褒賞を受けたりと是より驕名益々著はれ征の才藏の綽名軍中に高かりしと云ふ、吉長は尾州葉栗郡藥典郷に産れ慶長十八年十一月廿四日没したるなり、此地を才藏峠と呼ぶ齒を痛む者この墓に祈念せば忽ち癒ゆるを得願解きに線香と焼味噌とを備ふるを禮とすと傳ふ

◎岩鼻 廣島市街の極東端にして尾長、中山の山脈南走して盡くるところの岬角たり、敵丈の磐石重疊して一奇觀を爲すこの邊りに藤の柵の名所あり甚六茶屋と呼ぶ、これを東すれば府中、矢野二村を経て國道を

廣島案内記

海田市驛に達するなり

◎多家神社(埃の宮) 安藝郡府中村に多家神社あり岩鼻より二十餘町にして達す、神倭伊波禮毘古命を祀りし所にて今は縣社たり本社創立の年代は今之を舊記に徴して詳かならざるも、社地は神武天皇日向國より皇軍を帥ゐて東征し玉ひし時の行宮跡にして日本紀に埃宮と載せ古事記に多祀理宮と記されたるは皆この皇宮なりと、又延喜式神名帳に安藝國三座(中界)安藝郡一座多家神社名神大とあり、即ち當社は皇祖神武天皇御駐蹕の舊跡に皇祖の靈を奉祀したるものなれば歷朝の御崇敬厚く勅宣の神階を贈られ國家の祀典に預りまする社の中多家神社の上に出づるはなかりしと、然るに中葉亂離の世を経て祀典全からずと雖も安藝國府の長行司田所家は代々勅使代として祭典に與り毛利淺野兩家は社領を附し藩費を以て社殿を營繕し大祭には遣使代拜の式を舉行したる由、この地を誰曾の森と名け又山間に出合の清水といへるありて安藝國名所の歌に曰く

安藝の國出合の清水ささぎの森

阿彌陀ヶ峯にいつき島山

とあり鷲の森は二十日市洞雲寺にあり阿彌陀峯は牛田村新山の下をいふとぞ、又この村は古へ安藝國府のありし所にて社傍埃の川のはとりに國應跡あり、尙松崎神社、總社の二社ありしを維新後明治五年兩社を合してこの多家神社相殿に合祀したりき、而して今の建物は舊城三の丸の内にて造營せられたりし稻荷社を解崩して爰に移し明治七年に至りて落成遷宮式を挙げたるものなり、境内地は平地に突出せし山嶽にして景勝あり皇祖御駐蹕の靈跡たるが故に大凡國人の廣島に往來するものこゝに拜するを例とす、近年神社の殿宇を修築し神苑を弘擴し建碑して保存の方法を確立し官幣社に昇列することを期し且神武天皇二千五百年大祭典を執行せんものとして多家神社埃宮會といふを組織し朝野の縉紳大に奔走中に既に社地一部の取弘め工事を了へたり

開け行く御代のためしも古へに

廣島案内記

有りし御幸の跡をしのばる 從一位 淺野長勳

◎府中の櫻 多家神社の東に長福寺といふ禪寺あり東西北の三面は皆山を以て圍み南方は仁保島、宇品、嚴島の諸青嶽を望み境内に一の大なる枝垂櫻あり府中長福寺の櫻とて古來名あり

◎温品の瀧(岩屋觀音) 府中村の北方吳沙々宇山の西麓を温品村とす

字宮の下より登れば八幡宮あり其背後に小飛瀑あり之を温品の瀧と呼ぶ

口牌に曰く神武天皇東征のときこの所に於て御顔を洗はせられたる事ありと、この瀧に浴すれば腦を治し又眼を病むものに効驗著るしといへり

吳沙々宇山は安藝、安佐の郡界に聳へ絶頂まで八十町縣下有名の大山なり

り、その半腹に觀音堂あり岩屋の觀音とてこれ亦靈場となす山路極めて

危険なれど信心家登るもの常に絶へず地方に有名なり、又岩屋嶺とてこの

邊りの山林に生ずる松茸は新庄の産と並び稱して殊に稱美するなり

◎西福寺の皐月花 猿猴川の海に注ぐあたり右岸を仁保島山とす、安

藝郡に属すれど地勢廣島市と接続し山を繞りて本浦、淵崎、日宇那、丹

那、大河の各字あり、概ね水産を業とし海苔、牡蛎等はこの地の名産たり、字淵崎に西福寺といふあり馬耳山(仁保島山の號にして又一に城本山の名あり)の聯脈東北に盡くる所に位し海面を抜くこと數百尺境内眺望極めて佳く古より皐月花を以て名あり、堂背の園庭山を抱きて成り古松老榭藪藪として天を蔽ひ躑躅満山寸際を餘さず、花候こゝに蔭むに簇々たる紅花燈火かと疑はれ枝葉人脚を没す、山腹に碑石あり苔色掬すべし題して「萬世も天やく花のつくし山」と刻す香城庵主の建つる所なり、碑石の邊り一帯の花苑ら紅の瀑布かと思はれ或は山の燃ゆるなきかを疑はしむ、夫より猶登れば頂きに榭亭ありろのあたり老松天に朝して巨人雲を攫むか如きあり翠黛棧を架して踞するに可なるか如きあり、而して境外の眺亦多趣にして或は鏡の如き海面に帆影の倒なるもの或は綿々たる峻嶺高峯我れと語るが如きもの皆共に一望に萃まるなり、境内又楓樹多く秋霜の頃愛すべし、寺門は四時開放して五濁入るに任せれば雅俗遊ぶもの常に多しといふ

又この邊りは一體に月を賞するに適し山下に蘆花渡(ろかど)とて月の名所あり小赤壁と稱せらる、古來文人墨士の吟咏少しとせざるなり

東 部

◎縮景園 上流川町に淺野侯爵の別邸あり昔時泉水館といひしを俗に御泉水と稱へ今は畧して泉邸と稱す、本來は館の總體を清風館と稱しるの縮景園と稱するは園庭の總名なり、蓋支那西湖の景に摸して築造せられたる園庭なれば以て斯く名けたるなりと、園は其の初め元和五年淺野長晟封を受けて入國せし翌年老臣上田宗固をして經營せしめしに基し爾後世々の藩主遊樂の地として或は庭地を擴め或は修補を加へ茲に二百八十餘年の星霜を経たるなり

廣袤凡う四町河流を隔て、斜に尾長、二葉の重嶺と相對し西、新庄、己斐の青櫓を望む、岸に閘門を設けて河水を園地に引く或は溪澗或は瀑湍瀦して而して一泉池を成す范洋瀾漫名けて濯濯池と曰ふ、東西は長く南

北はこれに半ばす島嶼あり橋梁あり樹木蒼鬱山巒嵯峨加ふるに禽鳥上下し雲霞掩映するの状悉く記すべからず、大抵池の北邊は曲瀦廻灣斷岸絶壁に迫り水石の勢奇勝甚だ多し、而して南方は概ね地平かにして水際亦甚だ灣曲せず清風館は則ちこの南岸にあり概ね流峙勝狀席を下らずして盡く之を望むべし、又鬱蒼たる一山、水を隔て、館と對するを祺福山といひ稻荷の祠あり、渡すに石梁を以てす長さ數丈形構半圓にして奇姿これを跨虹橋と云ふ橋の東西島嶼點綴するの西にありて最も大なるを水心島とす舟を繋ぎて土るべし、東灣に亭あり悠々亭と號す水烟沓渺の間にあり、これより以東層巒疊峙其の最も高きを迎暉峯といひ嶄然として樹なく翹望遠觀すべし、下りて數十歩小丘上に圓亭あり傘屋圓座一柱これを支へ座して盤旋すべし看花榻と名く、此他明月亭は園の西北隅高地にありて又別仙境たり頗る眺曠に富み河流は則ちこの亭下を繞りて舟船上下常に欸乃を耳にすべし、こゝを出て、西南すれば岸に循ふて數十歩楓樹多く丹楓林と名く芳流軒の間にあり、又清風館の左翼楓林を望む

の開丘上池に臨んで亭あり超然居といふ、其他梅林あり櫻菴あり菜圃あり一々悉し易からず、茲に園中の名勝を列舉せんに實に左の如し

- 濯纓池 清風館 祺福山 跨虹橋 超然居
- 白龍泉 明月亭 水心島 小蓬萊 楊柳灣
- 楊柳橋 悠々亭 迎暉峯 櫻花巷 映波橋
- 昇仙橋 望春橋 銀河溪 有年楊 看花楊
- 香菜圃 靈迹壇 烟霞島 臨瀛岡 弄雲橋
- 錦繡橋 古松溪 綠蘋洲 蒼雪島 丹楓林
- 菊花淵 觀瀾橋 石蟾橋 流芳軒

明治廿七八年の役大講を廣島に進めらるゝや 皇上その名を稔聞し一日こゝに臨幸あらせられ尋いで國母も亦行啓あらせ玉ひぬ、後三十二年春宮廣島に行啓ありし際同くこの園に風光を愛でさせ給へり、大凡縉紳君子當地に来るや車を寄せて一觀を請ふもの甚だ多く其の名全國に恰し毎歲初午の日諸人參詣のため園の觀覽を許され都人子女樂る者頗る多し

◎廣島大林區署 は八丁堀の上にあリ、明治卅三年の新築にかゝる

◎廣島神道分局 鉄砲町にあリ

◎廣島米棉株式取引所 株式組織にして銀山町にあリ、廣島に於ける取引所の起原を釋ぬるに今を去る三百年前即ち永錄年間この地方棉の栽培盛んにして年々の産出高巨額に上りけるより當時の有志相謀りて綿改

所といふを設けたるもの實に廣島に於ての取引所のはじめにて爾來幾多の沿革あり降つて明治九年米商會所條例の發布によりこれ迄行はれたりし米棉取引の中一は廢たれて綿會所のみ残りたりしが越ねて明治廿六年有志相謀りて綿會所に米穀取引の市場を加へ以て株式組織の一會社としたり、而してその設立免許を得たるは同年末にして翌廿七年一月買を開始し廿九年四月に至り更に株式取引の市場を加へたるなり

◎惠美須神社 胡町にあリ事代主神を祭る、當社の起りを尋ぬるに毛利元就吉田の庄にあリし時同地に其の祖大江廣元を祭りし像あり、廣島に移城するに及びて何故にか取殘されけるを里人見て蛭子神とのみ信じ

廣島案内記

けるが、其の後福島正則此國に太守たるに當り歌舞伎のもの清七とて正則の嬖人あり、其の頃錢屋又兵衛といふ者元吉田に生れ清七と懇切なりしが或時清七より彼の蛭子神の像、威靈顯著なる由を聞き尊崇の念を起す謂らくろの神を勸請して當町に鎮祭せば商運隆昌町勢振ふべしと清七の意を察しそは安き事なりとて正則に言上しけるに正則即ち吉田の長に命之廣島に致さしむ、錢屋大に喜び直ちに祠をこの町に建て、安置したるなり時に慶長十七年十月二十日なりと、左れば祭れる所の像は蛭子神にはあらで大江廣元なりと知るべし

◎廣島地方裁判所 三川町にあり葦高く聳へ結構宏壯なり、前方に平田屋川流る、又廣島區裁判所同構内に置かる

中央部

◎廣島城 市の西北部に當る天正年間領主毛利輝元此地を丈量して繩張を爲さしめ文祿元年始めて土工を起し三年にして成る則ち吉田より

廣島案内記

移り都市こゝに狹まり中國の重鎮はじめて堅固なり、後慶長五年毛利氏長門に徙り福島正則藝備兩國を領するに及びて外廓完成を告ぐ而して居ること二十年、次で元和五年淺野但馬守長晟紀州より來りて安藝及び備後の内八郡を領し爾來居ること二百五十三年傳へて第十二世(長晟より)長勳公に至り明治維新の革命に遇ひ遂に城を廢したるなり、鯉城又は泰磨城と號す、天守閣は高さ十七間六尺の基礎は東西十二間、南北九間

◎大本營跡 天主閣の下東南に當り元第五師團司令部たりし所にて明治廿七年宣戰の布告あるや、大元帥陛下には大譴をこの地に進めさせ給ひ畏くもこの司令部を以て大本營及び行在所に充てさせられ大旗こゝに動き萬機これより發したりしなり、今は第五師團の管理にて嚴かに警護せられ掟規を設けて國民の拜觀を許さる

◎第五師團司令部 元の本營より西南に當る戦役後新に建築せられたるなり、又歩兵第九旅團司令部は練兵場の東北隅にあり

◎西練兵場 本丸の南御門外にして元の城廓内なり東南兩方は城壕

を以て圍み場の廣さ東西二百八十間南北百九十間あり、場外の西方は三篠川に接し又大手門、眞鍮筋、立前筋は南に通じ、京口門は東に通す大凡陸軍の管轄する兵營廠舎は皆この練兵場の附近若くは城の北西方に联接して置かる

◎廣島陸軍地方幼年學校 練兵場の北隅にあり明治卅一年九月開校す

◎箱島山正觀寺 白島には寺院多し正觀寺は白島九軒町にあり、今を去る千八百八十餘年前の箱島は一小丘の名として傳へられ今日の白島町にして白島ははじめ小丘の名に得たる地名たるなり、この正觀寺は曾て丘陵たりし頃行基菩薩の開基にかゝり箱島山慈眼院と號しぬ、これ實に千

年前の造立にして市内現今の神社佛閣中最も古きものなりと云へり

◎碓神社 白島九軒町にあり大少童神を祭る、昔時毛利氏この地に城

くに當り水理を測り廣狹を定めて海灣を埋没し地を開くや海神の怒りに觸れんことを恐れ則ちこの祠を再興して碓大明神と稱し且鬼門鎮護の

神とし崇め社領五百石を附したりと、今は村社たり境内地二百六十二坪

◎工兵第五大隊 の營所またこの町にあり、此地恰も太田河の分水脊

に當り市街中央部の最北端にして河流を界に東は安藝郡牛田村、西は安

佐郡三篠村と對せり、この地一本木の樹あり昔時堤上に皂莢の木一本茂

り居りしより名けたるなりと

◎神田橋 白島九軒町より牛田村に架せる橋梁にして常葉橋の上流に

あり、この橋の先頭は即ち郡部なれど市と接続して關係少からざれば

これより少しく筆を該村内に進むべし

◎水道水源地 又ろの上にあり廣島屯營の陸軍をはじめ都下全市民に

供給する上水の泉源にして水は太田河の清流なるを引く、沈殿池、漚過

池を経て清淨となりし水は中央溝渠に集り水門を過ぎ送水脚筒によりて

百四十尺の山上にある配水池に導かれこれより土中の鐵管に落ち南下し

て城市に入るなり、元陸軍々用水道として建造せられたるを廣島市借受け

て市街全般に供給する事とはなりしなり、水源地の工費は總計六十六万

圓を要し又鐵管敷設費は三十二万圓余を要したるものにて明治三十一年

廣島の名所

冊七

冊七

冊七

冊七

冊七

冊七

冊七

冊七

冊七

八月之が通水式を擧げたり、水門に「混々不舍晝夜」と題す時の廣島陸軍軍用水道敷設部長陸軍次官少將兒玉源太郎氏の揮毫にかゝる

◎曲通寺 字神田にあり日蓮宗にして釋迦如來を本尊とす、元賀茂郡にありて天臺宗なりしを元祿五年時の藩主この地に移築し宗旨を改め爾來淺野家の菩提寺たり、境内の山中に淺野家の墳墓地あり（温徳院殿松平安藏守從四位上左近衛少將齊肅其他）平時は深く閉じて庶人の入るを許さず、山門の彼岸上道路に沿ふて喬杉林を成し景勝あり

◎不動院 字新山にあり眞言宗仁和寺末にして藥師如來を本尊とす、當寺は曆應二己午年北朝二代光明帝の勅願に依りて創めて五層利生塔を建立し弘法大師入唐將來の佛舍利を安置したるを濫觴とし安國寺と稱したりしを其の後天正の頃僧の惠瓊豊太閤に請ひて再興したるものに當時建立せし堂宇を天籟閣と稱す、次で豊公朝鮮征伐凱旋の際藥師堂仁王門鐘樓の三字を朝鮮より致し當寺に移したるなりと、今猶四角の簷牙に「朝鮮木文祿四年」の數字を刻せるを見るべし、然るに豊臣氏逝き惠

瓊落命の後寺門次第に零落に及びたりしが福島正則入國するに及び不動明王を天籟閣に安置し依つて改めて不動院と號し祈願寺と爲しぬ、斯くて幾星霜の後天籟閣は累年雨漏のため遂に明治十六年に至り朽倒したるが今存する建物の中本堂（即ち藥師堂）、仁王門、鐘樓の三字は珍重なるものなりと而して又鐘樓に吊るせる梵鐘（銅製美術工藝品）も朝鮮より傳來せしものなりと傳ふ近年國寶と定めらる、又本堂も古社寺保存法に依り特別保護建造物とせられたり

境内の林泉頗る雅致あり又小瀑布あり背後の山岳より落下し天籟の瀧と稱す、樓門の前方には太田の洪河あり混々として波紋清く碧をなし夏季の避暑最も來遊するもの多く春朝秋夕また逍遙に住たり、本堂の東丘上に墓域あり碑碣累々苔蒸し石焦げろの數二十餘基中に一段高き所に一基あり石大ならざるも形五重にして之を豊太閤遺髮の塔なりと爲す、此外惠瓊禪師（首塚なりと傳ふ）宥珍法印（尾張熱田不動院住職にして福島氏に附隨し來りて當院を管せし僧なり）及び武田刑部少輔和光（銀山城

主)の塚あり

此邊り廣島市六川の源たる太田河の幹流を控へ前方廣潤にして安佐、佐伯の聯峯を望み頗る風光に富めり、廣島名産たる香魚は多くこの河に産じ其の他淡水の魚族多く釣網に適せり、而して市を距る敢て遠しとせず二葉山公園よりは指呼の間のみなれば四時杖を曳くもの少からず

◎醉翁亭の八景 松平安藝守淺野綱長未だ世子たりし時新山の東南に地を相して遊樂の別墅を設け名けて日新館と稱す、其の經營の巧なる民力を勞せず茅茨を葺きて屋と爲し松竹を横へて椽と爲すその淡薄の風天然の趣世人の窺知する所にあらずしといふ、而して其の山中近く観るところ境疆八つ日新館といひ醉翁亭といひ無量峯といひ櫻花峯といひ瀑布泉といひ昔清水といひ細竹路といひ馳馬場といふ、就中醉翁亭の眺望勝へていふべからず其の遠く望むところ八景あり

- 嚴島の春霞 廣城の夕照 洪河の歸帆 新山の秋月
- 古寺の晚鐘 山下の落雁 武田の殘雪 大芝の暮雨

所謂日新館なるもの今日ろの跡を見るべからざるもその八景に至りては今も猶これを賞するを得べし依つて古書に基きてこゝに之を収録しぬ

◎平田屋橋 更に市内に戻りて八丁堀を下り國道筋を右に取れば小橋あり平田屋橋といふ、この邊りより以西最も繁賑の地にして終日行人織るが如し、橋下の水は城濠の注ぐものにてこれより下を平田屋川と稱し川場橋の下に竹屋橋を架するれより下を竹屋川といふなり

◎廣島郵便電信局 細工町の角にあり三層樓にして白聖高く商區の間に聳る構内廣く輓近の建築にして設備完全なりと云ふ

◎廣島電話交換局 同町にあり三十四年六月開業式を擧ぐ

◎里程元標 元安橋の東詰北側に里程元標を建つ

◎廣島警察署 大手町一丁目にあり構内の廣さ九百十八坪餘にして廣島縣巡查教習所またこの構内に置かる

◎廣島商業會議所 商工俱樂部の内大手町一丁目側にあり

◎大谷派説教場 眞宗大谷派の有する説教場は大手町一丁目に屬し紙

尾町に出づる小路にあり

◎美以美教會 基督敎美以美派の會堂は東紙屋町にあり

◎神宮奉齋會廣島本部 五丁目にあり伊勢大神宮を祭祀し懿訓聖勅を奉戴し皇典を講究し辨倫を講明し國體を修行し神宮大麻及曆頒布に従ふ

◎大谷派別院 眞宗大谷派の別院は大手町六丁目の横筋にあり寺を明

信院といふ世俗敬辭を用ゐて御坊と云へり

◎金刀比羅神社 大手町七丁目にあり市内この神を祭れる祠宇少から

ず就中平塚町の琴平社と當社とをうの大なるものとし祭日股賑を呈す

◎廣島稅務管理局 大手町八丁目にあり境内廣く近時の建築にして宏

壯なり萬代橋の眞行當りなり

◎鷹野橋 九丁目より國泰寺村に渡せる橋なり、川を堀川と稱す別に

泉源あるにあらす城南市坊の下水これに注ぐ、天正十七年毛利氏築城す

るに當りこの川と竹屋川とを堀りて用材を運搬したるなりと、而して昔

時は河身廣く従つて橋また長かりしと予この道を宇品街道とす

◎廣島測候所 國泰寺村宇品街道の傍にあり構内の廣さ總て六百坪

◎御幸橋 一名長橋といふ京橋、竹屋の両川相合するの所に當り長さ

百十四間幅員四間ありこれを廣島市第一等の長橋とす、往年 今上陛下

御巡蹕の御宇品に幸あらせられしに因みて斯くは名けたるなり、この邊

り斜に似島と對しその他江波山、宇品島、仁保島等山海の景一瞬に叢り

觀望甚だ富む就中明月の夜最も賞すべきなり、橋を渡れば皆實村にし

て凱旋碑の先に當る

◎廣島中學校 廣島縣立廣島中學校同村にあり建物は教室三棟、大講

堂、寄宿舎、控所、校長室、職員室、事務室に分たれ生徒は五百六十五

人を定員とす

◎廣島高等女學校 同校は小町にあり私立にして校地六百三坪なりと

◎白神社 小町に鎮座す祭神は岐玖理毘賣命、伊邪那岐命、伊邪那美

命にして創立の年代は詳かならざれども往古は此地一帶の蒼海にて此處

に大巖石より成れる一小島あり往來の船舶常に險難ありしかば巖上に小

祠を建て白神と唱へて崇め祭り傍ら暗礁の標識と爲したるを蓋鶴とす、降つて天正の頃毛利氏大に社殿を起し廣島總産土神と定め爾來代々の國主崇敬し貢獻するところ厚かりし由今は郷社に列せらる

◎國泰寺(并豊國神社)

白神社の東隣にある巨刹を國泰寺といふ曹洞宗にして豊太閤と深き縁故あり古くより名を知られし寺院なり、茲に聊

か當寺の事歴を記さん今を去ること三百餘年の昔文祿三甲午歲僧の惠瓊西堂朝鮮木を用ゐて建立せしに翔まり時の宗旨は臨濟宗にて安國寺と號したりしなり、而して惠瓊が俠々の才豊比の遺孤に心を寄せ關ヶ原の役に關與し事破れて慶長五年十月徳川氏のため誅に伏せし事は史の記せるが如くにして寺門の西一橋を架せるもの名くるに西塔橋といへるは蓋惠瓊西堂が住座せしに因みたるなりと云、西堂の没後慶長六年國守福島正則の請聘に應きて救特賜天眼普照國師當寺に座し臨濟より曹洞に改め且始めて國泰寺と稱したるものなるがこれ全く豊太閤の法名「國泰寺殿前太閤雲山俊龍大居士」の名に因み且豊公を以て開基とせしに依るな

り而してこの普照國師は俗姓福島實に正則の實弟にして尾州白坂雲興寺十二世蓬山和尚の高足なれば因縁甚だ深く豊公の遺髮をば正則手づから境内に埋めて塔を建てたりと現に境内老楠の下豊公遺髮の塚あるものはなりこの外惠瓊西堂の墓あり、又之と同時に豊公の像を祀り祠を門側に建て祭禮嚴肅に修せられたる由この祠宇興廢ありしも今表門の内側にありて豊國神社と題するものこれなり、明治三十一年京都阿彌陀峯、豊國廟の大祭典あるやこの地にても亦この祠宇を修理し祭典を行ひぬ、昔への當寺は規模甚だ宏大にして西は今の大手町に至り東は今の中町に擴がり南北亦これに稱ひ且この邊り楠木村の稱ありしなり、今墓畔に喬喬たる老楠鬱蒼たるを見るこれ當時の遺物なりと、元和五年淺野長辰封をこの國に移すや宗全和尚なるもの隨行し來り遂に當寺の住職となり是より代々淺野氏の菩提寺となる、其の後火災に罹り堂宇を建替ゆること前後二回にして又明治九年十一月本堂庫裡靈堂開山堂衆寮鐘樓中門等悉く焼失したれば更めて規模を狹めて十五年五月再建なりぬ、現今の建物

即ちこれにてろの重なるは本堂八間半に十間半、庫裡四間半に十間、經藏四間半四方等なり、古書畫器物の寶藏中秀頼十一歳の自筆に成れる豊國大明神の扁額を藏せり

淺野家墓所は境内に接續して疆域を別てり塋門袋町より通ず、梅桃李櫻多く花候極めて美事なり境内の墳墓皆莊嚴を極む左の如し

淺野但馬守三品侍從長晟(自得院殿)、松平紀伊守少將光晟(玄徳院殿)、淺野但馬守少將宗恒(鶴阜院殿)、同室(永壽院殿)、松平安藝守少將齊賢

(天祐院殿)、同舍弟長懸(覺道院殿)、侍從兼安藝守慶熾(大光院殿)

◎廣島控訴院 國泰寺の東隣にあり建築高大壯重なり、この邊皆國泰寺境内たりしものにて門前に松樹群立し月夜最も道通に適す、この松は惠瓊の植ゑしものなりと

◎日本基督教會堂 下中町にあり ◎妙慶院 は新川場町にあり淨土宗にして海雲山と號す小本寺格を有し又の名を來迎寺といふ昔時安藝一ヶ國淨土宗三十四箇寺の觸頭を勤め

たりしと、當寺は慶長五年の創立にして開山は明智光秀の男増譽快應たり太守福島正則黒印地三百石並に境内地若干を寄せて齋資に充て亡母の位牌を當寺に納む(正則の母諡號を妙慶院殿といふ)後正則退轉するに及び黒地を上地し境内を割かれたりと、伽藍火災にかゝることも三回に及び現今のものは明治三年の建築なり、境内に千手觀音堂、愛宕社、天神社あり又當寺の梵鐘は高砂尾上の鐘なりと言ひ傳ふるものありしが火災の際焼落ちたるを今は鑄替へたりと云

◎正清院 新川場字東寺町にありて廣白山淨安寺と號し淨土宗にして淺野家の菩提所たり、徳川家康の女にして淺野長晟の室となり元和三年八月紀州和歌山に於て逝去せし正清院殿泰譽興安大禪定尼の位牌を安置するため始めて中町の西方に一寺を建立し正清院と呼びたるものにて後寶曆八年四月三日の大火にて堂宇灰燼となりしより今の地に移せしなり之が開山は甲斐の人乘譽といふものなりと、當寺の邊りは前に竹屋川を控へこの外數箇の寺院相隣りして白壁を連ねたり

中 島 部

◎元安川 三篠の流れ城西に來りて二派となりうの東なるもの即ち元安川にして兩岸は人家を以て満たし瓦葺巨層相連り白壁高樓清波に映じて最も盛況を極む而して水は深く平時と雖も家礎を醜し船舟常に岸にかかれり、元安橋は國道の往還に當る要橋にして長さ二十八間幅四間、本川橋と並び行人雜沓する事諸橋中第一たり、此橋往古毛利元就の男大藏大輔元康とて城南に住しうの地を元康通りと稱せし所にありしを今の通りに架替へたるものろの名こ、に基き後字を改めたるなりと、廣島商業の中心は此橋の前後に當り四時晝夜の別ちなく頗る繁昌を極む、元安橋の上手に相合橋といふあり幹流の元安、本川兩派が岐る、所にして東西に二橋相連れり故にこの名あり、橋上に立ちて北面すれば右に廣島城を望み左に佛護寺の大廈を見るべし

◎其他 この河流元安の下に新橋あり大手町四丁目より天神町に架せるものにて四丁目新橋と稱す、萬代橋は大手町七丁目より水主町に通

す縣廳通路に當れるが故に俗に縣廳橋と稱せり、明治橋又その下にある東岸は九丁目にして西岸は水主町とす、この邊りは海江に程遠からず満潮のときの如きは眞帆片帆波に映りて觀望また風趣あり

◎廣島縣廳 水主町にあり地域南北に延びたる長方形を成し總坪數三千九百七十四坪あり、東より通するを正門とし北側にあるを通用門とす建物大凡千十五坪なり、境内に樹木多く正門外側には槐樹林然たり明治十一年の創建とす

◎廣島縣會議事堂 廣島縣會議事堂は縣廳の南隣にあり境内五百八十四坪にして建物は總て二百七十七坪餘明治十一年の建設なり

◎廣島稅務署 縣廳通用門と相對せり

◎廣島市會議事堂 縣廳の北手にあり地は中島新町にして建坪九十六坪、二階造りにて樓上を以て議場とし事務室及び控席は樓下に置かる

◎廣島市役所 議事堂と相並んで建てらる、敷地の廣さ大凡二十七間に十八間あり

◎廣島縣立病院 市役所と相對し縣廳の西隣に當る境内二千六百餘坪
 建物總て千三十餘坪あり母屋は三層樓にして病室も多くあり、近時改築
 して面目を新にしたり土地高燥にして本川の下流に沿ひ又院後に公園を
 有して樹木多く頗る適當の場所なり

◎興樂園 一名水主町公園といふ縣病院の背後に當り之が附屬地なり
 園門は縣會議事堂の前より通ず往時淺野家の別邸なりしものにて中央に
 巨大の池を穿ち中に島嶼を築き池を遶りて小丘を設け曲折致趣を引く、
 池畔に奇石巖岩多く中に一の大なるもの臥牛の如きあり碧色にして光澤
 あり藩主之を移すに千石を費したりとて千石岩の名あり、園の左右の樹
 木生茂り老松矮樹皆愛すべく又園内梅林あり胡枝花あり花候共に賞觀
 するに足る、此園平時は門を閉して人の入るを禁じ日曜日并に大祭祝日
 を以て庶人の觀覽を許す境内の廣さ殆んど四千坪に近し

◎住吉神社(彌市ヶ鼻) 水主町の西岸河水斗入して陸地を限れるのと
 ころ老松枝を垂れて長への翠水波に映するの間に祠堂あり住吉の神を祭

る、この地興樂園の地績きにして南は海島を望み西に神崎の景勝と對し
 雪朝月夕殊に愛すべし岸に渡船場あり神崎に渡る、この松原を彌市ヶ鼻
 と呼ぶ(彌市とて船番人の居りし故名)古へより望海の景に富めるを賞
 したりと

◎廣島監獄署 水主町の下吉島村新開にあり河を隔て、江波村と相對
 す構内の廣さ二万八千九百餘坪あり繞らすに高壁を以てす遠く之を望め
 ば恰も一城廓の如し、構内に拘留監、既決監、及び諸工場、農業園等
 あり結構殆んど關西に冠すと稱せらる

◎天満宮 天神町に鎮座の天満宮は正殿に菅大神を祀り相殿に人丸神
 白太夫を祀る、當社ははじめ高田郡吉田の庄にありて毛利元就郡山に城
 くや殿かに社殿を造營して鎮守神となし崇敬したりしを後輝元廣島に移
 るに及び遷座してこ、に七十間四方の社地を定め町内を所屬とし且三百
 石の社領を給したりと、慶長の頃上下船町と稱したりしを天満宮を鎮祭
 して名を改めたるなり後淺野氏の代にも尊信淺からず毎歲一回當社に於

て運歌興行の式例ありまど云ふ

◎誓願寺 材木町にある巨刹なり浄土宗西山派准檀林にして紫雲山と稱す當寺の開基は惠空上人とて三河國松平某の出なるが天正年間毛利輝元の歸依により當國に下りて地をこゝに相す、この頃この地一面淺洲にて蘆茅生茂り居りしを扁舟に棹して繩張を爲し東西八十間南北六十間を限りて境内と定め土を盛り地を固めて伽藍を建立せしなりと、而して功峻るの日京都本山誓願寺傳來の天智天皇御宸筆なる誓願寺三字の敕額を賜はり本山別院となり後陽成天皇の勅願寺と定められけり、當寺は建物宏壯境域廣潤なるの故を以て舊時は藩主の公用寺として其の外護を受け別段の寺格を有したりしと表大門は桁五間梁三間にして安政元年の建築なるがこの門の廣大なるは人口の最も膾炙するところ又國泰寺佛護寺と並稱して廣島の三大伽藍と稱す、境内に鐘樓高く聳へ又鎮守堂あり伊都伎島姫尊を祀る祠前に池泉あり形瓢の如し、寶物の中天智帝の勅額惠信僧都の筆曼陀羅掛物、唐筆の涅槃會掛物等最も著名のものなりと

西 部

◎本川橋 本川は又一に猫屋川ともいふ太田川六派の幹流なるが故に本川といふなり、水深く楫舟に便なること元安川に異ならず下流河原町の河岸には船舶常に繫泊して帆檣林立せり、橋は中島本町より塚本町に通じ鐵橋にして長さ四十間幅四間明治廿九年九月工を起し翌年十一月二日竣工式を舉ぐ、之が工費總額四万三千五百七拾餘圓を要したりと云ふ橋の西塚本町堺町等には大夏簷を接し概ね巨商たり又西本川堤防筋には米穀問屋最も多し、この橋亦一に猫屋橋と稱す廣島開基の始めは此所に橋なく今の國道筋より北に往還あり之に架して楠橋と呼びしを天正年間改めて塚本町へ架換へしものにて當時猫屋九郎右衛門兼頼といへるもの自力以て造り十二子(或は曰く男女各六人)を携へて渡初をなしけるより橋の名となれるなりと本川橋の下流に當り中島新町(東本川)より西地方町(西本川)に渡せる橋あり新大橋といふ

◎空鞘神社 空鞘町にある村社にして宇迦之御魂神、宇氣母智神、和

具彦毘神の三柱を祭る又相殿に天津日高日子穗々手見命其外四神を祀れり、當社は毛利氏築城以前より此地大小二社あり大社を空鞘明神と唱へ小社を彦三之神社といひたりし由、寶物の中大盃一個あり漆器にして能登國輪島木地屋八兵衛の作なりと而して嚴島神社、白神社に各一個宛あり合せて一組となるなりと云へり

◎寺町 國道筋の堺町二丁目より別に北に向ふて通せる道路あり縣道にして出雲大社道たり、之を進みて商家櫛比の境を過ぐれば寺院白壁を聯ぬるを見るこれを寺町とす寺院の數總て十三箇寺いづれも眞宗たり就中有名なるを佛護寺とす

◎佛護寺 寺町の東北端にあり眞宗西本願寺派に屬し市内第一の大伽藍たり勅許院家の格を有す、元は天台宗にして長祿年中の創立にかゝり開山を僧の正信とす、正信は甲斐國武田氏の一族にして俗名を原田豊五郎政信といひしが嘉吉の頃雉髪を僧となり甲斐の山中に草庵を結び佛護庵と名く、後長祿元年西遊して安藝の守護武田刑部少輔五郎義信の銀

山城に錫を寄せしに義信は正信と從兄弟の間柄なるを以て遂に止めて一字を銀山の麓龍原に建立し始めて佛護寺と名けしめたるなり時に同三年なり、斯くて二世を圓誓（武田刑部大輔信守の男源二郎胤康とて正信の甥なり）とす甲斐より來りて跡を繼ぎ道如上人に歸依して眞宗に改む後毛利氏廣島を開きしに及び當寺を小河内町（今の三篠村の内）に移す時に當寺五世の住康順の代なりしが毛利氏防長に移り福島氏入國するに及び慶長十四年城市北方の要害として地を今の所に給し再び徙したるなり寺域三千二百五十二坪あり堂宇頗る莊嚴を極む、又寺内に芥川貞佐の墓あり貞佐は人爲り卓犖不羈にして奇才あり狂歌を能くして門人千人に及ぶ傍ら妙劑を調合して之を人に施し一切謝儀を求めず安永八年八十一歳にして死亡したりと、その辭世に曰く

死んで行くところは可笑し佛護寺の
犬の小便する垣の元

◎廣瀨神社

村社廣瀨神社は廣瀨村に鎮座す正殿市杵比賣命、多岐理

比賣命、多岐津比賣命を祭り相殿に天照皇大神、須佐之男尊、神日本磐
 禮彦尊を祭る、當社は安藝國一の宮嚴島神社の配祀にして最も古き勸
 請なりと云へど其の年代詳ならず、天正年間毛利輝元之を尊宗し社領
 五拾石を附したりと、其の頃廣瀬市杵島大明神と唱へしを享保の頃廣瀬
 大明神と改め後又明治六年今の名に改めたるなり、往昔正徳年間當社は
 尾長東照宮の御旅所となり爾來明和文化の間此例を存し大祭の節毎に當
 社の修履銀納の事ありし由、境内地六百六十六坪老樹深鬱たり

◎横川橋 佛護寺の上に架す川は三篠川より分岐し來り西流して天
 川添の二派に分る之を渡らば即ち安佐郡三篠村なり、例によりて筆を少
 しく郡部に進めん此の邊りは人家軒を並べて商家多く殊に旅人の雲石
 二州をはじめ縣下の北方より來るもの皆道をこの街道に取るが故に往來
 常に雜踏せり

◎横川停車場 山鐵横川驛は横川橋の北凡う三町にして達す構内總て
 五千七十二坪なりと、明治三十年九月廿五日を以て開驛したるなり廣島

四驛の一にして荷客の集散また常に多し

◎佛教中學校 三篠村字大芝にあり安藝國眞宗崇徳教社の管するもの
 にて僧侶を養ふを目的とす

◎淺野家墓所 三篠村字新庄に淺野家の別邸あり山は高からざるも極
 めて風光に富み園庭瀟洒殊に楓色を愛すべし、山中に同家の墳墓あり舊
 はこ、に神應院とて寺あり庶人詣ることを得たるも今は然らで平時は閑
 して入るを許されず

◎三瀧 同村大字新庄小字三瀧に瀑布あり勢ひ大ならざるも水質頗る
 清し、瀑崖に觀音堂、天神社あり山境幽邃閑雅にして夏時避暑に適し杖
 を曳くもの多し、新庄山は豁深く樹木繁茂せり廣島名産の一たる松茸は
 この山の産を稱美す

◎宗固松 新庄山の頂上に大樹あり宗固松と呼ぶ昔し藩老上田主水
 入道宗固利休の滝を汲み流風自ら樂む、遠見の景色にとてこの松を植ゑ
 るの近傍の小松を伐拂ひたりと

古への風雅にのこる宗固松

優し姿によろへ見るかな

(讀人しらす)

◎武田山 一に銀山といふ縣道の西方山本村字東山本に聳ゆ、當國の

守護武田氏の據りしところ(二頁參看)にして山左程に高からされと深

く險峻なり頂きや、平坦なるも今城墟として存するものなし、昔は地を

掘りて刀屑鐵片武具を見ることが往々なりしと、此南に茶臼山聳ゆ

◎八木の梅林 當郡八木村に梅林あり廣島を距る凡る三里許、道に祇

園村を過ぐ戸數二百戸ばかり連簷の街なり、こゝに安神社(又祇園神社

と云ふ)あり素盞男命を祀り今郷社たり、又農商務省農事試験場山陽支

場その上にあり、八木の梅林は麥圃の畦畔にありて又米溪と稱す黃鸝春

香を飄く淡素却つて俗ならず雅人遊ぶ者多し

八木村に大山横はる阿生山といひ絶頂まで三十六町、群雄割據の時代香

川氏この山に據りしなり俗に八木の大山といふ、この麓を過ぎ半里なら

ずして可部町に達す

郡部はこれにて止め更に市内に戻りて國道以南に移らんに堺町筋の南は

西地方町、小細町、舟入村等にて花柳の街なり、西遊廓こゝにあり廓の

近傍は概ね料理商多く歌舞音曲の賑ひ常に絶ゆるなり

◎神崎 河原町の南、江波村に差掛る邊りを神崎と稱す本川の水將に

海に注がんとするの涯りにして若くは三春大朗かなるの日杖をこの邊に

曳かば翠柳岸邊に搖き麥隴波紋を生じて景愛すべし古人また神崎の夜雨

を賞したりき

◎江波村 神崎を下れば江波村に達す河流水海に注ぐのどころ海に沿ふ

て聚落を成す村の東南に聳ゆる一御角を丸子山といふ(不動堂あり丸

子の不動と呼ぶ)西岸は山を以て圍めりこれを江波山となす戸數凡そ三

百餘戸民概ね水産業に従ひ農を以て副業とす、廣島名産の海苔并に牡蠣

は多くこの村より出せり

この地古へより雅人墨士の杖を曳くもの少なからず頼山陽花朝月夕常に

よくこゝに遊びたりといふ、旗亭山文といふあり山陽醉餘戯れに書きたりとへる看板を藏す尺餘の木片「白魚有り」と記されたるを見る

◎衣羽神社 江波村大字下山に鎮守の村社なり創立年代詳かならざるも一千年以前の勸請なりといへり、祭神は多祀理毘賣命、多岐津毘賣命、市岐島毘賣命にして又相殿に大倭多津見命外諸神を祀れり、古へは衣羽明神、江波明神、長門島大明神と稱し國廳の祭社三位たりしと、社邊は樹木森々として幽趣あり山上は眺咽極めて富瞻にして東北は遙に城市屋瓦の鱗次を隔て、遠く安藝安佐の崇嶺高峯を望むべく西南は海に面し蘆灣の大島小嶼相接して綿亘起伏し淡瀾の間防州の山亦望むべし、又嚴島の翠巒は只指呼の前にあり斯かる眺めあるが故に春秋の候散策するもの少からず、又堤防近きところに陸軍射的場あり此邊り紫雲英多く咲けるが故に「げんげ座」と稱し春日市人の遊行するもの多し

最西部

◎天満橋 天満川に架せる橋にて堺町四丁目より天満町に通ず橋西より

り道路漸く狹隘なり町の南を觀音村とす一望田圃の西南端に一聚落を爲るもの是なり、觀音堂あり沖の觀音と稱す秋夕觀月に佳きところたり

◎天満宮 天満町國道筋の北側に天満宮を鎮祭せり、此町昔時小屋町といひしとき火災度々なるより水に因みて轉馬(舟の名)町と改めしを天満と書く様になり次で菅大神の靈を祀りしものなりと

◎川添橋 天満橋より川添村に渡るの橋なり、川を川添川と名く幅廣けれども平時は水少なく河身常に現はる、これを渡れば松原あり西の松原といふ

◎大師河原 村の北方字小河内に大師堂ありこの邊りを大師河原と名く弘法大師の縁日頗る雜沓するを以て聞ゆ

◎己斐橋 川添村より通ず橋の西は則ち佐伯郡己斐村たり、川を山手川と稱す源を安佐郡伴村より發し太田川の支流と合して南流するなり平時は水少なく揖舟の便なきこと天満、川添と同じ

◎百花園 橋を渡り二町ならずして達す一小丘にして桃李梅櫻を栽植

し眺望甚だ富めるが故に四時登るもの鮮なからず、春陽の候最も遊ぶべく又雪の朝の眺め佳なり

◎茶臼山 百花園の後山を茶白山といふ元龜天正の頃己斐利右衛門貞

貞に居城し平原城と名けたり山上平坦廣闊にして寒果の趾今に顯然たり、粟傍に小祠堂あり天満宮を祭りしところにて平原天神と稱したりし由、傳へいふ貞員の妻女は新里又右衛門の娘にて大力無雙なりしが

七十五人かゝりて動かぬ石を両手以て輕々と指上げ谷底に投おたりけるに負負却つて其の怪力を疏んじ是より夫妻疎隔を生じたりとなん、又この北に武田山と相隔て、岩原城趾あり己斐豊後守直之とて強勇の武將と

こに居りしものなりと俗に之を大茶臼といふ

◎己斐停車場 國道の北にありこの邊古松 駢立 林を成せり己斐の松原といふ、山陽鐵道の己斐驛と、にあり橋内の廣さ三千七百五十二坪、

横川驛を距る一哩半の西なり

◎己斐の瀨 己斐橋より茶臼山の麓を廻り北に入る約二十町にして瀨

あり観音を安置す夏候遊ぶものまた多し

◎源範頼の墓 瀨の御曹司範頼の墓なりと稱するもの古田村大字古江小字岡山といふ所にあり範頼は五日市三宅村にて卒せしに遺言に備前岡

山へ葬れと有りけるを誤りてこの岡山に葬りしなりと傳ふ

◎草津の梅林 佐伯郡草津村は廣島を距る二里半山鐵の五日市驛に下車せば跡戻りすること一里に滿たず、梅林あり南面せる丘上樹概ね稚く

して老幹樞燦たるもの少なしと雖も淡江濃白衣袂に薫じ殊に丘下は直に一眸の海洋にして穩波鏡面の如く漁舟泛々鵜の游べるが如きうの景真に

賞すべし、山上料亭あり梅山亭と號す平時山を開かず花候到りて始めて人の觀るに任すなり、近傍に草津の大石餅とて名物あり

◎樽ヶ鼻 この村海邊に樽ヶ鼻とて少し崎を爲せる所あり、往古神功皇后三韓征伐の砌り船もやひして將士を擣はれたるに因ると、又或る記

録に源 判官義經平家を追ふや此所に於て軍兵に酒を脩めしが故なりとも見ゆ、豊公征韓名護屋に赴くの途次こゝに軍船を寄せたりとも傳ふ

◎北條氏直の墓 古川村字古江の力箭山海藏寺に北條左京大夫氏直の墓といふあり昔毛利氏吉田に治せし際氏直過失あり祖父氏政怒りて毛利氏に預けゝるに逗留中疱瘡を患ひ天正十九年十一月終に没したるなりと(謚號を白翁宗靈大居士といふ)時に海藏寺は毛利氏の管するところにて庵室たりしと云へり

◎井口の海濱 草津を過ぐれば井口村にして海濱の景佳絶なり岸近く海中に小島あり岩上に小祠を安す井の口古久伊の明神と呼ぶ、昔時この村より南は險惡なる山路にて行人甚だ難澁せしを維新後海岸に沿ふて新路を開きたるものなり、依つて碑を建てその功績を後世に傳ふ

宇良安く行かふ道をつくりしと
濱の眞さとの盡きぬさをや 伯爵 千家 尊福

◎陶晴賢の首塚 観音村字佐方の洞雲寺に陶尾張守晴賢入道全蓋の首塚あり毛利元就彼れを嚴島に戮し首級を此寺に葬りて冥福を修したるなり、又同寺にはこの外櫻尾城主毛利治部少輔四郎元清(慶長二年)并同

室の墓、桂能登守大江元澄の墓(永祿二年)あり、金岡水、鷲の森等の古跡名所也た境内にあり當寺は二十市日驛を距る北方僅に數町ののみ

◎廿日市天神社 同町字饒尾山にあり極古源實朝嚴島明神を尊信し高倉院の別當齋院の次官親能の男周防前司親實を下して神職たらしめし際親實饒尾山に在城し普神をこゝに饗祭し主護神とせしなりと、境内觀望に富み一勝地たるを以てこの地に遊ぶもの必ず登るを例とす

◎極樂寺の觀音 廿日市の北一里にあり山を極樂寺山(一に観音山)といひ直立二千一百尺の峻山にして眞言宗極樂寺あり千手觀世音を安置すこれが由緒を尋ねるに天平九年行基、人皇四十六代聖武天皇に奏請して七堂伽藍を建立し天皇勅して永く聖朝寶祚の御祈願所と定め玉ふこれを當山の開始とす、後空海登山して伽藍を修理し供養するところあり、文治三年本尊の由緒天聰に達し後鳥羽天皇深く御崇敬あり勅諭ありて國家鎮護の道場となし同時に上不見山淨土院の扁額を賜ふ、又勅して西郷法師を登山せしめらる此時講堂伽藍の御再建あり法師味すらく

駿河なる富士をば安藝にひきかへて

上見ぬ鷲の山のたふとき

其の後天文の頃陶尾張守晴賢こゝに籠城して諸雄と對峙し干戈を交ゆること數年同き十年四月遂に兵火にかゝりて山門を残すの外悉く灰燼に歸したるを永祿五年又再建し毛利氏深く信仰せしよし、天正年中御室宮一品仁助法親王駿島御止住中殿々御參籠ありて三密瑜珈の秘法を修せられ又其の御願により二月朔日觀世音供養を營ませらる今に及び毎歲舊曆同日の縁日に遠近男女臉を習して登山するもの多きは蓋源を法親王に取るといふ、山門を上不見山と稱し境内の廣さ七千二百坪なり

◎地御前神社 地御前村字南町に鎮座す祭神は

田心姫命、國常立尊、天穗日命、活津彦根命、市杵島姫命、天照大御神(以上正殿)、正哉吾勝々速日天忍穗耳尊、湍津姫命、素盞鳴命、天津彦根命、熊野樟日命(以上相殿)

にして當社は推古天皇の元年駿島神社と同時に營まれ駿島の外宮たり、

港灣部

◎宇品港 近年築調したるものにして元來廣島の地は所謂三菱洲より成立したるものなれば既に成立の後と雖も太田川の土砂歳々流出して

南方次第に埋れるの海に注ぐところ淺沙縱横して潮水乾くときは舟路たぬに絶え漁船の定期海上に來るあるや遠く解舟を出きて貨客を迎へ會は

干潮に際する時は解舟沙上に着して潮水の満つるを待ち始めて河川に入るを得るに過ぎず又漁船に乗らんとするものも潮の干満に依りて時機に後る、事あり志ある者以て憾みとなせしが時の令尹千田貞曉大にこゝお着目し有志者と謀りて此大工事を計策し經營慘憺墜跌を重ねたる末今日を致せるものにて實に明治十七年九月始めて工を起し同二十二年十一月竣工せしものなり、其の間人夫を役すること百餘萬人、資を投ずること實に三十四萬圓、沿岸の延長凡そ二千九百二十五間、地面は畑地宅地堤塘を合せて六十二萬坪（内譚市街宅地四万六千七百五十坪新開地五十一万三千三百餘坪道路堤防六万八千坪）あり、竣工式の時には御名代小松宮殿下御臨場ありて親しくこの式を擧げさせらる

◎御幸松 海岸通り三丁目にあり明治十八年の車駕臨幸を紀するため栽植せしものなり、又卅二年東宮殿下の行啓を紀するため更に一本を植ゑたり之を第二御幸松と稱す

◎廣島水上警察署 は海岸通五丁目にあり構内廣さ凡そ四百五十坪に

して建物八十八坪餘あり○宇品税關監視署構内に設けらる

◎陸軍補給廠宇品支廠 元の海岸通り六丁目以東海岸線に沿ひて陸軍用地たりこの構内に臺灣補給廠宇品支廠并糧秣廠、患者集会所、軍用宿舍、軍用棧橋等あり

◎宇品停車場 陸軍用地構内にあり當驛より廣島驛に至るの途中丹那比治山の二驛あり

◎廣島郵便電信局宇品支局 北通四丁目にあり

◎神田神社 御幸通の東手水面に築出したる陸地に祠宇あり神田神社といふ、足仲津彦命、品陀別命、息長帶姫命を祭り又相殿に天照皇大神その他諸神を祭る、齋安藝郡牛田村宇神田に鎮座せしを明治二十二年ここに遷座して宇品町の産土社と爲したるなり

◎宇品島 宇品港の西に横はる島なり宇品町西堤防より通ず周圍凡そ二十七町山低れれ樹木茂密せり、島の表に観音堂あり遠近の眺曠に富む、観音堂は臨濟宗妙心寺派に屬し十一面觀世音を安置す大同年間坂上

田村磨の作にて堂宇も亦同將軍の造る所なりと傳ふ、明治十二年院號公稱を許され補陀洛山觀音院と號せり、この邊り眺望佳にして前には宇品灣を控へて大船巨艦來去の景、阜頭貨客雜沓の狀目睫の間にあり又背後には江波沖採貝釣魚の様樹間に隱見すべく眞に畫圖の如し

◎似の島 是宇品島の南凡る一里にあり安藝の小富士といふものこれなり、この島の東岸に陸軍檢疫所の建物あり、藝備國郡志に古は二の島と稱す後世島の形富士山に似たるを以て字を改めて似の島と號す二と似と發語相同じきが故なり一説に島の形笑を倒まにせしに似たるの故に笑島と號すと云々

◎津久根島 宇品より嚴島に航するの途中草津の沖合に椀を伏せたるが如き一小島あり津久根ヶ島といふ山上に石碑あり、傳へいふ古へ佐伯郡の海濱に一旦温泉湧出でしかば此處を號して湯蓋と稱す、この近隣に藁庵あり道空といひて時に嚴島の客人社積年頽廢し雨漏り露濕へりしを資を捐て、改修せし由、茲を以て道空の死後嚴島の人碑をこの小島に建

て以て祭りしなりと道空没して後温泉もまた枯涸したりと云へり

廣島の四季

◎一月 元旦、門松注連飾を爲し若水を汲み雑煮を炊き上下貴賤とも新年を祝して年始の廻禮を爲せば帽影劍光相映し綾羅錦繡春風に翻りて車馬織るが如く市中の雜沓名狀すべからず、宮中にては四方拜の御式あり官署學校など皆先拜賀式を擧ぐ○二日には各商家の賣初めあり未明より若風呂を呼ばふ聲々再まし、試筆、誦初め、彈初めなど各家何事も手はじめを爲す○三日は元始祭なり、御慶の客の往來ふはこの三日か間を最とす○四日は御用始めにて諸官衙何れも開廳す○五日は新年宴會にて宮中にては皇族大臣以下百官に酒饌を賜ふの例あり、官人をも一堂に會して宴を開くが多し○松の内は七日までにて此日を以て門松、五七三飾を除くなり○八日には陸軍始めの事として師團の觀兵式あり練兵場いと盛觀を呈す○十四日は左義長とて松の内の飾物を離し立て、河原

廣島縣内誌

に持行きて焼くなり、安藝郡海田市、及び府中村のどんき古來有名なり
 「日の本やたうとしはやす左義長哉」(秀吟)○三十日は孝明天皇祭なり未
 だ寒の中なれば肌寒けれど休日なるが故に郊外に寒梅を賞するもあるな
 り○此地方公けの事の外五節句諸祭例など大方は陰曆を用ゐるの例にて
 舊の正月には町家とも三日が間業を休み子女戯れ遊び囃々の聲長閑なり
 ◎二月 節分立春の前夜即ち節分には家々炒豆を撒き終、頭を戸
 外に挿み魔を防ぎ福を招く、此日恵方詣りをするもあり花柳社會にては
 老いたるは若き者の、弱さは年長けたる者の擬扮をして祝儀に廻はる慣
 例あり、夜分は殊の外噪めきわたる。貫之が立春の歌に「袖ひちて結び
 し水の氷れるを春立つけふの風や解くちむ」○十一日は紀元節なり氣候
 やうく暖くなりて梅の花真盛りの頃なれば郊外漸く賑ふ「梅一輪
 一りんづ、の暖かさ」(嵐雪)○六日年越は舊曆正月の六日なり嚴島神社
 に年越祭ありて遠近の参詣者數万を以て數ふ、此夜社頭に於て其の年穀
 物の豫想相場を立つるの例あり、廣島市にては節分の夜に白神社、廣瀬

廣島縣内誌

神社の社頭にて之を行ふ○初寅舊正月初めの寅の日をいふ各地毘沙門天
 王へ参り福徳を祈るなり、當地よりは安佐郡緑井村窟の毘沙門へ未明よ
 り詣づるもの多く沿道雑沓す(市内より北方三里)○舊曆十日は十日戎な
 り當地にては胡町の蛭子社を最とす○舊曆十五、十六日は歌入りにて閻
 魔の賽日なり今日はかりは餓鬼の首も緩りるといひて小僧やおさんに里
 歸りを許すの俗あり、淺野家にては此日小町國泰寺舊境内、新川場町正
 清院舊境内、牛田村日通寺山、三篠村新庄山の墓に諸人の参詣を許す、
 又新川場町の戒善寺には大幅の六道圖を掛けて諸人に見せしむ所謂地獄
 極樂の繪なり○梅は草津、八木、海田市の片山等に賞すべく水主町公園
 二葉山公園内にもあり
 ◎三月 野も山も萌出づるやうなりて今日この頃春の野の遊び最いと
 愛でらる、なり○舊曆二月の初午には各所の稻荷社賑ふ就中淺野家の泉
 邸縦覽を許され満都の子女詣でさるはなし、尾長の稻荷社及び稻荷町の
 も雑沓するが例なり○涅槃は舊二月十五日なり諸所の寺々涅槃會を修す

鷹匠町の清住寺、中島本町の慈仙寺、堀川町の般舟寺等には大福の涅槃圖を庭前に掲ぐ近在よりも参詣する者多し○此月十八日より彼岸に入る廿一日の春季皇靈祭には五丁目の神宮にて皇靈通拜式并に祖靈祭を行ふ、此日彼岸の中日なれば各寺院は殊に賑合ひ近在よりの人出も澤山なり信心家は六阿彌陀廻りとして比治山の長性院、金屋町の淨念寺、堀川町の般舟寺、下流川町の常林寺、新川場町の正清寺、鷹匠町の清住寺に詣つ此寺々の本尊はいづれも座像の阿彌陀尊なり「彼岸前寒さも一夜二夜かな」(路通)○舊廿五日は天神忌として菅公薨去の忌辰なれば天神廻りといひて廿五箇所の菅祠を巡拜するものあり五月并に九月の三度とす○中旬ごろ諸々の種物を播くなり○花はまだ少し早けれを摘み草には適すべし尾長、牛田邊りよく又諸新開の堤防に到るべし、狩獵には最も好適の頃にて山にても海にても獵場は多くあるなり

◎四月 三日は神武天皇祭にて府中の埃宮(皇祖御駐蹕の靈跡)に詣づるもの殊に多し、時恰も櫻花爛漫の頃なれば何れの地にも帽影傘姿を認

めざるなし○舊曆三月三日は上巳を祝ひて女の子ある家には雛壇を飾るめり「石女の雛かしづくや哀れなる」(嵐雪)この前後は老幼貴賤の差別なく浮かれ曝きて内も外も賑る花かやなり○十日十一日は饒津神社の、十四日十五日は白神社、鶴羽根神社、比治山神社、空鞆神社、碓神社、廣瀬神社、衣羽神社等市内各氏神に春季例祭あり○嚴島桃花祭舊三月十四五、六の三日間嚴島神社に桃花祭を行ひ舞樂神能あり渡島するもの多し○大師の縁日舊三月廿一日は弘法大師入寂の日に當れば眞言宗各寺はいふも更なり大師像を安置せる寺院堂庵にては夫々佛事を執行ふ、此日遊山がてらの参詣人多く大師廻りと稱して市内附近にて廿一箇所さては又四國に擬へて定めたる八十八箇所の大師を巡拜するあり、世俗この日を花見じまいと爲す例なれば殊の外入出多し、大師の中にては三篠村字打越小河内のもの最も賑ふ○櫻は嚴島を第一とし市内近傍にては二葉の里比治山墓地、向字品、府中の長福寺等とす大抵四月初より中旬までが季節なり○大長とて豊田郡御手洗島の内に桃の名所あり満山皆花海水一帯

廣島案内記

ため紅帛を洒すに似たり海上十三里、花候に際せば芋品より臨時に漣船を航海せしむるが故に一日にして遊ぶべきなり○月の末頃よりは野畑に紫雲英花咲く就中江波村、観音村及び比治山の裏手など殊に美事なり○汐干狩は舊三月中潮を最とし同月末及び四月初め頃最も適候とす

○五月 舊曆四月八日は釋尊の誕生日として所々の寺院に甘茶を煮る、就中下柳町の廣教寺、西地方町薬師小路の養徳院及び安佐郡深川の薬師堂参詣するもの最も多し「灌佛や目出たきこと」に寺まゐり「(支考)○此頃より市中の夜景賑ひそむ運動がてら散歩するもの漸く多く薬師の夜な夜な中島渡りに出たせる花卉百草の植木店最も繁昌す○舊曆五日は端午節句にて粽團子を作り祝ふ湯屋には菖蒲湯をたつ男の子を擧げたる家々にては四月中旬より美々しく鯉幟なと樹て、祝ひさ、めくを例とせり○此月に入りてより魚類野菜ものなど多く出づる様になりて膳頭に美味上るめり、節句前後は麥刈にて農家は多忙なり○躑躅は泉邸、春和園、萬花園(西遊廊二号地)等に多く又淵崎の西福寺には皁月花美はしく咲きて

廣島案内記

最も賞すべし○藤の花は二葉の里を第一とし百花園にもあり、又杜若花は鶴羽根神社の池にあるもの甚だよし(踊り初め端午節句の日に三川町團座寺境内の稻荷社例祭を行ふこの夜を以て盆踊をはじむ)

○六月 一日頃より單衣を着る、上旬より梅雨となる○牡丹、芍薬花開く萬花園に多し、螢は此近傍にては古へより安の螢とて安佐郡伴村字安のあたり正大なるが有り螢狩りはこ、を第一とす、水鶏も戸を叩けば杜鵑も鳴き渡るめり○農家は田植時にて忙はし、遠近に大田植とて美々しく牛馬を飾り鴨物離し立て、田植の式を行ふものあるは此頃なり「老いつ、も早乙女くるふ御田かな」(景道)○八十八夜より十月末頃まで釣魚の候なり川魚はことこの頃がよし○一日には瀟守さんの縁日とて材木町の妙法寺に参詣するもの多し○舊曆五月十五日は妙見さんの縁日にて左官町の本覺寺賑ふ○同じく廿三日は東魚屋町(中の棚)の稻荷社祭日にて晝夜とも雑沓を極む○同廿八日は細工町西蓮寺の不動明王の縁日也

○七月 梅雨霽る、頃より漸やう熱くなる、涼納場各所に開け夜な夜

盆踊りあり又職工場、遊廓など人の行集ふ地には高臺を架して水、ラムネなど商ふさま中々に熾なり○土用に入れば諸所に海水浴始まる五日市にもあり嚴島にもあり倉橋島にもあり、その他適宜の海岸に避暑して海水に浴するに場所少しとせず○瀑布は新庄の三瀧、己斐の瀧、温品の瀧、不動院の瀧等あり少し遠けれも廣の二級の瀧(賀茂郡廣村)は縣下に著名なり、又奥の奥にも二河の瀧といふがあり皆避暑に適す○舊曆六月十日は琴平神社の祭日にして市内にこの社多きが中に七丁目及平塚町の同社最も雜沓す三月十日、十月十日にも祭禮あるなり○同十五日は水主町の住吉神社の祭日なり河上に涼舟多く出づ○嚴島大祭は六月十七日にて本市にては橋本町明神濱の嚴島神社及び誓願寺境内の同社最も股賑を極む、又御供船と稱して尾形を作りて幔幕を張り旗幟提燈など華麗に飾立てたるを川々に浮ぶるの例あり、昔時は嚴島にかけの管絃船に隨ふため前夜川口を出で、渡航するの例なり茲が今は彼島には行かず河を上下して離立つるなり、京橋町、堀川町、平田屋町、元安組、塚本町

猫屋町、堺町等の各町より之を出すの例にて互に華美を競へり、この他大小の遊舟今日を晴れと漕出するもの殆ど河を埋めんばかり、尙河上には或は篝火を焚き電光を照し或は煙花を打上ぐるもの兩岸の燈火と相映じこの夜一とよは火の廣島かと歎はるゝなり○舊六月二十四日は白鳥妙風寺内の清正公の祭日にて詣づるもの多し

◎八月 舊曆七月七日は七夕なり維新後暫し廢絶の姿なりしも近來再び篋をたて短冊を結ひて二星を祭る家少からず、市中の夜景極めて妙なり「いろく」に染なす絲のねがひかな(越人)○同十日は四万六千日として觀音の賽日なれば諸所の觀世音に參詣の男女多し就中新川場の妙慶院、六丁目の普門寺賑へり○于蘭盆會は陰曆七月十三日よりなれば魂棚飾物の品賣る聲戸外に聞こは寺々の門前には籠燈、線香、立花などの店列を爲すなり、十五日まで各家精靈祭を修し墓詣でを爲す、十六日は歐入として奉公人など里入りを爲すこと其の他正月十六日に同じ「魂祭り門のこじぎの親問はん」(其角)○舊七月廿三日法華宗の各寺院に鬼子母神の祭

廣島縣内

りを行ふ○同廿四日は地藏尊の縁日にて川場の地藏堂、小町楠木の地藏堂、河原町の地藏堂及び壺屋町源光院の地藏堂等最も殷盛を呈し盆踊り盛んに行はる○同廿六日は所謂廿六夜待ちなり此夜は月三昧の姿にて昇ると解へ家々月の出づるを待つ、古へより九丁目鷹野橋が見どころなりとてこゝに出で立つもの多く橋側に踊り場を開き夜を徹するを例とす○連の花咲き又牽牛花賞すべし、蓮は廣島城壕にあるもの最も佳なり未曉起きて涼風に浴しつ杖を池畔に曳く爽快いふべくもあらず

◎九月 十五日と十六日は廿七八年戦役の大逆轉進并に平壤陥落の大記念日なれば當地の官民業を休みて祝意を表するなり、又十五日には廣島招魂祭を舉行するの祭式の嚴肅莊重にして餘興の殷盛なること一歳の中これに過ぐるはあらず故に遠近來り集るもの萬を以て數へ滿都大に振ふ○二十日より彼岸に入ら廿三日は秋季皇靈祭にて彼岸の中日なり、何ととも春のと同様なり「百姓の嫁のいで立つ彼岸かな」(許六)○曇さも寒さも彼岸まで、窓前の梧桐一葉落ちて金風漸く動きうめ秋色愛すべき

廣島縣内

頃とはなるゆり○舊曆八月朔日は八朔とて農家地神を祀る、女兒ある家にては頼母といひて紙人形など飾るなり各家頼母團子を製して食ふ、此日比治山の下皆實新開にある堅盤神社の祭を行ひ盆踊りありこれを踊りの最終とす○同十五日は觀月なり古來九重の雲の上には月卿雲客を召して觀月の御宴に風懷願情を叙べしめ玉ひ詩人文士も思ひく月に月を賞して夜の更くるを知らず、賤情なき民の家にも明月様とて御酒團子を捧げて祭る、月見の場所は淵崎を第一とし百花園、江波、向宇品又は長橋あたりよし○萩は二葉の里最も多く水主町公園にもあり又平塚町興禪寺境内のものも佳なり○菊は己斐村に多く栽培せらる、別に名たゝる園庭はあられと近頃大に流行し朝顔と同しく各家植ゆるもの少からず

◎十月 此月中旬より十一月にかけては小春日和とて草木に返花を着け春暖に似たる好時候なれば野外に遊歩するもの多し○舊曆九月九日は重陽の節句なり菊を賞して酒宴を爲す栗の飯を炊ぐの例なれば又栗節句ともいふ、この頃より袷衣を着る○同十三日は後の明月とて月を賞する

記 内 案 編 撰

なり枝豆、半等を食ふ俗に豆明月といふ「菊の外更に花なし後の月」(支考)○同十五日は饒津神社の大祭なり都人殆ど参詣せざるなく晝夜ともに股賑を極む○同十九日は中の九日といひて産土神の祭例日なるが市内にては廣瀬神社、神田神社に大祭を行ふ○同廿九日は乙九日として同様産主神の大祭なり、白神社、鶴羽根神社、比治山神社、庭神社、空鞘神社、衣羽神社等に各氏子より俵揉みの奉納を爲すもの勇ましく全市殆ど振ふ

○同二十日は蛭子講として昔より商家の慣例なり胡町の蛭子神社最も盛んなり○釣魚の好時季となり鮎は牛田、戸坂に多く沙魚、チヌ、鰯などは淵崎、草津、江波沖等に釣るべくうの他宇品灣より海田灣の間各所に釣魚の場所ありて魚族亦多し

○十一月 三日は天長節なれば官衙學校には拜賀の式あり各家各町國旗を掲げ提燈を聯ね松竹を植えて 陛下の高歳を祝し奉る、市中には色色の作物を爲し或はシヤギリを出し或は物真似、にわかなを演じて晝夜ともに練歩くこと九月の紀念日と同しく市民狂せんばかりなり○六日は

記 内 案 編 撰

廣島招魂祭を二葉山公園の社頭に行ふ相撲あり撃劍あり十二神社舞等あり○舊曆十月の亥の日に猪子祭として各町之を祭るこの頃より各家爐開きを爲す○紅葉はこの月に入りて甚だ美事なり本市にては泉邸の楓林最もよろしく有名なる嚴島の紅葉は云はずもがな遠近來るもの織るが如し、紅葉時を過ぎなば世はやうく淋うなりて夜景を以て誇る中島邊りも人影疎となりぬべし○農家は十月中旬より稻の収穫に最も多忙を極む

○十二月 中旬より年の市各所に起り各勸工場はじめ町々の商家何れも景品の籤引を行ひ客を引く、迎年の用意にとて衣類、履物、小間物、飾装品、進物品、注連飾、門松、庖厨の雜器等の店最も繁昌す○陰曆十一月八日は吹子祭として鍛冶職の家に祝祭を爲す○年の内には雪は降らぬが例なれどさて雪見の場所は己斐の百花園、二葉の里、宇品などが好かるべし、若夫曉起涼車の便によりて嚴島に波らば最も妙ならざらぬや

勸 工 場

◎中島集産場 中島本町にありて境域総て千三百坪、明治十五年の創設なり、現今は場内に四十許の商店を有し概ね袋物商又は小間物商たり又境内に胡子座、大黒座といへる二箇の寄席あり、その近傍に空地ありて時に掛小屋を營みて興業ものを爲すあり、又晩春の候より晩秋に至るの間は毎夜植木店を出すを以て場内殊に雑沓す

◎中島勸商場 同町慈仙寺鼻の入口にありて集産場と南北相對す、こゝは明治二十五年の開設にして今商店二十戸あり賣店は他と大差あらず場内の賑さ二百五十坪又傍らに鶴の席あり

◎廣島商工俱樂部 西横町を正門とす其他一丁目、細工町、猿樂町等総て五ヶ所より通すべし、明治二十二年の開業にして翌年四月開業式を行へり、敷地最も廣く商店は百二十餘戸あり和洋雜貨店半數に垂んとすこれ亦年中賑盛を呈せり

◎堺町勸商場 堺町二丁目にあり通り抜ければ西新町に出づ、三十二年三月の開業にて同き六月開業式を擧ぐ、現在の店舗は小間物店半ばを

占め其の他時計、陶器、書籍等の店あり、又場内に寄席あり榮座と名く
◎廣島中央勸商場 堀川町にあり是も境域廣く堀川町三川町下流川町等總て四方に通達せり、廣島商業の旺盛は兎角西に偏し東部は常に不振の傾きあるより、東部商業振興の一策として去る三十年頃より有志専ら發起して奔走せし結果遂に開設するに至りしものなり

演劇場

◎壽座 は小網町にあり舊名笹置座と稱す其創設は遠く明治八年にあり、佐々木源藏と云へる人地を本市立町に卜し建築に取かゝりたるが劇場建設區域を西は疊屋町(今の小網町)廣瀬村の二ヶ所、東を猿猴川以東と限られたる制規に反せるがため許されず依つて同人は之を取崩して更に今の小網町に建てたるに創まり、下つて明治二十五年に至る迄二回改築を爲し、その後西本清兵衛の所有に歸し一昨廿二年更に劇場規則に照して改築し同時に座號を壽座と改む、同座は總坪數七百二十坪間口十八

間奥行四十間餘あり、定員千五百三十八人を容るといふ、内外共に木造なれども廣島にありては比較的規模宏壯舞台廣濶にして屋内晴やかに空氣の流通宜しく且樓上の外周に運動場の設備あり

◎新地座 は元猫屋町にあり本市十日市町の木万と云る者座主たりしが明治八年劇場區域を制定せられたるの結果、今の廣瀬村に移したるにて其後木万を始め十日市西引御堂町邊の者數名の合資組織（會社にあらす）となし、去三十一年より三十二年春にかけて全部を改築し以て今日に及べり、内外共に木造なれども劇場規則に適合するやう設計を立てたるものなりと、舞台廻り總坪數等に至つてはやゝ壽座に及ばざるべきも定員は千三百六十五人を容るゝに足る

◎明神座 は元猿猴川の東大須賀村松原の西北にありしを明治十四年に至り現今の京橋町明神濱に移したり、然るにこれより先明治八年警察上の規定に依り區域を猿猴川の東に限られぬため、當場を目して公然劇場といふこと能はず仮りに明神社の祭具保存所と名けて届出を爲し

暫くは許可を得るに至らざりしが時の縣令千田貞曉、前規則猿猴川以東とあるを變更して柳町筋以東となせしかば、直に出願して許可を得始めて明神座と名けたるなり、其後十七年に至り松岡忠助明藤次郎菅野甚七等三名三友舎なるものを組成し全座を改築して共有と爲し後去る三十一年更に増築し内外部の構造を改め今日に達せり、其の大きさは間口十三間奥行二十間、定員千五百余人を容るといふ

寄席

寄席は夜の娯樂場所なり、演劇を見んと欲する人も觀劇は一日を費さるべからざると、費用の嵩むを以て簡易に娯樂を買ふこと能はず、之に反して寄席は人が晝間の業務を終りて後、即ち夜間なれば心置なく娯樂を買ふことを得るなり、木戸錢は安きは三錢より上等五六錢別に割代三錢より八錢迄を要する外、茶火鉢煙草盆座布圍代を高く見積りて十錢を奢れば、異例の上客なり時によりて棧敷代を要することあれば減多にな

し又本市にては兵士の駐屯多ければ、日曜日なほには休暇を當込み晝間興行する事もあり此時は晝の部夜の部を仕切りて二回興行をなす寄席にて演ずるものは落語、講談、男女義太夫、うかれ節、祭文、新内源氏節、身振入形、手品、手踊、音曲、二輪加其他雜藝にして頗る變化に富めり、就中廣島にてはうかれ節、源氏節最も受け、新内、身振入形之に次ぎ、女義太夫又之に次ぐ、落落講談最も受けず、以て寄席の客種何れの邊にあるやを推知するに難からず、さて市内寄席の所在及び座名を記さんに左の如し

- 東 松 原 松の席 下柳町柳橋詰 朝日座
- 中島勸商場内 鶴の席 中島集産場内 胡子座
- 中島集産場内 大黒座 小網町遊廓北手 神明座
- 西遊廓二號地 料藝館 堺町勸商場 榮座

藝妓社會

藝妓と云へば單に宴席に侍りて其の技藝を見するが本職なりしも、今や藝妓の風大に亂れ悪評を買へるは惜むべし、されど藝妓の流行は眞に盛大を極め宴會にも小集にも必ず藝妓あり、冠婚祭葬にもまた藝妓あり、紳士と稱せらる、者妓を提げて大道を洒落く櫛又盛なりといふべきか藝妓は素市の目貫とも稱すべき中央部大手町二三四丁目邊に群り居りしが明治二十六年本川以西に居を移すべく嚴達せられ今は西地方町に往居せり、而して藝妓の券番は東遊廓券番、東西兩券番の三ありて東遊廓券番は一名柳券ともいふ、東券番とは西地方町にある島津、藤見、徳原の三置屋の總稱にて又西券番とは西遊廓内の廣仲、竹内、柴田、本市の四置屋四軒を指せしものなれど、近頃は廓内の外に西地方町へ出店を構へ居れば東西券番の區別曖昧となりたり、されど其の券番毎に多少藝妓の風俗も異り客筋をも異にせり、尙此他に町藝妓なるもの市内松川町、下柳町、新川場町、鉄砲屋町、空鞘町、廣瀬村、太満町等との界限に屋形を有し總數殆ど五十名、大方は町家の婚禮年賀其他の慶事に招かれ此際

は時間の定めをなすと詰り標香の定めなりとかや

遊 廊

廣島に遊廊二あり西遊廊、東遊廊といふ、西遊廊は小網町舟入村に隣り上等筋中等筋下等筋及二号地に區別せられ、總面積一万千五百九十坪貸座敷總數七十戸、娼妓總數三百九十七人ありとか、元花街は左官町并疊屋町の二ヶ所に分たれ居りしを、明治二十五年今の地を區別して移轉を嚴命せられ茲に初めて遊廊あるもの起り舟入遊廊と稱せらる、それより漸を以て榮に大厦高樓軒を並ふるに至り今日あるを致せり、東遊廊は下柳町藥研堀平塚の三町に誇り廿八年戦地より歸還の兵士人夫御用商人軍属等の入込むもの多きより西廊に擬して起り、以て今日に及べりものにて土地の廣さ五千三十七坪、貸座敷總數四十三戸娼妓總數百數十人ありとか

廣 島 案 内

終

は時間の定めをなすとす詰め線香の定めなりとかや

遊廊

廣島に遊廊二あり西遊廊、東遊廊といふ、西遊廊は小瀬町舟入村に跨り上等筋中等筋下等筋及二号地に區別せられ、總面積一万千五百九十坪貸座敷總數七十戸、娼妓總數三百九十七人ありとか、元花街は左官町并疊屋町の二ヶ所に分たれ居りしを、明治二十五年今の地を區劃して移轉を嚴命せられ茲に初めて遊廊あるもの起り舟入遊廊と稱せらる、うれより漸を以て榮に大厦高樓軒を並ふるに至り今日あるを致せり、東遊廊は下柳町藥研堀平塚の三町に誇り廿八年戦地より歸還の兵士人夫御用商人軍属等の入込むもの多きより西廊に擬して起り、以て今日に及べるものにて土地の廣さ五千二十七坪、貸座敷總數四十三戸娼妓總數百數十人なりとぞ

廣島案内 終

廣島著名辯護士案内

著名辯護士案内

(いろは順)

辯護士

廣島市鉄砲屋町三拾六番地

堀江三正

辯護士

廣島市下流川町常林寺北側

富島暢夫

辯護士

廣島市大手町三丁目

岡崎仁三郎

辯護士

廣島市新川場町百六十番地(下中町突當り)

脇屋雄六

辯護士

廣島市小田三十三番地(堀川筋)

横金太郎

(電話番号百三十五番)

廣島著名護士案內

辯護士

廣島市袋町四十七番邸

高田 似壘

辯護士

廣島市堀川町三番邸

高野 一步

辯護士

廣島市西倉屋町九十九番邸

田上 諸藏

辯護士

廣島市小町(堀川筋)

高橋 榮之助

辯護士

廣島市竹屋町二十九番邸

中尾 捨吉

辯護士

廣島市小町十番地(白神社前)

植田 壽作

廣島著名護士案內

辯護士

廣島市小町四十六番邸

山中 正雄

辯護士

廣島市大正町四丁目五番邸

松山 廣隆

辯護士

廣島市堀川町四番邸

本元 園次

辯護士

廣島市中区中町六番邸

坂 繁人

辯護士

廣島市小町

篠原 資

辯護士

廣島市小町六十五番邸

森田 卓爾

著名醫院案内

(525頁)

耳鼻咽喉科診療

今井醫院

小兒科

市川小兒科醫院

痔瘻科專門

有林診療院

婦人科産科

泰醫院

眼科專門

堀田眼科病院

著名醫院案内

齒科診療

味田醫院

腸胃科專門

田中醫院

齒科診療

大塚診療所

耳鼻咽喉科專門

於田醫院

內科婦人科

河野醫院

小兒科梅毒科

河野醫院

廣島著名醫院

產科婦人科專門

廣島市尾道町

橫山醫院

梅毒皮膚病

廣島市段原村二百六十八番(字谷)

尿道病生殖器病

專療梅毒生殖器病

皮膚病梅毒

廣島市大野町

道生生殖器病

上杉醫院

內科

廣島市尾道町

野添醫院

齒科治療

廣島市尾道町

熊谷醫院

齒科專門

廣島市尾道町

矢田部醫院

廣島著名醫院

全科 眼科梅毒

廣島市段原町

松尾醫院

診察時間

午前八時
午後二時

廣島市尾道町

後藤內科病院

內科眼科

下中町

後藤醫院

小兒科

廣島市中島本町(慈仙寺)

小泉小兒醫院

齒科

廣島市大手町三丁目

荒谷齒科治療所

主任 荒谷 靖

內科

廣島市西島町

天野內科醫院

廣島著名醫院案内

廣島市東本川

齋藤病院
院長 醫學士 齋藤為信

廣島市猫屋町

梅毒淋病胃病專門 佐古田醫院

廣島市大手町一丁目(警察前)

眼科 坂本眼科專門

廣島市八丁堀八十番邸

齒科專門 佐々部醫院

廣島市東白鳥町(禿翁寺通)

肺其他胸切 專療 三好醫院

廣島市西寺町(眞光寺小路)

牛馬羊豚犬猫 家禽疾病治療所 廣島家畜醫院

嚴島著名商店案内

嚴島著名商店案内

(東より順路に依る)

宮島驛前東側

元祖 宮島まんぢう(并旅館待合所) 瀬川玉霜堂

本店は元祖宮島町の岡下に營業し、厚切りの皮で宮島饅頭の元祖なり

漁船航海業

宮島驛前東橋及嚴島橋橋間を航海し、上り下りの漁船乗客者毎に運送船海に海上極めて安全僅か五分待たして往復切符は割引す

宮島渡航株式會社

嚴島町字淡の町(橋橋を上げて取付き)

旅館 横山精一

嚴島町字淡の町

旅館 兼回漕問屋 梅林福松

内國通運會社代理店 大坂新船會社代理店 (龜福本店)

嚴島町字淡の町

旅館 平岡音造

三善建

嚴島著名商店案内

旅館

嚴島町海岸通三丁目

宮本本店

旅館兼回漕業

嚴島町海岸通二丁目

内山語助

回漕業兼旅館

嚴島町海岸通一丁目

石井徳太郎

旅館

武内支店

錦水館

◎中洋酒煙草全乳中

井中國新聞賣捌所

嚴島町海岸通一丁目

徳店

旅館兼料理

嚴島町海岸通一丁目

有本館

太根屋芳右衛門

旅館兼回漕業

嚴島町海岸通神社入り口

山本旅館

料理店兼旅館

●嚴島名産七浦貝類料理御支度

●厨上用生貝籠詰

竹崖樓

西洋料理

宮島千疊閣五重塔の下

かき料理 かしわ 手前館

旅館兼料理

嚴島町松の岡

遠翠樓 松岡文右衛門

旅館

千疊閣の向 岩惣支店事

萬象樓

新建の三層樓千疊閣と對して坪石眺望最も廣く且絶佳なり

嚴島町字南町

宮島物産商

村上音松

嚴島著名商店案内

産物問屋

Ⓢ本店

嚴島町字南町

中川 禎吉

旅館 井和洋料理

眺望の寛裕 客舎の設備 食事の新鮮 宿泊料の低廉を以て特色とす

京坂 樓

大旅館

沼田本店は産物商にして本旅館より紅葉谷に至る月あり

蓬萊 館

Ⓣ宮島物産商

美術彫刻品裝飾物各種

嚴島町紅葉路通り角

岩村 熊吉

九谷焼特約手販賣

嚴島町紅葉路通り

藤岡 商店

Ⓝ宮島産物商

嚴島町紅葉路通り 裏 調子 梅吉 (岩惣支店)

宮島産物商

嚴島町紅葉路通り

東川 峰三郎

旅館

嚴島町紅葉路通り

枕流 亭

宮島産物商

嚴島町紅葉路通り

江上 順吉

宮島産物商 井御砂焼

嚴島町紅葉路通り

小林 一松堂

宮島産物商

美術彫刻品裝飾物各種

嚴島町紅葉路通り

當川 福松

✧ 旅館

もみち谷

當川 天然堂

嚴島著名商店案内

嚴島著名商街案内

大旅館

みや島もみぢ路公園

岩惣本店

岩村平助

雪舟築調の園庭

岩惣別荘

嚴島町字瀧町(御山の登り口)

古器物繪畫陳列場 大久保子之吉

嚴島町大西町 大願寺境内

旅館并料理

海山樓

官島第一の景勝地

大元公園

大儒澤三石手植の名楓、名木時雨の櫻、松風の籬、麓の森、皆これ
當境内の著名なるもの、春の花、夏の避暑、秋の蟲の聲、冬の雪
いづれも佳絶ならざるはなし、時鳥を聞くは最もこゝを佳しとす

大旅館

新もみぢ

白雲洞

嚴島案内

◎嚴島の地理

嚴島は佐伯郡の海中にあり同郡大野村を距る近きは七

町に過ぎず島の周囲七里三十二町東西二里六町南北一里巍然として海中
に峙立し樹木鬱蒼山勢秀拔なり山を御山といふ、市街は峯の北麓海濱に
横はりて東西十町南北二町あり南面を分ちて小浦町、濱の町、海岸通三
丁目、二丁目、一丁目、幸町、中の町、北の町、伊勢町、後町、薬師
町、塔の岡、大町、南町、中江町、瀧町、中西町、大西町の十八とし戸
數六百九十餘戸、人口三千百五十餘人を營す、海岸通の前面は嚴島灣に
して東に棧橋あり東波止場、西波止場亦灣内にありて船舶繫留に便せり
島の北並に西は佐伯郡廿日市、地御前、大野の諸村を望み其間僅に一帯
帯水指呼の間のみ、又島の南方は近くは似島、能美島、那沙美、黒洲、
阿多々、甲島の諸島と對し遠くは煙波漂渺として伊豫の諸山を望むべし
本島に交通するの便海陸二あり陸よりするものは山陽鉄道の各驛よりし
て大野村字赤崎の宮島驛に下り棧橋より船に乗るに海上僅に二十余町十

嚴島の地理

嚴 島 案 内

◎嚴島の地理 嚴島は佐伯郡の海中にあり同郡大野村を距る近きは七町に過ぎず島の周囲七里三十二町東西二里六町南北一里巍然として海中に峙立し樹木鬱蒼山勢秀拔なり山を御山といふ、市街は峯の北麓海濱に横はりて東西十町南北二町あり市場を分ちて小浦町、濱の町、海岸通三丁目、二丁目、一丁目、幸町、中の町、北の町、伊勢町、後町、薬師町、塔の岡、大町、南町、中江町、瀧町、中西町、大西町の十八とし戸數六百九十餘戸、人口三千百五十餘人を有す、海岸通の前面は嚴島灣にして東に棧橋あり東波止場、西波止場亦灣内にありて船舶繫留に便せり島の北並に西は佐伯郡廿日市、地御前、大野の諸村を望み其間僅に一帯帯水指呼の間のみ、又島の南方は近くは似島、能美島、那沙美、黒神、阿多々、甲島の諸島と對し遠くは煙波漂渺として伊豫の踏山を望むべし本島に交通するの便海陸二あり陸よりするものは山陽鐵道の各驛よりして大野村字赤崎の宮島驛に下り棧橋より船に乗るに海上僅に二十余町十

嚴島の地理

分を出でずして達すべし、又海よりするものは中國通ひの定期瀬船常に寄港し此外廣島市よりは番船の通ふものあるなり

◎嚴島神社 本社は嚴島町の中央に在り宮殿乾位に向ふ國幣中社にして市杵島姫命、田心姫命、湍津姫命を祭り相殿に國幣立尊、天照皇大神、素盞鳴尊を合祀す、今本社鎮座の縁起を釋ぬるに人皇三十四代推古天皇の元年癸丑佐伯郡の人佐伯耨職、所の翁と共に同郡恩賀島(嚴島の舊名)に釣りしてありけるに紅の帆を揚げて西より來る船あるを見る、漸く近ければ船中に三女神あり船に嚴鉾、赤幣を立て嚴瓶を置けり女神鞍職を見て宣はく吾は古より此島に在りて幽事を治め百王を鎮護せり故に汝朝廷に奏して祠殿を造營すべしと鞍職これを畏みて京師に上り神託を奏聞して勅許を蒙り島に歸りて新たなる船を造り彼の所の翁と共に島の浦々を見巡れるに時しも神鴉あり山上より來りて船の邊きを爲し終に御笠濱に止まる、二人依つて神意の命する所なるを知り大岩小石を打均し齋斧を以て樹木を切取り高天原に干木高く新宮を造立てた

るは是年十一月朔日にして今の社地即ちこれなり、或は曰く初め三柱の神の此島に鎮座ありしは人皇十一代垂仁天皇の御宇にして山嶺の東南にある御山神社この舊跡なりと、斯くて創建の後朝廷より屢々修理を加へ祭式も嚴かに擧げさせられける由傳へあり、但し天文十五年當社神主源廣就佐伯郡櫻尾城主たりしに際し大内義隆に攻滅ばされ舊記多くは兵火に罹りて燼亡したれば確に其の詳しきを知る事能はされど延喜式神名帳に安藝國佐伯郡伊都伎島神社とあり又三代實録に當社贈位の事見ゆたれば其の頃御祭式の事も鄭重なりしを推知すべし、平清盛安藝守たりし時厚くこの神を崇敬しその太政大臣たるに及びて益々尊信し神領を増し社殿を營み攝社、末社、廻廊、華表に至るまで大に修理を加へ壯觀を増しぬ、斯くて承安四年申午後白河法皇行幸あらせられ治承四年庚子高倉上皇亦臨幸ありて金銀の幣帛を捧げ給ふ、降りて源氏足利氏信幸し仁安元年祠官佐伯承弘は私資を投じて神殿を改め造り其の他當國の領主大内、毛利、福島、淺野の諸家とも社領を寄進し絶えず修理あり殊に豊臣秀吉

朝鮮を征し九州名護屋に赴くに當り本島に兵船を寄せて篤く戦勝を祈願せし事あり王政維新に際し更めて勅願所と定められ明治四年神佛兩部の混淆を分け別當供僧を廢し尋で國幣神社に列せらる

今參拜の路順に依り「神社の案内」を爲さんに嚴島に渡りたる者は有の浦（東、棧橋より西、御笠濱の尖頭に至る間を云ふ是即ち嚴島港也）より上陸し海岸通商家櫛比せる町を西すれば再び海濱に出で道途左に沿ふて屈曲すこ、を御笠濱と稱す、海水これより斗入して大なる池を形成すこれを總稱して玉の御池と云ふ即ち本社鎮座する所なり、本社拜殿の左右に廻廊あり、屈曲百四十八間二尺其の右に盡くる所北入口にして參拜者これより進み途に客人社を過ぎ廊左に鏡の池を見、朝座屋（往昔神職の社事を取扱ひし勤務所なり）を右に折れ屈曲して本社拜殿に至る、本社は本殿（祭神鎮座の正殿を云ふ六座有）大床（正殿の周圍を云ふ四方の縁幅五尺）幣殿（正殿の前にあり）拜殿（幣殿の前にあり三棟より成る）板殿（拜殿の前を云ふ）より成る、又板殿の前方に高舞臺あり左右に青銅の獅子

并石燈籠を置けり、高舞臺を挾て兩脇に板敷あり廣さ百八十六坪臺下の支柱は悉く赤間石を用ふこれを平舞臺と爲す平舞臺を左右に開きて盡くる所各一構あり樂房たり又平舞臺に聯續して中央海中に突出せる尖頭に一基の金燈籠を設く此を火燒前と云ふ遙に海中の大華表と相對す、火燒前の左右樂房に接近して門客人社あり豊石窓神、櫛石窓神を祭る俗にこれを泚の惠美須と稱す、これより拜殿の左に進まんに大宮の左傍に大國神社、天神社あり大國神社の前より御花島に渡せる板橋を長橋といふ、又反橋は廻廊屈折する所にあり御池に架したる半圓形の木橋なりこの反橋を左手に見て更に右すれば能舞臺に通すべし能舞臺は三間四方にして能樂興行の時には前方の海上に棧敷を架設し以て觀覽場に供ふ揚水橋といふは本殿の右側にあり、其他神供所、社務所皆本社の傍に構へらる、又前に掲げたる

◎客人社 是未申の方角に向ひ正哉吾勝々速日天忍穗耳命、天穗日命、天津彦根命、活津彦根命、熊野樟日命の五座を祭る、建物は本殿、大床

神社案内

幣殿、拜殿、葎殿にして後に海水を隔て、瑞籬を廻らせり。

◎大華表 有名なる大華表は火焼前を距る八十八間の海中平沙の上に建てり満潮の時は参詣の舟白帆を揚げて之を潜り來り、退を廻廊に繋ぐべく潮干る時は二三町餘りが間一面干瀉となり麋鹿悠然として徘徊し人道遙して介石拾ふべし、本社創建の後仁平年間平清盛再建しその後屢改造あり現代のものは明治七年十二月斧始めありて同き八年七月竣工式を擧ぐ之が扁額には有栖川二品熾仁親王の御筆にて表裏二面あり表の分は「嚴島神社」とあり裏の分は「伊都岐島神社」と記されたり、この大鳥居創建の年代は詳かならざるも往古の額字は表は小野道風の筆、裏は弘法大師の筆なりしが湮滅して筆蹟見分け難くなりたりと、又天文十六年改造せし時の額は後奈良帝の震筆にして大内義隆直筆の勸状添へり共此今猶神庫に秘藏せらる

◎千疊閣 本社の右翼龜居山上にあり、豊太閣朝鮮を征するや本社に賽して戦勝を祈り効ありしかば翌年凱旋の際報賽のため建造したるなり

と、舊時は大經堂と稱し本尊阿彌陀如來に賽し毎月千僧を集めて誦經供養するの例ありしが維新後佛を他に遷して今は豊國神社を安す、閣は頗る濶大宏壯にして巨材より成り海上風濤の景甚だ觀覽に富めり

◎五重塔 は千疊閣の南に隣り方二間半、九輪まで高さ凡ろ十丈應永十四年七月の創建なりと、後二百二十餘年を経て殆ど頽廢に及ばんとせしを天文年間時人これを歎きて再建し壯觀舊に復するを得たるなりと

◎大願寺 本社西廻廊を出で御手洗川のはどりに當る兵言宗大覺寺末たり、本尊は藥師如來にして脇立に釋迦如來、阿彌尊者、迦葉尊者あり延暦廿一年壬午の創立にかゝり天臺宗なりしを後弘法大師來りて眞言宗に改めたるなり、庭内に小松内府重盛手植の松の古跡あり、又小西行長の植えたる白檀樹あり、その他平相國の寄附せし大風呂釜などあり、本尊藥師如來坐像(空海の作なりと)を始め脇立の釋迦如來坐像(行基の作なりと)阿彌尊者立像、迦葉尊者立像は共に國寶と定めらる

◎大元公園 廻廊を西に渡り盡せば松原あり左に御手洗川流る、これ

より海濱に沿ひ曲折すれば緑樹亭々樹下青芝を敷くの邊り石風呂あり、此地街衢に懸絶し靜閑にして海に枕み數十株の櫻樹あり艶陽の候最も好適の地たり、これより西を大元浦といふ漸く進むに従ひて一望の平原左に開き老杉鬱蒼たるの間 祠 ありこれを大元神社となす、國常立尊、大山祇尊、大國主神を祭り相殿に佐伯鞍職の靈を祭る、境内古幹老樹深鬱として両山の間に聳立し其の窮るところ瀑布あり松風の瀟といふ、又溪流あり澗澗として山間より來り圍側を斷ちて海に注ぐこれを大元川とす溪畔樓榭あり家を白雲洞と名く風致また紅葉瀾に類せるか故に新紅葉の稱あり、幽邃閑雅にまて樹間に海水を望み最も致趣に富めり、又時雨の櫻あり社前の山を橋山といひろの邊りを麓の森といふ時鳥を聞によろしく又蟲の聲賞すべし、此の地の櫻花は本島八景の一たり

◎清盛山 大元神社の當面石階を登りて後山に通ずるに丘あり昔平相國許多の石材に法華經の影目を彫りて之を埋め且寶塔を建設したるなりと、此地を經の尾と稱す四時掛茶屋を營みて客に供す公園見晴しと稱ふ

◎寶山神社 二層より成り高さ八間餘本尊に藥師如來を安置せしが維新の際佛を廢して清正公を祀れり、太永三年の建設なりと二重塔と稱す古社寺保存法の規定に依り特別保護建物とせらる

◎大聖院 御手洗川の西南、瀧町を入りし奥にあり御山の巒に位す、當寺は元殿島神社別當職にして世々これを座主と稱す、創立の年代は詳かならざるも中興の開山と稱するは法蓋の聞の高き學匠 日輪 上人なりと、其の後康正二年丙子銀山城主武田國信佐伯郡神領を侵すや時の神官僧侶廿日市櫻尾城に籠りて防戦せまに寇火遂に城に罹りて燃上し城中に藏せし古記文書多く亡び猶 災 を免れしものもありしが天文二十三年甲寅後奈良天皇の御覽に供するため當山住職法印權大僧都長辨記錄什寶を一船に搭載し都に上るの途中圖らずも播州に於て暴風に船を破られ齋す所の古記文書魚腹に葬られたるため典故の照し見るべきなく寺傳確ならずと、天正年中仁和寺宮入道一品親王殿下嚴島神社に參籠あらせらるゝや長辨の遺弟長政幼年なりしかば親王座主坊に止住あらせ給ひ累年法流

を良政に授け給ひし故により往昔より仁和寺院家の任を世々にしたり
 したり、舊の建物は客殿十一間に八間庫裡十三間に七間、延寶四年丙辰
 二月當國の太守淺野綱長公再建し其後天保八年丁酉同少將齋賢公又再築
 せらる、建物は白木造板葺にして客殿をば往昔より御所の間と稱し一品
 任助親王殿下御止住あらせられしによる、又當院を連歌會所と稱す昔豊
 臣秀吉公參詣の砌當院の林泉閑雅にして頗る丘豁の情を養ふに適するを
 賞して和歌の會を催はせしに因むと、土藏、鐘樓門、大門、勅願御祈禱
 堂等に至る迄悉く完備し過ぐる明治十八年七月 今上天皇陛下初めて此
 地に行幸あらせらるゝや蹕を當院に駐めさせ給ひたるに越て同二十年十
 二月十日不幸火災に罹り山門悉く烏有に歸し今は唯其礎趾を存するのみ
 (附記) 嚴島御室の事并御廟の事
 嚴島御室と申すは一品親王法諱を任助と申し奉り伏見貞教親王の御子
 にして御母は轉法輪太政大臣三條實香公の女 後奈良院の御猶子なり
 、法親王鎮西法流の興隆を思召し立たせ給ひ御下向の途次高鷲を當島

大聖院に移させられ暫時御滯錫ありける中に御異例にて終に病革るに
 至らせられければ避けて東の坊(後西方院と改む今の岩惣別荘)に 御遷
 りあり聽て葬去し給ふ、乃ち御遺骸をば對岸赤崎に葬り奉る今に此の
 地を稱して御室とは稱し奉るなり、この御廟所は赤崎御室山に在り高
 さ二十四尺七寸幅一尺二寸の五輪塔一基にして四方に玉垣を結へり、
 塔には正面に「嚴島御室」とあり側面に「天正十二年十一月二十九日」と
 彫刻せらる、この地は要の崎と稱し山を堤山と呼びたりしが法親王ろ
 の高潔にして秀拔なるを愛し一株の櫻樹を手栽し給ひて宜はくわれ入
 滅せば宜くこゝに葬るべしと此を以て御遺令の如くしたるなりと云、
 右の櫻樹は後五幹となりて大に榮け今猶存せり之を御室の櫻と云ふ
 ◎寶庫 是筋違橋の上手に當る、本社ほんしやの寶物藏にして古來珍器重寶を
 藏むる所たり、この建築を哇庫作りといふ奈良法隆寺のものと同じ結構
 なりと但し建設の年代詳かならず
 ◎寶物陳列館 本社ほんしやの背後廣やかなる平坦地を御垣ヶ原といふ明治四

年まではこの地に本地堂ありて観音の原と稱へたり今寶物陳列館こゝにあり、本社藏するところの刀劍甲冑書畫經卷鏡玉樂器の類皆こゝに陳列せられ拜覽料を徴して庶人の縦覽に供せらる

◎三翁神社 御垣原の東、大町にあり祭神佐伯鞍職、所の翁、岩木翁にして別に大己貴命、平相國を合祀す、其他荒胡子神社は五重塔の麓にありて素盞鳴尊を祀る、又文庫はうの北手千疊閣の南石階を下りし所にあり本社の書籍を藏む、御厩その又北にあり廻廊北の入口と相對す

◎紅葉澗 御手洗川の上流に位し南町の奥にあり奇石怪岩索綜として岸を綴り溪水清く或は奔馳して巖に激し或は昂騰して空に玉碎し區々趣を異にし曲々態を變ず危橋、亭榭其の間を補綴し風致を添ふ殊に岸上樹多く錦染め爲す秋の頃には千枝爛熳二月の花よりも紅にして之が絶景嚴島第一と稱す其他春の櫻花夏の避暑何れか優劣あらんや、園内の旅館を岩惣と呼ぶ、この東奥に谷ヶ原といふあり平原を爲し鹿多く棲息す嚴島入景の一たり、露結び莖葉紅なるの候吻々の聲楓樹の間に起る此時

に當り落葉を踏んで鹿鳴を聴く風流の樂蓋しこれに過ぐるもの莫ん御垣ヶ原の東側三翁神社を右手にし東に屈折して登るを塔の岡と稱す五重塔、千疊閣の建てる龜居山の聯脈にしてこの隆起せる一大岬角を以てまさし嚴島町を東西に中斷せるなり、この岬角を東に超れば北に海岸通(即ち本町とす)南に幸町中の町北の町あり其他伊勢町濱の町小浦町等皆この東半部にあるなり、而して幸町に幸神社あり猿田彦神を祀る此邊を金鳥居と呼べり昔は金鳥居の辻君とて遊女の住めりし由、此外塔の岡の北手に北の神社(祭神猿田彦命)あり、又中の町にある小學校背後の山麓に人丸神社あり柿本人丸を祭る、又伊勢町の山上に今伊勢神社あり天照皇大神を祭れり

◎光明院 塔の岡の上にあり淨土宗京都知恩院末にして阿彌陀佛立像を本尊とす寛永元年九月の創立に係る、所藏の重寶中絹本紺地金彩彌陀三尊來迎の圖一幅並に本造阿彌陀如來立像一軀は國寶と定められたり、其他稱名庵、寶珠院等あり寶珠院は眞言宗仁和寺末にしてその本尊阿彌

陀如來は往昔當島の漁夫網の浦にて掬揚げたるなりと、又若光寺は伊勢町にあり禪宗たり、當寺徳壽庵に安置する地藏尊は佛牀化して半身金質となりし靈佛なりとて金石地藏の稱あり

◎長濱神社

宮島棧橋より東するを小浦といふ、小岬角を東に下れば

一帯の海濱白砂を敷き陸に老松茂れり長濱と稱す又八重濱の名あり、前面蒼瀨を隔て、對岸大野村を望む又眺景の勝域たり、こゝに長濱神社あり興津彦神興津姫神を主祭し相殿に所の翁の靈を祀る、濱の東端に海水疎松の背に斗入して一池を形成するのところ夏時海水浴場を開く

◎名所舊跡

嚴島の地行くとして名所ならぬはなく探るとして舊跡に

あらざるは無し、上記したるもの、外尚名所古跡の重なるものを列舉せん△朝座尾清水 朝座屋の背後にあり水清冽にして味甘し昔し難病者この水を呑みて忽ち癒ゆるもの多かりければ一に藥の水とも云ふとぞ、此水の湧出づる所に限り盤氣少しもなく潮退きて直に汲用ゆるに味ひ淡水に異ならずとなり△卒塔婆の舊跡 朝座屋より本社に越す左方鏡

の池の内に大なる石ありこれを卒塔婆石といふ昔し平判官康頼、法勝寺の入道俊寛等と共に鬼界ヶ島に謫流せられたるとき都に残せる老母を思ひ出で故郷戀しさの餘り千本の卒塔婆を造り之に左の二首を彫りて流しけるに其内の一ツ本社に流れ寄りてこの石に掛りたるを當時康頼に縁ある僧京師に送りて法皇の御覽に供しければ法皇の孝養の志を慰ませ玉ひ平相國またこれを聞き神慮のある所なりと爲し遂に康頼を赦して都へ歸されけるとなん、「思ひやれ暫しと思ふ旅だおも、なほ古さとは戀しきものを」薩摩がた沖の小島に我れありと、親には告げよ八重の汐風△康頼の石燈籠 この所揚水橋を渡りたる傍に一基の石燈籠ありこれ即ち康頼の寄附せしものにて歸郷後神明の加護を感じ奉養したるなりと△御幸松 平橋より御花畠に出でたる所にあり承安年中後白河天皇御臨幸の時此に行在所を建て松の木を御所と稱へさせ給ひしと傳ふ松樹は幾多の星霜を経て巨木となりしも今は枯朽して僅に根幹を残すのみ△松原 本社西廻廊を出で御手洗川に沿ひて海中に斗出せる所白砂の上老松林

を成せるあり翠蒼海波に映じ其間百八の燈籠駢立す、この所海上の眺
 めまた一段の風趣あり△瀧の尾 濱の町を南に入れば一の高原あり瀧の
 尾といふ頂きに小飛瀑あり故にこの名あり此地昔時は丈六の大佛を安置
 し大御堂又は大佛の原と呼びしを近年今の名に改む、此の邊櫻樹多く眺
 望また開諭なり此所の茶屋を櫻ヶ茶屋と呼ぶ近年又梅樹を移植し年々繁
 茂して花時には暗香馥郁また一佳境なり△尼の洲 有の浦に當る傳へい
 ふ壽永四年源平壇の浦の合戦に二位の尼安德帝を抱き奉りて入水せし
 に當り尼の屍漂流して此所に着したりと依て此名あり△宮の尾 濱の町
 より小浦に通ふ途中一岬角あり要害の鼻と稱す毛利元就陶全蓋を討つや
 城壘を築きたりし古趾なりと今伊勢宮鎮座せるを以て又宮の尾の名あり
 △西行返り 小浦より長濱に陟る岡の高所を西行返りと名く昔し西行法
 師此島に遊びける時こゝにて島の女に道を問ひけるに頼に對へせざりけ
 れば西行法師「空蟬のもぬけの殻にこと問へば山路をさへも教へざりけ
 り」と咏みける、女は、笑みて藻脱けのからかどこと讀むべけれ既に殼

にど見定め給ひたれば教うるに由なしといひける、西行言葉窮して遂に
 此處より引返りしと云ふ是此の名ある所以なり△陶全蓋戦死の地 本島
 七浦胡子第四番目の禮拜所に青海苔神社といふあり此浦より山に入る十
 三町高安ヶ原といふは陶全蓋毛利氏に攻められ此の地に遁れて自殺せし
 舊跡なりと、又一説に陶の戦死地は大江浦なりとも云へり
 ◎御山 御山は一に彌山とも書くなり蓋し弘法大師梵閣を當山に營む
 や山勢の峻秀突兀たるに因み須彌山に比し彌山とは書きたるなりと御山
 といふは素明神の鎮座在ます山なるが故に斯くころ書きける義なりと予
 山は嚴島本社南に聳へ海面を抜くこと一千三百六十五尺山中神祠佛閣
 及び數箇の名所あり峯の頂に巖石あり之に賽するを御山詣とはいふな
 り、山中に神鴉あり鳥廻り御鳥喰のとき出て、式を爲す靈鴉とは是なり
 傍御山參詣者は字瀧町を山麓に進み大聖院の傍より登臨の途に就くべ
 し、一の鳥居あり御山登路の始めなるを以て斯くは名く、之を過ぎて進
 むと一町余此間地藏堂、大師堂、祈不動堂等あり△瀧宮神社 は湍津

姫命を祭る社後に瀑布あり白糸の瀧と稱す高さ十二丈水勢激しく直下
 ちて白糸を懸くるに似たり、此邊夏時螢多く水に映じて最も妙なり瀧の
 宮の螢とて八景の一たり、瀧の前平面なる磐石あり治承四年高倉上皇
 行幸の砌此の岩上に瀧を叙覽あらせ給ひしより名けて御幸石と稱す、こ
 れより登ること六町にして中堂あり路峻険なるを以て參詣人此所に休憩
 す故に休堂とも云ふ、眺望佳絶最も賞愛すべし、進みて阪路より谷向ひ
 に當り巖石數十丈の絶壁を爲せるあり其の様恰も幕を張りたるが如くな
 るより幕岩と名く、又中堂より五町程にして力石と呼ぶあり里諺によれ
 ば福島左衛門太夫正則登山せし時此所に來りて怪異なる山伏に出遇ひ不
 思議なる事ありければ憚りて其の儘下山したりと仍て太夫戻しの石とも
 呼べり、漸くにして仁王門に達す一の鳥居より十六町、古へは此門より
 上を彌山の本山と云ひて未の刻以後は庶人の登山するを許さざりしなり
 總じてこれより上は巨岩怪石累々疊々として觀望悉く壯大なり、水昌石
 といふは大き一丈餘にして中央に穴あり内部を覗くに石心悉く水晶な

り△御山神社 麓より十八町の所にあり、當社は嚴島大明神御笠濱に
 鎮座のはじめ影向ありし舊跡にして本社と同じく三姫神を鎮め祭りぬ中
 世に至り追長鬼神、魔羅鬼神、時眉鬼神を合せ祭りて一時は佛家に歸し
 更に大神の名を唱ふるもの無かりしを明治四年神佛混淆を甄別せし際舊
 に復して今の名に改む△求聞持堂 御山神社を更に進めば求聞持堂なり
 平城天皇の大同元丙戌年弘法大師歸朝して護摩求聞持の法を修めたる
 靈場なりと、堂内に爐火あり大師が護摩を修したるより以來一千有餘年
 の久しき今日に傳はりしものにて修法の行者跡を絶たすと云へり、現今
 の堂宇は明治廿七年の建立、又本尊は虚空藏菩薩にして大師の自作なり
 と傳ふ、堂傍より下瞰するに似島、能美、那沙美、阿多々、黒髮、甲島
 の諸島玻璃の如き海上に羅列し又遙に漂渺の間に周防或は四國の山霞を
 望むべく絶景眞に去るに忍びざるなり、堂後に清泉あり大師修法の際加
 持水に用ゐしものにて之を關伽井といふ、又下方に曼陀羅石あり數丈の
 大盤石にして表面に梵字を書し別に眞字にて三世諸佛、天照大神宮、正

八幡三千七百餘座の名を勒せり共に弘法大師の手に成れるものなりと、
 後方に回り登るに小堂多く又鐘樓あり巨鐘を懸く治承元年右大將宗盛寄
 進せしものなりと△毘沙門堂 あり水精寺と稱す往時は毎年正月元日よ
 り七日まで供僧修正の法を行ひ六日の夜はこれが結願に當るを以て諸方
 より參詣するもの多かりしと今も其の遺例を存し六日年越(舊正月六日)
 には登山するもの殊に夥し、堂側に岩屋不動あり巖石自然に屋蓋の形を
 成しその内に不動尊を安置せり、これより猶登れば△頂上石 に達す高
 さ三丈周圍四丈なりこれを御山の絶頂となす一の鳥居より都て廿二町岩
 下に佇みて眸を放つに東は廣島の市城を望み西は周防の群蠻を遠見すべ
 く而して對岸國道筋の地御前、大野等の人家は近く眼下にあり又南方の
 海中には島嶼の基布せるもの、帆船の洋上に漂游するもの宛ら名匠の畫
 圖に異ならず眺望最も多趣なり、頂上石の下に當り數百年を経たる杉
 樹あり今は枯朽して僅に其の根幹を存するのみなるが此所海上に出現
 する龍燈を觀るに最も好き地なるを以て龍燈杉の名あり、是より漸く降

路に就けば満干石あり元起したる岩石に一箇の穴あり此穴潮水満つる時
 刻には水充溢し潮 退く頃には乾涸して一滴を残さず恰も海潮に満干あ
 るが如し故に此く名けたるなり、又船石といふあり其形の似たるを以て
 名くこの傍を過ぐれば△大日堂 あり胎藏界大日如來金剛界大日如來を
 安置すこれ亦弘法大師修法の道場として建立せしもの往古は神護寺と稱
 して御山本堂となせりし由、其他龍ヶ馬場といふは岩の上に馬蹄の跡あ
 り又駒ヶ林の稱あり陶全選の將弘中隆包、毛利氏の軍と戦ひ敗北せし所
 たり駒ヶ林は蓋し駒返しの説傳なりと云ふ、三劍窟はこの路に當る昔三
 段に折れし劍を納めし場所なりと、此邊を鹿屋谷と稱す又龍ヶ窟は昔龍
 の抜けたりと稱する所にて巖穴ありうの深さ探るべからず、これらを過
 ぎて護摩谷に出づ△護摩谷 は磐石覆ひかゝりて室を成す内に大師の像
 を安置す、これより降るに前の仁王門に出づべし元の登路にして下れば
 瀧町に歸るなり是にて御山詣で終りを告ぐ。右の外奥の院といふは御山
 神社より六町程を隔てたる未甲の方角にあり大師堂彌勒堂等ありしも今

は廢れたり、又その往路に當り三鬼神堂ありて、亦海洋の眺めあり
 ◎鳥巡りのこと 嚴島に七浦あり浦毎に各々神社を奉安す七胡子とは
 即ち是を云ふ、舟楫を傲ひて之を一周するを俗に島廻りといふなり、抑
 も此の儀式は太古大神の當島に鎮りまするとき佐伯納職、所の翁と共に
 社地を定めんため島の浦々を巡檢するに靈鳥の導くところとなりしに因
 みて起りたるものにてその儀式の梗概を記さん、一艘の船に四手切か
 けたる櫓を立て神官之に乗じ管曲を奏しつ、第一に進むこれを御師の船
 と稱す、而して別に客船は帳幕を張り清く裝飾を施して願主を乗せ水主
 等櫓拍子揃へ祝ひの歌を誦ひ御師の船に次で漕出す、又宿船之が後へに
 從ひ御山を右に仰ぎつ、島の東浦より巡り始むるなり、順拜の中に就き
 て殊に靈妙なる御鳥喰の式はこれを養父崎神社においてす、左に浦々の
 順路を掲ぐ△聖崎 島巡りを爲すもの先嚴 島 港有の浦に櫓を解きて東
 に向へば島の東端に聖崎あり風景佳絶にして其の海上に蓬萊岩あり岩上
 に古松數株蟠屈するありて恰も畫幅の蓬萊島に似たり故に此名あり、清

島巡りの儀は、太古大神の當島に鎮りまするとき佐伯納職、所の翁と共に社地を定めんため島の浦々を巡檢するに靈鳥の導くところとなりしに因みて起りたるものにてその儀式の梗概を記さん、一艘の船に四手切かけたる櫓を立て神官之に乗じ管曲を奏しつ、第一に進むこれを御師の船と稱す、而して別に客船は帳幕を張り清く裝飾を施して願主を乗せ水主等櫓拍子揃へ祝ひの歌を誦ひ御師の船に次で漕出す、又宿船之が後へに從ひ御山を右に仰ぎつ、島の東浦より巡り始むるなり、順拜の中に就きて殊に靈妙なる御鳥喰の式はこれを養父崎神社においてす、左に浦々の順路を掲ぐ△聖崎 島巡りを爲すもの先嚴 島 港有の浦に櫓を解きて東に向へば島の東端に聖崎あり風景佳絶にして其の海上に蓬萊岩あり岩上に古松數株蟠屈するありて恰も畫幅の蓬萊島に似たり故に此名あり、清

内 案 島 殿

は廢れたり、又その往路に當り三鬼神堂ありこゝも亦海洋の眺めあり
 ◎鳥巡りのこと 嚴島に七浦あり浦毎に各々神社を奉安す七胡子とは
 即ち是を云ふ、舟楫を備ひて之を一周するを俗に島廻りといふなり、抑
 も此の儀式は太古大神の當島に鎮りまするとき佐伯納職、所の翁と共に
 社地を定めんため島の浦々を巡檢するに靈鳥の導くところとなりしに因
 みて起りたるものにてその儀式の梗概を記さんには、一艘の船に四手切か
 けたる櫂を立て神官之に乗じ管曲を奏しつ、第一に進むこれを御師の船
 と稱す、而して別に客船は幔幕を張り清く裝飾を施して願主を乗せ水主
 等櫂拍子揃へ祝ひの歌を誦ひ御師の船に次で漕出す、又宿船之が後へに
 従ひ御山を右に仰ぎつ、島の東浦より巡り始むるなり、順拜の中に就き
 て殊に靈妙なる御鳥喰の式はこれを養父崎神社に於いてす、左に浦々の
 順路を掲ぐ△聖崎 島巡りを爲すもの先嚴 島 港有の浦に纜を解きて東
 に向へば島の東端に聖崎あり風景佳絶にして其の海上に蓬萊岩あり岩上
 に古松數株蟠屈するありて恰も畫幅の蓬萊島に似たり故に此名あり、清

内 案 島 殿

明四五月の頃和風靜波の日蓬萊島の沖朝霧晚霞の中に宮殿樓閣園庭等の
 幻影現はる、ことあり是所謂居氣樓の類なるべし
 △杉ノ浦神社 底津少童命を祭る御本社大島居を距る東三十町島巡り
 第一の拜所△包ノ浦神社 大島居より一里十四町、盤土翁を祭ること、
 は七胡子の外とす△鷹ノ巢神社 底筒男命を祭る島巡り第二番目の拜
 所△青海苔浦神社 中筒男命を祭る大島居より三里七町船こ、にて午
 飯の式を行ふ△養父崎浦神社 青海苔浦より十五町にて達すこ、にて
 御鳥喰の式あり神鴉を招降す△山白濱神社 第五番目の拜所にて大島
 居より四里四町、表津少童命を祭る△須屋浦神社 山白濱より弱一里
 表筒男神を祭る第六の拜所にて餠餅の饗を行ふ△御床浦神社 第七の
 拜所にて市岐島姫命を祭る、社傳にいふ此浦三柱の神の天降り給ひし
 ときの眞床なりと
 右にて七浦の拜所終り次で大江浦に至れば海濱に二丈餘の窟あり貝殼塚
 といふ、陶氏滅亡のとき殘卒此地に潜伏し貝を拾ひて餘命を繋ぎし所な
 りと、其側に内侍岩と呼ぶあり、大江浦より船踏瀉に越す佳昔平宗盛
 御山へ寄附せし巨鐘を鑄造せし地ありと晩春の交潮干狩によき所なり次
 で網の浦に歸る大島居より順次廻り歸りて此所に至れば六里二十七町あ

名所案内

廿四

り、寶壽院本尊阿彌陀如來の絹にかゝりて上り玉ひし地なりとて名けたるなりと、島廻りの船此所にて願主の一行上陸し大元神社に參詣して本社に歸るこれにて七浦七胡子島廻の式全く終りを告ぐるなり、

◎嚴島の入景 是前來記述せる中已に掲げたるもあれを更に左にその名を列載し且流風を収録し以て其の景致を窺はんとする

△社頭明燈 みつ潮の波のよるく燈の影も静けき神の宮居に 久寛

△大元櫻花 長閑にも霞かはりて大元の宮居の濱は花に明行く 月泉

△瀧宮水盤 木蔭まで散來る瀧の白玉と見れば螢のかよふ神垣 知足

△鏡池秋月 名もしるく曇らで幾世磨らん鏡の池の秋の夜の月 幸榮

△谷原麋鹿 鳴く鹿の聲は秋なる谷原岡への松は常磐ながらに 實積

△御笠濱暮雪 浦波の色も一に降積る雪を御かさの濱の眞砂地 實岑

△御山神鴉 この山の宮居と去らで幾年か棲る鴉の番ひ離れぬ 輝光

△有浦客船 繋ぎ寄る便や有の浦波にとまり定むる船を數添ふ 公良

廣島案内記附録

(括弧内は總資本金額なり)

中島新町	銀行	營業	(六十萬圓)	株式會社	廣島銀行
塚本町	同	同	(二十萬圓)	同	同
同	同	同	(六萬圓)	同	同
中島新町	同	同	(六萬圓)	同	同
平田屋町	同	同	(五萬圓)	同	同
尾道町	同	同	(百萬圓)	同	同
十日市町	同	同	(十萬圓)	同	同
西地方町	同	同	(百萬圓)	同	同
同	同	同	(五萬圓)	同	同
同	同	同	(五萬圓)	同	同
銀山町	取引	營業	(五萬圓)	同	同
大手町	銀行	營業	(三百萬圓)	同	同
中島本町	同	同	(百萬圓)	同	同
蟹屋村	綿絲	紡績	(六十萬圓)	住友銀行	廣島支店
塚本町	同	同	(二十萬圓)	同	同
段原村	電力	電燈供給	(廿五萬圓)	廣島電力電氣	株式會社
大手町	電燈	供給	(九萬圓)	廣島電燈	株式會社
舟入村	製油	業	(六萬圓)	廣島製油	株式會社
東松原町	運送	業	(六萬圓)	內國通運株式會社	廣島支店
袋井町	移民	取扱	(六萬圓)	海外渡航株式會社	株式會社

諸會社

廣島縣内記附錄

(括弧内は總資本金額なり)

袋	東	舟	大	段	塚	蟹	中	大	銀	同	西	十	尾	平	中	同	塚	中	
松	入	入	手	原	本	屋	島	手	山	山	地	日	道	田	島	本	島	島	
原	村	村	町	村	町	村	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町
移	運	製	電	電	同	綿	同	取	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
民	送	油	燈	力	力	絲	行	行	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
取	業	業	給	電	電	紡	營	營	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業
扱	業	業	給	給	給	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
(六	(六	(九	(廿	(二	(六	(百	(三	(五	(五	(百	(十	(百	(五	(六	(六	(二	(六	(六	(六
万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
海	內	廣	廣	廣	廣	中	住	合	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
外	國	島	島	島	島	國	友	名	尾	尾	廣	廣	山	廣	安	廣	廣	廣	廣
渡	通	製	電	水	水	紡	銀	會	道	道	島	島	陽	島	島	島	島	島	島
航	運	油	燈	力	力	績	行	社	貯	貯	米	米	縣	貯	貯	貯	貯	貯	貯
株	株	株	株	株	株	株	株	三	蓄	蓄	綿	綿	農	蓄	蓄	蓄	蓄	蓄	蓄
式	式	式	式	式	式	式	式	井	銀	銀	株	株	工	工	工	工	工	工	工
會	會	會	會	會	會	會	會	銀	行	行	式	式	業	業	業	業	業	業	業
社	社	社	社	社	社	社	社	行	廣	廣	取	取	業	業	業	業	業	業	業
社	社	社	社	社	社	社	社	廣	島	島	引	引	業	業	業	業	業	業	業
社	社	社	社	社	社	社	社	島	支	支	所	所	業	業	業	業	業	業	業
社	社	社	社	社	社	社	社	支	店	店	店	店	業	業	業	業	業	業	業
社	社	社	社	社	社	社	社	店	店	店	店	店	業	業	業	業	業	業	業
社	社	社	社	社	社	社	社	店	店	店	店	店	業	業	業	業	業	業	業

諸會社

宇品町	廣瀨村	廣瀨村	吉島村	宇品町	國泰寺村	平塚町	西新町	天神町	中島本町	嚴島	水主島	三川町	平田屋町	廣瀨村	吉島村	山口村	西新町	同新町	大手町
通行料徴收	度量衡製賣	綿布製賣	花籃製賣	生魚販賣	煉瓦製造	貸地貸家	貸地營業	印地營業	物品競賣	渡航營業	製鱈製賣	寸鱈製賣	生魚販賣	牛乳販賣	板紙販賣	醬油製賣	貸地營業	同地營業	牧畜並牛乳販賣
(四萬圓)	(三萬圓)	(三萬圓)	(三萬圓)	(一萬圓)	(三萬圓)	(六萬圓)	(六千七百圓)	(一萬圓)	(一萬圓)	(三萬圓)	(二萬圓)	(二萬圓)	(二萬圓)	(二萬圓)	(八萬圓)	(一萬圓)	(二萬圓)	(二萬圓)	(五萬圓)
廣島棧橋株式會社	廣島量衡器株式會社	廣島織物株式會社	廣島製物株式會社	宇品魚市株式會社	廣島煉瓦製造株式會社	廣島東榮株式會社	廣島衛生地株式會社	廣島印商株式會社	廣島渡航株式會社	廣島量衡器製造株式會社	廣島廣島油明株式會社	廣島廣島市合資株式會社	廣島廣島合資株式會社	廣島廣島合資株式會社	廣島板紙製造株式會社	廣島廣島醬油株式會社	廣島廣島地合資株式會社	廣島廣島地合資株式會社	中國牧畜合資株式會社

廣島省有名商店之内

服太もの

御用月小利類

京都白川染友仙物洋用花たぐの店

合身服類 天野清七

廣島市元町

宇品町	鍛冶屋町	廣瀨村	吉島村	宇品町	國泰寺村	平塚町	西新町	天神町	中島本町	嚴島	水主島	三川町	平田屋町	廣瀨村	吉島村	山口村	西新町	同新町	大手町一
通行料徴收	度量衡製賣	綿布製賣	花筵製賣	煉瓦製造	貸地營業	貸地營業	印地營業	物品競賣	渡航營業	製造販賣	寸燐製賣	生魚販賣	牛乳販賣	板紙製賣	醬油製賣	貸地營業	同地營業	牧畜並牛乳販賣	
(四萬圓)	(三萬圓)	(三萬圓)	(三萬圓)	(三萬圓)	(六萬圓)	(八千五百圓)	(一萬圓)	(一萬圓)	(三萬圓)	(二萬圓)	(二萬圓)	(二萬圓)	(二萬圓)	(五萬圓)	(八萬圓)	(一萬圓)	(二萬圓)	(三萬圓)	(五萬圓)
廣島橋	巴度量衡器	廣島織物	廣島製筵	宇品魚市	廣島煉瓦製造	廣島東榮	廣島衛地	廣島印地	廣島競商	廣島渡航	廣島量衡器製造	廣島廣島	廣島魚市	廣島合資	廣島板紙製造	合資廣島醬油	舟入貸地	第二舟入貸地	中國牧畜
株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社

廣島著名商店案內

(いろは順)

② 吳服太もの
御祝儀用小袖類

中貞吳服店

(電話架設中)

京都白川染友仙

浮田おたふく店

令吳服類

天野清七

京都本場織物珍品陳列

廣島市細工町(元安橋側)
やませ事

廣島市中島本町(住友銀行東隣)

廣島著名吳服商案內

◎現金正札付 ①吳服商店

廣島市東横町

廣島市ハリマヤ町

◎山吳服太物商 有末吳服店

現金正札附實着ノ親玉

美術刺意匠

廣島市中島本庄

◎半ゑり ② 志 ③ 保

帯あが、羽織ひも、帯×其他色々

木原商店

廣島市西横町

◎三吳服商 三戸吳服店

(電話番号貳百廿六番)

廣島著名菓子商案內

◎山川ビスケット 製造卸賣 弘法商會

西洋菓子各種

廣島市盤屋町

チン酒

◎大陽饅頭 小島商會

廣島市大手町七丁目

商號 名 月 堂

滋養卓絶之菓子

廣島市水主町(縣廳上)

◎三篠の浪 松本松聲堂

◎賣捌所は全國到る處にあり最寄にて御求めあれ
◎近來類似品多し登録商標及堂名に御注意あれ

廣島市革屋町

◎廣島饅頭 山陽堂

有末支店

◎ビスケット製造販賣 三村寒月堂

廣島市大手町五丁目

佳味に富み滋養多く且貯藏して風味するの憂なし

廣島著名履物商案內

◎履物卸問屋
宮下駄手販賣

廣島市堺町一丁目

◎佳 小畑榮三郎
住新事

廣島品評會に於て
壹等金牌受領

履物卸商

◎の 香川幾次郎
廣島市堺町一丁目

◎桐下駄
荒塗 臺直 各種

花緒表向掛類
雪蹈麻裏表附

履物卸問屋

因 阪本龜助商店

廣島著名油商案內

◎諸油びん附商

廣島市塚本町(八百才事)

良品廉價ハ弊店ノ特色
宮田商店

◎諸油びん附類製造所

◎井東京雀形丸鬚特約一手販賣元

◎直輸入石油内國製石油

登淡香油
品出輸 商標

菊の露本舗松

本油店
(電話番號二百卅一番)

◎諸油鬻附
根駒やまと炭

廣島市堺町一丁目

三 東商店

廣島著名漆器商案內

◎漆器商◎嫁入道具一式

廣島市猫屋町(十日市筋)

三 横田 彌八

◎漆器卸問屋並專賣火吹具發賣元

廣島市猫屋町(十日市筋)

三 横田 菊藏

◎漆器商吉嫁入道具一式

廣島市塚本町

保田 虎次郎

◎各國漆器商並二指物類種々

廣島市堀町一丁目

◎支店 保田 謙吾

廣島著名小間物商案內

◎東京安藤井筒堂シカゴ産象印齒磨特約店

廣島市東横町

萬小間物卸問屋加鳴谷 喜兵衛

(電話番號百廿二番)

廣島市平田屋町

◎萬小間物卸商 田村 利兵衛

并田村洗粉製造元

廣島市中島本町

◎東京美術東小間物類珊瑚朱玉其他種々 木原 廻角店

◎貴婦人用高等美術萬小間物東京履物

廣島市中島本町

中島本町

同西横町

望月てんぐ本店
望月てんぐ支店

廣島著名洋酒商案內

●洋酒類食料品問屋

廣島市西紙屋町
長崎

金升堂
(電話番號百十七番)

廣島市大手町七丁目

●福神漬製造元 竹林堂

廣島重要物産品評會ニ於テ貳等賞銀牌受領

廣島市材木町

●洋酒罐詰問屋 加藤商店

廣島著名鐵工所案內

●諸器械鑄造 井ニ仕上共

●建築土木用鑄物一切

廣島市西引御堂町

成田鑄造場

●造船並ニ海陸用 諸汽機器械類製造

廣島市宇品町

黒川鐵工所
(電話番號百貳拾貳番)

●諸器械製造販賣
トシデース製造

廣島市盤屋町

淺野間鐵工場

廣島著名木杯商案內

◎凱旋紀念金銀木杯調進所

廣島市斜屋町

久保田榮三郎
(電話番號二百八番)

◎凱旋紀念金盃調進
金銀木盃徽章
本社
廣島市斜屋町流川角

廣島市針屋町

◎凱旋紀念杯調進
出雲屋本店
山縣元兵衛
(電話番號貳百五拾七番)
神社佛閣用具

陸軍用達部

廣島市下流川町

山縣支店
子ギヤ町南へ入

廣島著名賣藥商案內

◆解熱散
調注 胃入液散
藥劑師 石井勇吉
廣島市大手町二丁目
海龍堂事

◎源 根切藥
ひる下し
りんひよう
じようかち
廣島市猿樂町
筒井源吉
細工町突當河側の分

◎賣藥卸問屋 福井成美
商標
廣島市播磨屋町
千金丹 舖本

◎有名賣藥卸問屋 赤松又四郎
順山三日散發行本舖
廣島はりまや町

◎藥品醫療器械 商宮崎與三郎
廣島市塚本町
野上屋事

◎藥種問屋 森本爲八
廣島市華屋町
井工業用器
本通り四四番

廣島著名酒醬油商案內

◎酒類釀造

廣島市京橋町
細屋事 保田

田酒店
(電話番號百參拾九番)

◎醬油釀造

廣島市京橋町
細屋事 保田

田醬油店
(電話番號百參拾八番)

◎酒類卸賣商

瓶詰
甲ビール

廣島市大手町二丁目
橋本

商店

其醬油製造業

廣島市猿樂町

岩崎商店

◎清酒山の井釀造元

廣島市京橋町

松井酒造店

全醬油製造業

廣島市塚本町

海塚商店
(電話番號百參拾七番)

廣島著名商店案內

命萬縫紋上繪綵紋掛繼

廣島市大手町一丁目

中村屋

各種調革製造販賣

廣島市下柳町八拾七番

廣島帶革製造所

◎銃砲火藥
藥種販賣

廣島市大溝町

渡邊佐兵衛

◎擊劍道具製造販賣

廣島市人手町一丁目

河内五郎

◎水晶 燭石 屬
牙角 竹木
金屬ゴム判
並印材販賣

彫刻處

廣島市革屋(本通南側)

加藤錦泉堂

廣島著名商店案內

廣島市大手町一丁目

傘柳行李卸商 多田商店

廣島市鉄砲町

西洋家具製造所 中瀬商店

廣島市平田屋町

筆墨 卸小賣商 田坂文榮堂

諸建具、屏風、軸物 廣島市紙屋町(車屋町筋)

文具 柳田倉三

衝立、額面、衣桁類 表具、金銀箔おし

手ぐす 製造販賣港 谷商店

廣島市大手町六丁目

廣島著名料理商案內

廣島市西本川新橋々詰

田舎御料理 新橋樓

本店の生洲は四時消らかなる本川の流れにかゝり船亦新たなり

廣島市大手町四丁目

かしわ御料理 松月庵

廣島市段原村字比治山東浦

南禪寺豆腐 壽老園

并ニ改良料理 富永別荘

御手輕會席 元安樓

廣島市中島本町(天神町筋)

衛生料理 泡雪豆腐 水月樓

廣島市中島本町(慈仙寺鼻)

廣島著名料理商案內

◎御料理

廣島市小網町

長

(電話番號八拾五番)

◎宴會料理

婚儀不祈儀料理仕止シ
廣島市坂下二丁目
其外別烹調好次第

濱

上

保

◎西洋料理

廣島市疊屋町

萬

歲

軒

◎西洋料理

廣島市立助

岡

本

◎御料理

廣島市大手一丁目

田

每

庵

◎會席

廣島市鳥屋町

山

文

(電話番號百十九番)

廣島著名時計商案內

◎各國時計卸小賣米原時計店

廣島市中區本町

原

時

計

◎品各種販賣

廣島市東區本町

久

野

商

◎自轉車

廣島市中區本町

中

谷

商

◎各國時計商

廣島市平田區町南

後

藤

商

◎時計商

廣島市細工町

財

間

時

◎各國時計商

廣島市西區引御堂町

平

田

時

計

店

廣島著名商店案內

舶來雜貨商

廣島市東橫町
壬生儀三郎
日新堂

東京囊物類
獨逸眼鏡類
術品類大勉強販賣
及金銀美
自轉車

廣島市西橫町

勝田林之助

(電話番號六拾二番)

廣島發車時間表

出港時間	下行列車						上行列車						廣島發車時間
	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
午後一時													午後一時
午後二時													午後二時
午後四時													午後四時
午後七時													午後七時
午後九時													午後九時
午後十一時													午後十一時
午後三時													午後三時
午後四時													午後四時

廣島著名商店案內

登録商標



マールナオイル
ハルハル
生直助ケ
ヲ生直助ケ
逸品ナリ

御代ノ譽ハ
髮ヲ黒クシ
光澤ヲ出ス
良品ナリ

登録商標

進歩
梳油



登録商標

純白
芳香



美人香油ハ
髪ノ粘ル事
ナク悪臭ヲ
発スル憂ナ
キ佳品ナリ

廣島市堀川町

製造元 中忠商店

廣島著名商店案內

●金庫は東京竹内善次郎製 特約
●大阪日之出商會製
●人力車は御自用並學業用種々

廣島市天神町

金庫 人力車 商店
熊平商店

●籐小供車は品物丈夫直段廉價
●時金函葉書入等販賣
●專賣特許秘密函竹善錠

廣島著名商店案內

賜

內國勸業大博覽會
第一二三四回
有功賞及褒狀
廣島市鬚附品評會
廣島市鬚及金牌
廣島市製產品評會
廣島市製產品評會
等賞及金牌



びん

弊店製造ノ鬚附ハ
毛髮ノ衛生上有功
無害ノ良品ニシテ
裝飾亦新ナルヲ
以テ御進物用ニ適
セリ

廣島市堀川町

製造元



中忠商店

明治三十四年十二月十八日印刷
明治三十四年十二月廿一日發行

定價 金貳拾錢

廣嶋縣士族

著作兼 廣嶋縣士族
發行者 林 保 登

印刷者 繁 岡 政 吉

廣嶋市尾道町一三六番

發行所 東 瀛 社

廣嶋市小町一三七番

印刷所 繁 岡 活 明 館

廣嶋市尾道町一三六番



本書ハ勸工場停車場其他各地書肆並廣島物産店ニ於テ販賣ス